

# 中江兆民『三酔人経綸問答』稿本について

谷川 恵一

\*キーワード

中江兆民・三酔人経綸問答・稿本

国文学研究資料館所蔵の『三酔人経綸問答』稿本は、明治二〇年五月に集成社より刊行された同書の草稿であり、兆民による推敲の跡が残る、研究上きわめて高い意義を有する資料である。

本稿は、この稿本の書誌について報告するものであり、あわせて、その翻字および刊本等との異同を付す。なお、国文学研究資料館の近代書誌・近代画像データベースにおいて稿本の全文の画像が公開されており、参照されたい。

## 【概要】

稿本は二冊からなり、厚紙の外側に紺色の布を貼った帙に収められている。帙には「三酔人経綸問答 中江篤介稿本」と墨書した題簽が貼られている。

稿本は、草稿が書かれた半紙を二つ折りにして袋綴じたものである。袋綴じの内側に、本文が書かれた半紙よりやや厚手の半紙を二つ折

りしたものを入れている。

二冊の稿本は、それぞれ明るい茶色の表紙が施され、四つ目綴じされている。表紙のサイズは縦24cm、横16cm。表紙には、帙の題簽と同じ筆跡で、「三酔人経綸問答 中江篤介 稿本 上」・「三酔人経綸問答 下」と墨書された題簽がそれぞれ左上に貼られている。

上冊の表紙は、元からこの草稿に付されていた表紙の上に貼り合わせたものである。本文と同じ半紙の元表紙には、「明治二十年二月上旬起業／三月下旬卒業／三酔人経綸問答」と墨書されている。

稿本には蔵書印は捺されておらず、旧蔵者による書き入れもない。

草稿は、全部で114丁あり、そのうち冒頭からの40丁を上冊とし、続く74丁を下冊としている。下冊の冒頭には、何も書かれていない半紙一丁が挿入されている。下冊に収められた草稿の最初の二丁は、左端のみ綴じている。

草稿は、無野の半紙に、20字を1行として1丁につき20行、細筆で墨

書されている。

草稿には丁付けは施されていないが、草稿の各丁の左下にはアラビア数字で通し番号が墨書されていると推定される。その一部は、下冊末尾のノドに確認することができる。

草稿は、やや行書がかった楷書で丁寧な浄書されたものと、比較的無造作に書かれた行書の下書きとが混在する。上冊はすべて浄書よりなる。下冊のうち、42丁から74丁、83丁から84丁、90丁から97丁ウラ8行目までが浄書である。浄書は全部で約83丁あり、草稿全体の73%にあたる。

草稿の41丁、82丁、114丁は、別々の紙に書かれた草稿を切って継いだものである。41丁ウラ5行目と6行目、82丁ウラ9行目と10行目、114丁オモテの5行目と6行目のそれぞれの間で紙を継いでいる。また81丁オモテのノドに近い部分は寸足らずになっており、内側に入れた紙と草稿が貼り合わされている。

草稿には、浄書と下書きのいずれにも、本文に手を加えた跡が残っている。現在までに確認されている兆民の草稿で、これほど推敲の跡が残っているものは他にない。

草稿は、刊本と比較すると末尾の600字足らずを欠いており、また、その他にも刊行されるまでに補われた箇所があるが、全体としては、ほぼ最終稿に近いものである。末尾以外には、刊本70頁6行から72頁5行まで、105頁1行から同4行まで、および135頁3行から136頁5行までに相当する箇所が、本草稿では欠落している。刊本にある目次と眉批も草稿に

は見られない。

『三酔人経綸問答』の草稿には、本稿本とは別に、高知の島崎健氏が所蔵される一葉がある。刊本の135頁3行から136頁5行までに相当する箇所の草稿であり、草稿に残っている染みの形状からみて、この草稿は、もとは、該当する本草稿の下冊の113丁と114丁の間に挟み込まれていたと推定される。

### 【草稿の書き手】

本草稿のうち、下書き部分は、著者である中江兆民自身によって墨書されたものである。天理図書館に所蔵される兆民の『理学沿革史』自筆草稿と筆跡が同一であると認められることから、そのように判断してよい。『理学沿革史』草稿には、「復」「族」「複」「腹」などの字の〈二〉の部分で〈口〉あるいは〈ム〉とする兆民独特の書き癖が見られるが、それが本草稿の下書き部分においても確認できる。『理学沿革史』は、明治19年2月と4月に刊行されたアルフレッド・フイエーの『哲学史』の翻訳で、十四冊の草稿が残されている。行書で書かれたこの草稿は下書きであり、兆民による浄書者への指示が書き込まれている。この草稿は、『三酔人経綸問答』と同じく、一丁につき二十行、各行二十字という体裁で、やはり細筆により墨書されている。

本草稿の浄書部分における推敲によって書き込まれた箇所も、同様に兆民によって書かれたものと認められるが、浄書部分を書いたのが兆民であるか否かは、筆跡の上からはわかに判断できない。

下書きではなく浄書された兆民の自筆草稿としては、明治八年に書かれた『策論』がただ一つ残っている。『策論』は、西郷隆盛を押し立てて日本の政治の方向を大きく変えようという島津久光への献策の草稿であり、松永昌三氏により発見され、現在は高知市立自由民権記念館に所蔵されている。島津久光に提出するため草稿段階においても浄書されたと思われる、行書がかった楷書で書かれている。いっぽうに、字体の規格化が進んでいる楷書においては書き手による特徴は見出し難く、この『策論』と『三酔人経綸問答』の草稿の筆跡の比較においてもそうしなことがいえる。よそ行きの楷書では、行書にくらべ書き手の個性があらわれにくいのである。

ただ、それでも、『三酔人経綸問答』草稿の下書き部分と『理学沿革史』草稿に共通して見られた「復」字の特徴的な書きぶりは、『策論』に二例ある同字の筆跡にも見られるだけでなく、『三酔人経綸問答』の浄書部分の「復」字についても、それらと同一の字体ではないものの、「へ」の部分に共通した傾向を見て取ることができる。同字の「イ」の書き方の特徴（「イ」の「イ」の部分へ「く」のように書くこと）も、浄書と下書きとで一致しており、こうしたことからすると、浄書もまた兆民によって書かれたとみなしてよいと思われるが、そのためには他の字を含めたさらに全般的な検討が必要となろう。

### 【草稿の成り立ち】

先に指摘したように、刊本にあつて稿本には欠けている箇所が、末尾

を除き三箇所あるが、そのうち、「国内の丁壮を挙げ彼大邦に赴き」一挙に富国となつて「泰西諸国と雄を競ふ」という豪傑君の「第一策」が記された105頁1行から同4行までの三行ほどのくだりは、本草稿の成り立ちを考える上で重要な意味をもつ。草稿の42丁から97丁の間に二箇所ある下書き部分のうち、後者にあたる85丁から89丁が終り、再び浄書された90丁へと接続するまさにその箇所に、この「第一策」が補われることになるからである。草稿の90丁は、いたずらに「旧規」にこだわらず「文明」への進路を阻もうとする「恋旧元素」を一時に取り除いてしまふ「第二策」について書くところから始まるから、「第一策」について記すことを失念している本草稿は、このままでは完成したものであるとはみなしがたい。本草稿の元表紙に「明治二十年二月上旬起業／三月下旬卒業」と書かれている「三月下旬」に出来上がった草稿は本草稿そのものではない。

本草稿の、84丁から90丁にかけては、もと豪傑君の「第一策」について記した箇所を持つ一つながりの浄書された本文であったのだが、それを切り取って削除し新たに書き足した下書きでつないだことで、「第一策」についての記載が本草稿から失われたのだと思われる。この箇所に続く浄書部分の90丁の3行目にあった「分子」ということばが、挿入された下書きに登場する「恋旧元素」といういいまわしに改められていることも、こうした推測を補強する。

本草稿で用いられた「元素」ということばは、21丁ウラからの進化を説明したくだりの原始的な動物が外部の「元素社会」の刺激を受けて複雑な身体組織を作り出していくことを述べた一節、および44丁ウラの訂正

前の箇所「天下太平四海慶福ノ元素」とある例を除き、すべて下書き部分か浄書を推敲した部分に出現する。豪傑君の「恋旧好新」の「二元素」という規定が初めて登場するのは76丁オモテの下書き部分であり、97丁末尾からの下書き部分でも、豪傑君の発言の中に顔を出す。

「第一策」をめぐる推測をこうした「元素」ということばの用いられ方をからめて敷衍すると、本草稿の97丁まではもと一つながりの浄書であつたという推定が成り立つように思われる。いったん97丁までの浄書稿が作成されてから、なお推敲が継続されたのであろう。

ただし、ではこの作成された浄書稿を「三月下旬」に出来上がった草稿とみなしてよいかなと、ことはそう簡単ではない。97丁までだとすると、大国をわがものにするという豪傑君のプランが語られたところで終ることになり、続いて洋学紳士と豪傑君の応酬を聞いていた南海先生が自分の意見を述べるくだりが抜け落ちてしまう。これでは、南海先生の意見を質すとしていた冒頭の措辞が宙に浮いて、『三酔人経綸問答』が完結したとみなすことはできないからである。

『三酔人経綸問答』執筆をめぐるのは、「近々鄙著之論有り卒業之上ハ又々公平之高評是希望」という明治二〇年三月一〇日付の兆民の徳富蘇峰宛書簡が知られており（『中江兆民全集』第十六巻）、ここでいわれていることは、「明治二十年二月上旬起業／三月下旬卒業」という本草稿の元表紙の記載と符合している。「二月上旬」に最初の下書きが書き始められた『三酔人経綸問答』は、蘇峰に予告したように、「三月下旬」には出来上がっていたと考えられるのだが、それは、下書き部分を補う推敲を経る

前の97丁までの浄書稿に、最後の南海先生の意見を下書きのかたちで書き継いだものではなだろうか。

草稿の97丁はウラの8行目までで浄書部分が終り、すぐに続けて下書きの部分となる。それ以降の下書きの部分のみでゆくと、もとは続いていた103丁ウラと108丁オモテの間に4丁分を補っていることや、111丁ウラの末尾は削除された別の下書きに続いていたことなど、兆民による推敲の痕跡を確認することができる。したがって、南海先生の意見が本草稿とは異なっている可能性があるものの、「三月下旬」の時点でいちおうの完結はつけられていたとみなすのである。

こうしたやや強引な推測を重ねるのには理由がある。兆民は、『三酔人経綸問答』の「稿本」をフランス留学時代からの知友である井上毅に見せており、わざわざ草稿を浄書していることとこのことは無関係ではないと考えられるからである。

兆民が井上に「稿本」を読ませたことは、蘇峰の回想にでてくる。

明治二十年の頃かと覚ゆ、一日兆民居士と井上梧陰先生の邸に会す。先生君の「三酔人経綸問答」の稿本を繕き、且つ読み且つ評して曰く『面白き趣向なり、併し素人には、解からぬ。とても「佳人の奇遇」程には売れざる可し』と。果して其の言の如かりし。（『中江兆民』、『漫興雜記』明治三二・一二）

最初から井上に読ませるつもりだったのかどうかはわからないが、兆民があえて謹直な書きぶりの浄書をこしらえたのは、出版する前に他人に読んでもらうためであり、そうした兆民の意図が、蘇峰も同席した井

上邸訪問となって実現したのである。本草稿の下書き部分がとてもそのまま他人に見せるようなものではないことからすると、井上が手にした「稿本」は、推敲を経る前の97丁までの浄書稿か、または、本草稿に基いて改めて浄書した最終稿のどちらかであろう。前者の場合、まだ完成していない「稿本」を三月十日から下旬の間に井上が読んだことになり、後者の場合、四月上旬から『三酔人経綸問答』を刊行するために印刷所に原稿を渡すまでの間となる。『三酔人経綸問答』が刊行されたのは五月下旬であるから、この場合、長く見積もってもせいぜい一か月足らずの期間内ということになる。上限を四月上旬以降とするのは、その時期までに最終稿は出来上がっていないと考えられるからである。

『三酔人経綸問答』の冒頭部分（本草稿では10丁オモテ5行目までの部分）は、単行本の刊行に先立ち、四月一日に刊行された『国民之友』第三号に「酔人之奇論」と題して掲載されている。もし「酔人之奇論」の原稿を民友社に送った時点で最終稿となる本文が出来上がっていたのなら、それは単行本の本文と一致するはずだが、両者は同じではない。

たとえば、本草稿の5丁ウラ1行目から3行目にかけて、推敲前の本文「自由ハ軍隊ナリ艦隊ナリ平等ハ要塞ナリ友愛ハ剣砲ナリ我レ専ラ我堡壘ヲ恃ミ」は「酔人之奇論」と同じだが、推敲後の本文「自由ヲ以テ軍隊ト為シ艦隊ト為シ平等ヲ以テ要塞ト為シ友愛ヲ以テ剣砲ト為ストキハ天下豈当ル者有ラン哉若シ然ラスシテ我レ専ラ我堡壘ヲ恃ミ」は単行本のそれと一致する。『国民之友』の原稿を送って以降も推敲が継続されているのである。「酔人之奇論」と同じ『国民之友』第三号に載っている

「時事評論」欄の記事に「四月七日脱稿」と書き添えられていて、このあたりが「酔人之奇論」の原稿を送るリミットとなる。

なお、「酔人之奇論」掲載に際して「国民之友記者」の名で蘇峰が付した前書きには、「左の文章は中江篤介君の稿にして題して『三酔人経綸問答』と云ふ」とあり、その内容を紹介した中で、洋学紳士と豪傑君の議論の後に南海先生が両者の「中間の位置に立ち情理兼臻るの素論を吐くくぐりに言及している。井上邸で「稿本」が読まれたのに立ち合ったから蘇峰がこう述べることでできたのか、それとも兆民に告げられた事柄を取り次いでいるのか、いずれとも決めがたいが、『三酔人経綸問答』の全文の内容は、本文の推敲が継続されているかどうかにかかわらず、蘇峰がこのように書いた時点でほぼ固まっていたのである。

本草稿には、明治二〇年の二月上旬に書き始められ、四月にかけて推敲を重ねて書き進められていった『三酔人経綸問答』執筆のプロセスが、さながら地層のように保存されている。

### 【翻刻凡例】

一、草稿の翻刻に当たっては、推敲の過程をたどることができるように、墨により消された本文を復原し、語句の挿入位置を示すための線を残すなど、できるだけもとの形をとどめるよう配慮したが、一部、組版の都合でもとの形を改めた箇所がある。国文学研究資料館が公開している草稿の画像を参照されたい。

一、抹消された語句や本文については、判読の便を考慮して、一部を

除き、語句や本文の上に線を引き抹消されたことを示すことをしなかった。草稿では、語句を訂する場合、もとの行の右傍に新たな語句を書き込み、さらにそれを改める場合は語句の左傍に書き込んでいたので、本行の左右に書き込みがある場合は、最終的には左傍の語句が残ることになる。

一、翻刻に際しては、一般のコンピュータが使用している範囲内で、できるだけ草稿に用いられた字体に近い字体を用いた。合字はすべて「コト」「トキ」「トモ」などに改めた。

### 三醉人經綸問答

南海仙漁 著

「1才」

南海先生性酷タ酒ヲ嗜ミ又酷タ政事ヲ論スル  
コトヲ好ム而シテ其酒ヲ飲ムヤ僅ニ一二小瓶ヲ醺  
ス時ハ醺然トシテ酔ヒ意氣飄搖トシテ大虚ニ  
游飛スルカ如ク目怡ヒ耳娛ミ絶テ吾界中憂苦  
ナル者有ルヲ知ラス更ニ飲ムコト二三瓶ナレハ  
心神頓ニ激昂シ思想頻ニ空湧シ身ハ一斗室ノ  
中ニ在ルモ眼ハ全世界ヲ通觀シ瞬息ノ間ヲ以  
テ千歳ノ前ニ溯リ千歳ノ後ニ跨リ世界ノ航路  
ヲ指示シ社會ノ方計ヲ講授シテ自ラ思フ我ハ  
是レソハ人類處吾ノ道ノ指南車ナリ世ノ政事的ノ  
近眼者力妄ニ水先案内者ト爲リ其船ヲ導キテ  
或ハ礁ニ觸レシメ或ハ沙ニ膠セシメ自ラ禍セ  
シ人ニ禍ヒスルコト実ニ憫レム可キノ至ナリト  
然レトモ先生身ハ斯吾界ニ在ルモ心ハ常ニ藐姑  
射ノ山無何有ノ郷ニ游フカ故ニ其説ク所ノ地  
誌其述ル所ノ歴史ハ斯社会ノ地誌歴史ト唯名  
称ヲ同クスルノミニシテ事實ハ往々齟齬スル  
コトアリ但先生ノ地誌ニモ氣候寒冷ノ邦有リ温  
煖ノ邦有リ强大ノ国有リ弱小ノ国有リ文明ノ

「1ウ」

俗有り野蠻ノ俗有り其歴史ニモ治有り乱有り  
盛有り衰有りテ極テ斯吾界ノ地誌歴史ニ切當  
スルコトモマ<sup>(間)</sup>之有り又更ニ飲ムコト二三瓶ナ  
レハ耳熱シ目眩ラミ腕奮ヒ趾揚カリ発越飛騰  
シテ其末ヤ昏倒シテ前後ヲ知ラス<sup>(既ニシテ)</sup>夫レヨリ二  
三時間睡眠シ酒醒メ夢回ヘル時ハ凡ソ醉裡ニ  
言ヒシ事又ハ為セシ事ハ一掃シテ痕迹ヲ留ル  
ナク俗ニ所謂狐<sup>(愚)</sup>夢ノ落タルニ似タリ先生ノ知  
人又ハ先生ノ人ト為リヲ傳聞スル者先生醉裡  
ノ奇論ヲ聴クカ為メ酒一樽肴一籠ヲ携ヘ先生  
ノ廬ヲ訪ヒ共ニ觴ヲ舉ケ七八分ノ醉ヲ覘フテ  
故ラニ邦家ノ務ヲ話出シ先生ノ説ヲ釣リ出シ  
テ一時ノ樂ト為ス者往々之有りテ先生モ亦少  
ク自ラ省知セリ因テ<sup>(念)</sup>フニ吾レ近日又邦国ノ  
事ヲ説話スル時ハ痛ク醉ハサルノ前ニ於テ其  
中緊要ノ條項ハ一々記シ置キ他日再ヒ取ザシ  
敷演シテ一篇ノ冊子ヲ綴成スル時ハ或ハ自ラ  
樂ミ人ヲ娛マシムルコトヲ得ン然リ然リト此頃<sup>近日</sup>  
□霖雨<sup>(開カス情意鬱陶ト)</sup>打続キ連日<sup>(極テ)</sup>鬱陶トシテ不快云ハンカヤ<sup>(濛々トシテ)</sup>  
無ク適々一日先生酒ヲ呼ビ独酌シテ既ニ夫ノ  
醺然歩虚ノ境界ニ至リタル折柄兩人ノ客有り  
金斧ト号スル洋火酒ヲ齎シテ至レリ先生未タ

〔2オ〕

一面ノ識有ラス又其名姓ヲ知ラサルモ其洋火  
酒ヲ一見スルヤ早已ニ二三分ノ醉ヲ増タル心  
地セリ其一人ハ冠履被服並ニ洋装ニテ鼻目俊  
爽ニ軀幹頗秀ニ舉止発越ニ言辭明辨ニシテ定  
テ是レ思想ノ囿中ニ生活シ理義ノ空氣ヲ呼吸  
シ論理ノ直線ニ緝フテ前往シテ實際迂曲ノ途  
路ニ由ルコトヲ屑シトセサル一個ノ理學士ナル

〔3ウ〕

〔2ウ〕

ヘシ今一人ハ丈高ク腕太ク面蒼ク目深ク飛白  
ノ套ヤ短後ノ袴ヤ一見シテ其偉大ヲ好ミ奇險  
ヲ喜ビ性命ノ重ヲ餌ニシテ功名ノ樂ヲ釣ル豪  
傑社會ノ人種タルヲ知ル可シ坐定マリ礼畢リ  
徐ニ彼洋火酒ヲ傾ケ賓主献酬シテ漸ク佳境ニ  
入ルニ及ヒ先生輒チ一人ノ客ヲ呼テ紳士君ト  
称シ今一人ヲ呼テ豪傑君ト称シテ其名姓ヲ問  
ハス客モ亦笑フテ敢テ噴ラス頃アリテ洋学紳  
士遽ニ云ケルニ僕久ク先生ノ高名ヲ聞ケリ先  
生ノ學東西ヲ該ネ先生ノ識古今ヲ串クト僕モ  
亦宇内ノ形勢ニ於テ竊ニ看破スル有り願クハ  
先生ニ就テ一タヒ之ヲ質スコトヲ得ン

〔4オ〕

嗚呼民主ノ制度ナル哉民主ノ制度ナル哉君相  
專擅ノ制ハ愚昧ニシテ自ラ其過ヲ覺ラサル者  
ナリ立憲ノ制ハ其過ヲ知りテ僅ニ其半ヲ改ム

〔3オ〕

ル者ナリ民主ノ制ハ磊々落落トシテ過テハ輒  
チ改メ益々善ニ進ム者ナリ

歐洲諸國ハ既ニ自由平等友愛ノ三大理ヲ覚知  
シナカラ何故ニ民主ノ制ニ循ハサル者多キニ

居ル乎何故ニ極テ道德ノ義ニ反シ極テ經濟ノ

理ニ背キテ國財ヲ蠹蝕スル數十百萬ノ常備軍

ヲ蓄ヘ浮虚ノ功名ヲ競フテ相共ニ屠軻セシム

ルヤ文明ノ運ニ於テ後進ナル一小邦ニシテ頭

ヲ昂ケテ亜細亞ノ邊陲ヨリ崛起シ一蹴シテ自

由友愛ノ境界ニ跳入シ堡壘ヲ夷ラケ煩轍ヲ鎖

シ艦ヲ船ニシ卒ヲ人ニシ專ラ道德ノ學ヲ究メ

工伎ノ術ヲ講シ純然理學的ノ兒子ト成ルニ於

テハ彼文明ヲ以テ自ラ夸ル歐洲諸國ノ人士ハ

能ク心ニ愧ルコト無キ乎彼レ或ハ兇頑ニシテ心

ニ愧サルノミナラス我レノ兵備ヲ撒スルニ乘

シ悍然トシテ来寇スル時ハ我倂尺寸ノ鏑ヲ帶

ヒス一粒ノ彈ヲ挾サマス迎ヘテ之ヲ礼セハ彼

レ果テ何事ヲ為ス可キ乎劔ヲ揮ツテ風ヲ斬ラ

ンニ劔如何ニ銳利ナルモ風ノ飄忽茫漠タルヲ

奈何セン我レ其レ風ト為ラン哉

弱小ノ邦ニ據リテ強大ノ邦ト交ハル者ハ彼レ  
ノ萬分ノ一二モ足ラサル有形ノ腕力ヲ奮フハ

#### 〔4ウ〕

鶏卵ヲ巖石ニ投スルト一般ナリ彼レ文明ヲ以  
テ自ラ夸レリ然レハ則チ彼レ固ヨリ文明ノ原  
質ナル良心無キノ理有ラス然レハ則チ我小邦  
タル者何ソ彼レノ心ニ慕フテ未タ履行スルコト

能ハサル無形ノ理義ヲ以テ兵備ト為サル乎自  
由ハ軍隊ナリ艦隊ナリ平等ハ堡塞ナリ友愛ハ  
劔砲ナリ我レ專ラ我堡壘ヲ恃ミ我劔砲ヲ恃ミ

我兵衆ヲ恃ム時ハ彼モ亦其堡壘ヲ恃ミ其劔砲  
ヲ恃ミ其兵衆ヲ恃ムカ故ニ其堡壘最固キ者劔

砲最利ナル者兵衆最多キ者必ス勝ヲ得ンノミ

是レ算數ノ理ナリ極メテ明白ノ理ナリ何ソ苦

ミテ此明白ノ理ニ抵抗スルコトヲ試ムル乎彼レ

果テ兵ヲ引テ敢テ我邦ニ来リ據ラン乎土地ハ

共有物ナリ彼レ居リ我レ居リ彼レ苗リ我レ苗

マラン何ノ葛藤カ有ル乎彼果テ我田ヲ奪

フテ耕シ我屋ヲ奪フテ入り或ハ重税シテ我ヲ

苦ムル乎忍耐力ニ富ム者ハ之ヲ忍耐センノミ

忍耐力ニ富サル者ハ各々自ラ計ヲ為サンノミ

我レ今日甲ノ國ニ居ル故ニ甲國人ナリ我レ明

日乙ノ國ニ居レハ又乙國人ナランノミ大劫會

ノ期未タ至ラスシテ我人類ノ故郷タル地球猶

ホ生活スル間ハ世界萬國皆我宅地ニ非ス乎

#### 〔5オ〕

#### 〔6オ〕

#### 〔5ウ〕

嗚呼彼レ無礼ニシテ我レ有礼ニ彼レ非理ニシテ我レ理ニ合シ彼レノ文明ハ野蠻ニシテ我レノ野蠻ハ文明ナリ彼レ怒リテ暴ヲ肆マ、ニシ我レ笑フテ仁ヲ守ランニハ彼レ果テ我ヲ奈何センブラトンヤ孟軻ヤスペンセルヤマルブランシヤアリストットヤウイクトルニユゴーヤ我ヲ何ト謂ハン乎宇内萬國ノ士傍觀スル者之ヲ何ト(ノエノ)謂ハン乎大降水以前ハ知ラス大降水以後未タ此ノ如キ先例有ラサルハ真ニ怪ム可キ哉何ソ我ヨリ古ヲ為サル乎

豪傑ノ客ハ是言ヲ聞キ洋學紳士ニ向フテ曰ク君ハ狂セシニ非サル乎狂セリ狂セリ六尺男兒百千萬人相聚リテ一國ヲ為シナカラ一刀刃(ヲ報セス)彈丸ヲ報酬(ヒ)□スシテ坐ナカラ敵寇ノ為ニ奪ハレテ敢テ抗拒セサルトハ狂人ノ所為ニ非ス乎僕ハ幸ニ未タ狂セス先生モ亦狂セス他ノ同國人モ亦狂セス何ソ紳士君ノ言ノ如ク、、、南海先生笑ツテ曰ク豪傑君姑ク之ヲ待テ紳士君ヲシテ其論ヲ畢ラシメヨ

豪傑ノ客モ亦笑ツテ曰ク唯

洋學紳士又云ヒケルハ凡ソ政事家ヲ以テ自ラ任スル者ハ皆政理の進化ノ神ヲ崇奉スル僧侶

〔7ウ〕

ト謂フモ可ナリ果テ然ラハ独リ意ヲ現前ニ注クノミナラス亦心ヲ將來ニ留ム可キナリ何ソヤ彼進化神ハ進ムコトヲ好ミテ退クコトヲ好マスシテ其進往スルニ方リ幸ニ道路坦直ニシテ清潔ナル時ハ大ニ善シ即ち巖(石)□凸立シテ輪ヲ礙ヘ荆棘茂生シテ蹄ヲ没スルコト有ルモ夫ノ進化神ハ略ホ沮□スルコト無ク更ニ益々奮激シ趾ヲ舉ケテ一蹴シ踏藉シテ顧ミスシテ頑迷ナル人(民)類カ相共ニ腦ヲ裂キ肝ヲ破リ街衢上血ヲ湛(ハテ)□所謂革命ノ活劇ヲ演スルニ(ニ)ルニ至ルモ夫ノ神ハ当然ノ結果ナリト看倣シテ略ホ之ヲ怯ル、コト無シサレハ身ヲ以テ夫ノ神ニ奉事スル政事家ノ僧侶タル者ハ當ニ務テ豫メ巖石ヲ去リ荆棘ヲ除キ夫ノ神ヲシテ威怒ヲ奮フコトヲ要セサラシム可シ此レ進化宗僧侶ノ本分ノ職ナリ(巖石トハ何ソヤ平等ノ理ニ反スル制度是ナリ荆棘トハ何ソヤ自由ノ義ニ戾ル法律是ナリ)

英王查理第一ノ時佛王路易第十六ノ時宰相大臣政柄ヲ秉ル者眼ヲ豁シ胸ヲ洞シ早ク時勢ヲ察シ豫メ世運ヲ料リ夫ノ進化神ノ為ニ道路ヲ掃滌スルコトヲ知りシナラハ何ソ必スシモ禍乱ヲ醸出スルニ至ラン顧フニ英國ノ事ハ其以前ニ於テ鑒戒スル所無クシテ畢竟創始□屬セシカ故ニ政綱ヲ執ル者豫メ備ヲ為スコトヲ省知セ

〔8オ〕

〔7オ〕

〔8ウ〕

スシテ敗衄ノ禍ヲ取リタルモ猶ホ頗ル恕ス可  
キ者有リ佛国ニ至リテハ纔<sup>一</sup>二一<sup>一</sup>昔紀ノ前裁ニ  
一衣帶水ノ外現ニ英吉利ニ於テ慘烈ノ禍有リ  
シヲ見ナカラ恬然トシテ悟ラス区々トシテ姑  
息苟媮ノ策ヲ恃ミ歲月ヲ玩愒シ一時ヲ糊塗シ  
禍乱ノ症徴已ニ発スルニ及テモ猶且ツ自<sup>疾</sup>ヲ諱  
ミテ明医ニ依頼スルコト無ク或ハ依遲猶豫シテ  
民心ヲ猜ハシメ或ハ抵忤觸冒シテ民情ヲ激セ  
シメ其末ヤ無前ノ奇禍ヲ烝<sup>一</sup>烝<sup>一</sup>膏血都邑ニ汎  
濫シ一國ヲ擧ケ変シテ屠場ト為ラシムルニ至  
リタルハ果シテ夫ノ進化神ノ罪ナル乎將タ進  
化宗僧侶ノ罪ナル乎

曩ニ王路易第十五ノ時若クハ王路易第十六在  
位ノ初年ニ於テ宰相大臣タル者假ニ身ヲ數十  
百年ノ後ニ置キ同心協力シテ一々旧規ノ陋ヲ  
除キ易ルニ新圖ノ美ヲ以テセハ王路易第十六  
ノ末年ニ至リテハ唯一歩ヲ進メテ民主平等ノ  
制ニ入ルノミニテ足ランノミ王路易ハ悠々然  
トシテ議院ニ臨ミ其冠ヲ脱シ其劔ヲ釋キロベ  
スビエール以下ノ人士ヲ一揖シ温和ノ顔色ニ  
テ微笑シテ曰ハン公等之ヲ勉メヨ我モ亦民藉  
ニ入リテ國ノ為メニ力ヲ効サント因テ妻子ヲ

〔9オ〕

攜ヘ州郡沃饒ノ地ヲ擇ヒ山水明媚ノ勝ヲトシ  
多ク美田宅ヲ買ヒ優遊以テ身ヲ終ヘテ高踏勇  
退ノ美名ヲモ後吾ニ施スコトヲ得タランノミ猶  
ホ一言センニ佛蘭西ヲシテ前ニ英國ノ鑒戒無  
ラシメハ其宰相大臣ハ深ク咎ムルニ足ラスシ  
テ僕ノ論ハ迂ニ非サレハ刻ナリ唯其レ惘然<sup>惘</sup>タ  
ル鑒戒有リテ猶ホ鑒戒スルコトヲ知ラス前車覆  
ヘリテ後車進メリ是レ當時佛蘭西ノ宰相大臣  
ハ好テ奇禍ヲ後人ニ遺リシト謂フ可シ夫ノ進  
化神ヲ防阻シタル魔敵ナリト謂フ可シ王路易  
ヲ擠陥シタル罪人ナリト謂フ可シ

〔9ウ〕

洋學紳士更ニ一杯ヲ醺シテ又云ヒケルハ所謂  
車ハ流水ノ如ク馬ハ游龍ノ如ク高帽ヲ被ムリ  
澗袍ヲ穿チ大達通衢ノ中男女雜沓ノ群ヲ貫串  
シ飛過シテ顧眄セス是人ヤ経吾ノオヲ抱キ治民  
ノ志ヲ持シ天子ヲ毗ケテ廟廊ニ趨ルノ宰相ナ  
ル邪將タ天姿機敏ニシテ善ク時ヲ覘ヒ勢ヲ料  
リ賤賈シテ貴賤シ以テ陶朱ノ富ヲ致セル者邪  
將タ文藝ノ美學術ノ巧素ヨリアヂソンヲ奴ト  
シセルワンテスヲ僕トスル奇傑ノ文士ナル邪<sup>（人）</sup>  
皆然ラサルナリ是人ヤ其遠祖某甲曾テ旗ヲ擧  
リ將ヲ斬ルノ功有リシカ為ニ爵位ヲ授ケ采地

〔10オ〕

〔10ウ〕

ヲ賜ヒ華胃連綿トシテ今日ニ至リ既ニ才識無ク亦學術無キモ祖先ノ朽骨時々光ヲ墓中ヨリ放チ其庇廕ヲ被ムリ無作無業ニシテ坐ナカラ祿秩ノ豊ナルヲ享ケ醇酒ヲ飲ミ脆肉ヲ啗ヒ優游トシテ日ヲ送ル所謂貴族ト号スル一種特別ノ物體ナリ嗚呼一國中此ノ如キノ物體数十百個有ルニ於テハ縱令ヒ立憲ノ制ヲ設ケテ千百萬ノ生靈カ果テ自由ノ權ヲ得ルモ平等ノ大義既ニ欠ル有リテ其自由ノ權ハ眞成ノ物ニ非ス何トナレハ我僭人民朝夕勞苦操作シ其獲ル所ノ幾分ヲ納レテ租税ニ供スルハ已ムヲ得サル所ナリト雖モ独リ我施政ノ事務ヲ委托スル吏人ヲ食ナフノミナラス并セテ彼無作無業ノ肉體<sup>(物)</sup>塊ヲ食ナハサルヲ得サルトキハ竟ニ眞ノ自由ニ非サルナリ

王公貴人ハ腦髓廻轉體ノ量果テ吾僭ヨリモ多クシテ且ツ重キ乎胃液ノ分泌血球ノ發育果テ吾僭ヨリモ富メル乎<sup>(ガール)</sup>ヲシテ其頭腦ヲ相セシメハ果テ吾僭ニ區別セン乎若シ區別スル所有リトセハ其區別ハ果テ彼輩ノ利益ト為ル可<sup>(者)</sup>キ乎吾僭ノ利益ト為ル可<sup>(禽獸畜)</sup>キ者乎吾レ聞ク人類ハ前腦ノ發育盛ニシテ動物ハ後腦ノ發育盛

〔11オ〕

〔11ウ〕

ナリト果テ然ラハ……、其生ル、ヤ果テ錦繡ヲ衣テ来リテ吾僭ノ如ク赤裸ニ非サル乎其死スルヤ果テ其骨ト肉ト朽壞セサル乎還元セサル乎……若シ百萬數ノ國民中三人ノ貴族有ル時ハ是レ九十九萬九千九百九十七人ハ此三人ノ為ニ自己尊貴ノ幾分ヲ毀損セラル、ヲ免レス此モ亦算數ノ理ナリ極テ明白ナリ……同<sup>(吾僭人民ト貴族皆若干元素ヨリ組成シタルナリ同一肉塊)</sup>一  
肉塊ニシテ其相会スルヤ我肉塊ハ低頭シテ又手シ彼肉塊ハ<sup>(疎)</sup>立シテ微ク其頭ヲ下上スルノミ相話スルヤ我肉塊ハ彼肉塊ヲ呼テ「サヤ」ト称シテ之ヲ敬<sup>(ヲ敬)</sup>ス君ノ義ナリ又「モンロイニヨール」ト称シテ之ヲ敬<sup>(ヲ敬)</sup>ス亦君ノ義ナリ彼肉塊ハ我肉塊ヲ呼テ何ト称スル乎……、無礼ノ甚キニ非ス乎耻ツ可キノ甚シキニ非ス乎

上古ノ時乎近古ノ時乎幾千年ノ前乎幾百年ノ前乎何ノ年ニ在リシ乎何ノ月ニ在リシ乎何ノ日ニ在リシ乎當時賢者有リ仁者アリ才有リ智有リ勇有リ能有リ是故ニ其人公ト為リ侯ト為リ伯ト為リ子ト為リ男ト為レリ其人既ニ賢者ナリキ仁者ナリキ才有リキ智有リキ勇有リキ能有リキ是故ニ其子其孫其曾孫其玄孫其耳孫及ヒ其十世ノ孫百世ノ孫皆賢ナリ仁ナリ才ナ

〔12オ〕

〔12ウ〕

リ智ナリ勇ナリ能ナリ庸人ニ勝レリ今後ノ子孫モ亦當ニ庸人ニ勝ル可シ是レ遺傳ノ理ナリ杜撰ノ推測ニ非サルナリ是故ニ皆亦公タリ侯タリ伯タリ子タリ男タリ庸人ノ上ニ二位セリ今後ノ子孫モ亦當ニ庸人ノ上ニ二位ス可シ是レ遺傳的ノ理ニ適スル制度ナリ不正ノ設置ニ非サルナリ足下未タタル<sup>ワ</sup>ンハエッケルノ物類世々遺傳スルノ説ヲ聞カサル乎<sup>ハ</sup>噴飯ニ堪ヘサルナリ

吾僭數千百萬人ハ公タラス侯タラス伯タラス子タラス男タラス足下未タ其故ヲ知ラサル乎吾僭數千百萬人ノ遠祖ハ定テ皆不賢ナリキ不仁ナリキ無能ナリキ是故ニ皆公侯伯子男タラザリキ是故ニ吾僭數千百萬人モ亦皆公侯伯子男タラサルナリ是レ遺傳ノ理ナリ吾僭數千百萬人如何ニ公侯伯子男タラント欲スルモ遺傳ノ理ヲ如何センヤ<sup>ハ</sup>噴飯ニ堪ヘサルナリ

然ト雖モ凡ソ物理ノ事ハ皆正格ノ理ト格外ノ理ト有リテ存ス故ニ父若クハ祖父若クハ曾祖父若クハ十世ノ祖若クハ百世ノ祖若クハ千萬世ノ祖不賢不仁不能ナリシカ為ニ貴族ト為ルコトヲ得サリシモ其子若クハ其孫其曾孫其十世

〔13オ〕

百世千萬世ノ孫或ハ賢ニ或ハ仁ニ或ハ能ナルコト時々之有リ故ニ新ニ貴族ト為ルコト亦時々之有リ所謂格外ノ理ナリ今日ノ學術ノ未タ究ムルコト能ハサル所ナリ解剖學ヤ生理學ヤ動物學ヤ物化學ヤ益々其精微ヲ極ムル時ハ此格外ノ理モ異日必ス之ヲ明カニスルコトヲ得可シ故ニ足下必ス平等ノ義ヲ唱道セント欲セハ先ツ物理ノ學ヲ研究セヨ<sup>ハ</sup>噴飯ニ堪ヘサルナリ

〔13ウ〕

腕ニ紅鯉ノ繡有リ背ニ青龍ノ彫有リ衣ヲ脱シテ盤礴シ其顔色得意然タル者ハ閭閻<sup>ハ</sup>ノ小民ナリ野變<sup>ハ</sup>ノ閭閻<sup>ハ</sup>ノ小民ナリ渠レ既ニ八若クハ熊ノ名字有リテ猶ホ足ラス必ス紅鯉ノ八ト呼ヒ青龍ノ熊ト呼フトキハ其喜ハ則チ知ル可キナリ公侯ノ爵位ハ無形ノ繡彫ニハ非サル乎……、吾レ之ヲ解セリ彼レハ有形ノ繡彫ナリ故ニ野變<sup>ハ</sup>ナリ又閭閻<sup>ハ</sup>ナリ此レハ無形ノ繡彫ナリ故ニ文明ナリ又邸第ナリ然トモ既ニ名字有リテ又添ユルニ爵名ヲ以テスルトキハ少ク彼ノ紅鯉ノ八ト青龍ノ熊ト……、曰ク彼人ヤ国ニ勲勞有リ其職ニ居テ其勲勞有ルハ当然ノ事ニ非ス乎平生俸給ヲ享ルニ非ス乎曰ク異常ノ大勲勞アリ然ラハ則チ<sup>ハ</sup>異常ニ二錢物ヲ與ヘテ之ヲ賞セスシテ

〔14ウ〕

〔15オ〕

〔14オ〕

今代流行セサル繡彫ヲ施スコトヲ為スヤ  
(シテ天與ノ身體ヲ害セル)

南海先生モ亦一二杯酒ヲ引キ且ツ曰ク紳士君ノ言ハ頗ル奇ナルニ似タルモ零々碎々ニシテ前後連絡無キヲ奈何セン

洋學紳士曰ク先生ノ高亮明敏ナル僕ノ錯落ノ語ニ於テ其取ル可キハ之ヲ取其教ユ可キハ之ヲ教ヘヨ若シ尋常論理的ノ規則ニ循フ時ハ陳腐ノ話頭ヨリ説起セサルヲ得スシテ恐クハ先生ノ聴ヲ汚スニ足ラサラン

南海先生曰ク否々且ツ論理ノ規則ニ循ヒ次序ヲ逐フテ論述セヨ吾レ異日將ニ綴リテ一小冊子ト為サントス

洋學紳士乃チ云ヒケルハ抑々方今歐洲諸國ノ形勢ヲ察スルニ英佛獨魯ノ四國最強盛ニシテ文藝ノ美ナル學術ノ精ナル農工商賈ノ昌ナル百貨ノ殷ナル陸ニハ幾千萬ノ精兵ヲ屯シ海ニハ幾千艘ノ堅艦ヲ列ネ龍蟠ノ形虎躍ノ勢古ヨリ以來未タ今日ノ隆ナルカ如キ者有ラス而テ其強盛ノ勢ヲ橐籥シ殷実ノ富ヲ醞釀シタル所以ノ者其原由ハ固ヨリ多端ナリト雖モ要スルニ自由ノ大義実ニ之レカ基礎ヲ為セリ即チ英國ノ富強ナル古先哲王ノ遺業ニ沿因セルモ其

〔15ウ〕

〔16オ〕

大ニ発越シテ力ヲ逞シクセシハ查理第一ノ時自由ノ波瀾汹涌シテ旧幣ノ堤防ヲ潰決シタルヨリシテ有名ナル大憲令ノ其間ニ崛起シタル効果最モ與リテ力有リ又佛國ノ如キモ王路易第十四ノ時早已ニ文藝ノ光ヲ發シテ一代ノ譽ヲ聘セシモ專制ノ害中ニテ蒸々スル菌花タルニ過キスシテ真ニ強盛ノ勢ヲ固定セシハ夫ノ千七百八十九年革命ノ偉業ノ賜ナリト謂ハサル可ラス又日耳曼ニ在テモ第十八世紀ノ時寧王非列埏利第二ノ雄勇ニシテ武ヲ四隣ニ耀セシ以來漸ク強勢ニ赴キタルモ佛國革命ノ旨義ノ未タ浸入セサルノ前ニ方リテハ其邦四分五裂シテ恰モ束縛ヲ脱シタル薪芻ノ如クナリシカ拿破崙第一カ共和国指揮官ノ職ヲ帶ヒ革命ノ旌旗ヲ靡シテ維也納伯林ノ間ニ雄飛スルニ及ヒ日耳曼ノ民始テ自由ノ元氣ヲ吸納シ友愛ノ滋液ヲ咽下シ(爾來形勢一變シテ寢リ今日ノ隆盛ヲ致セリ魯矢亞ノ如キニ至テハ版圖ノ博大ナル士馬ノ數夥ナルハ固ヨリ宇内ニ冠タルモ文物制度ニ至テハ遠ク他ノ三国ニ遜ル有リ是レ其抑壓ノ遺禍ナリト謂ハサル可ラス)

人生百般ノ事業ハ譬ヘハ猶ホ酒ノ如シ自由ハ

〔16ウ〕

〔17オ〕

譬へハ猶ホ酵母ノ如シ葡萄酒ヤ麦酒ヤ其財料

如何ニ良好ナルモ之（若シ）レカ酵母タル者無キニ於

テハ夫ノ財料ハ皆槽底ニ沈澱シテ其精氣ヲ沸

釀セント欲スルモ得可ラス是ヲ以テ專制国ノ

（事物ハ皆酵母無キ酒ヲ皆槽底ノ沈澱物ナリ試ニ專制国ニ文藝ヲ觀セヨ其中或ハ文藝ハ或ハ儘マ觀ル可キ者有ルカ如キモ細ニ

之ヲ察スル時八千年一樣ニ萬個一種ニシテ變

化ノ態有ルコト無シ凡ソ作者ノ視聽ニ呈スル現

象ハ皆槽底ノ沈澱物ニ過キスシテ作者又其沈

澱シタル精神ヲ以テ之ヲ摸寫ス其變態無キコト

豈宜ナラスヤ

人或ハ言ハン邦国ノ富強ナルハ財貨ノ殷富ナ

ルニ由ル財貨ノ殷富ナルハ學術ノ精巧ナルニ

由ル何トナレハ物理學ヤ物化學ヤ動植ノ學ヤ

算數ノ學ヤ之ヲ工業實地ノ際ニ應用シ時間ヲ

省キ體力ヲ儉シテ其得ル所ノ貨物多クシテ且

ツ精ナルコト大二手指ノ直ニ作為スル所ニ勝ル

是レ国ノ殷富ナルヲ致ス所以ナリ国既ニ殷富

ナリ是ニ於テ精兵ヲ蓄ヘ堅艦ヲ設ケ釁ヲ觀テ

出征（征）シ地ヲ闢キ境ヲ拓キ遠ク亜細亞阿非利加

ノ地ヲ略有シ民ヲ移シテ市場ヲ置カシメ本土

ノ產ヲ賤買シテ自国ノ貨（貨）ヲ貴買シ利ヲ攫ムコト

ヲ貲ラレス工業愈々熾ニ販路愈々廣クシテ海

## 〔17ウ〕

陸軍備モ亦隨フテ益々強大ナルヲ致スハ自然

ノ勢ナリ自由ノ制度ニ緣由スルニ非サルナリ

ト嗚呼此レ其一ヲ知リテ未タ其二ヲ知ラサル

者ナリ凡ソ人間ノ事業ハ盡ク相牽聯シテ交々

因果ヲ相為スト雖モ仔細ニ考察スル時ハ其間

必ス真個ノ原因ノ存スル有リ国ノ殷富ナルハ

學術ノ精巧ナルニ原本シ學術ノ精巧ナルハ国

ノ殷富ナルニ原本シテ是ニ者交々因果ヲ為ス

ハ勿論ナリ然レトモ當初學術ノ精巧ナルヲ得タ

ルハ畢竟人士智見ノ開暢シタルカ故ナリ然ル

ニ智見一タヒ開暢スル時ハ人々獨リ學術ノ上

ニ於テ眼ヲ開クノミナラス制度ノ上ニ於テモ

亦目ヲ啓クニ至ルハ必然ノ理ナリ是故ニ古來

何レノ国ニテモ學術ノ進闡シタル古代ハ必ス

政論ノ隆興シタル時候ナリ學術ヤ政論ヤ一個

智見ノ根幹ヨリ發生スル枝葉花實ナルカ故ナ

リ

夫レ智見一タヒ暢發シ政論一タヒ隆興スル時

ハ自由ノ主義頓ニ百般事業ノ大目的ト成リテ

學士ヤ藝人ヤ農ヤ工ヤ商賈ヤ苟モ一事業ヲ執

ル者ハ皆肆ニ己ノ思想ヲ伸ハシ己ノ意志ヲ達

シテ拘束ノ患ニ遇ハサルコトヲ願フテ斯一念夜

## 〔18オ〕

## 〔18ウ〕

## 〔19オ〕

## 〔19ウ〕

胸間ニ往來シテ復タ除去ル可ラス是時ニ於テ  
在上ノ人若シ能ク事勢ヲ達觀シ人情ヲ洞察シ  
權ヲ恋ヒ勢ヲ貪ルノ鄙念ヲ擺脫シ民間志士ノ  
先ニ立チ旧弊ノ憲障ヲ廓除シテ自由ノ大氣ヲ  
流通スル時ハ社会ノ機関其運轉ヲ逞クシ老廢  
ノ渣滓ハ自然ニ排泄セラレ新鮮ノ滋液ハ自然  
ニ吸收セラレテ學士ハ益々其議論ヲ精ニスル  
コトヲ思ヒ藝人ハ益々其意匠ヲ巧ニスルコトヲ思  
ヒ農工商賈百般ノ人皆益々其業ヲ勉勵シ上下  
共ニ利澤ニ霑フテ所謂殷富ノ勢ヲ成スコトヲ得  
ルハ亦自然ノ勢ナリ僕故ニ曰ク或人ノ論ハ其  
一ヲ知りテ未タ其二ヲ知ラスト

〔20オ〕

且夫レ吾界ノ大勢ハ進ムコト有リテ退クコト無シ  
是レ事物ノ常理ナリ此理ヤ古昔希臘ニ在リテ  
學士輩早已ニ之ヲ窺測スル有リテ即チ噎刺屈  
利カ水流ヲ涉過シ回顧シテ嘆息シ我カ今踏來  
リタル水ハ已ニ遠ク流レ去リタリト云ヒシハ  
正ニ此理ヲ一言シタルナリ但當時考驗ノ法式  
未タ具備セスシテ學術猶ホ幼稚ニ属セシカ爲  
ニ其言フ所竟ニ浮誇ノ態有ルヲ免レサリキ其  
後第十八世紀ノ時佛人チデローコンドルロー  
ノ徒ハ特ニ人類社会ノ中ニ於テ此進歩ノ理ノ

〔20ウ〕

常々行ハレテ間斷無キコトヲ發見セシカ佛人ヲ  
マルクヰルニ及ヒ動植物ノ學ヲ研究シ始テ各種  
ノ物皆古代ヲ逐フテ變化シテ永ク一定ノ種族  
中ニ居ルニ非サルノ說ヲ唱ヘル來日耳曼ギョー  
ト佛蘭西ジューフロアー皆マルクノ說ヲ擴廓  
シテ漸ク精微ニ赴キ英人タルワンニ至リ其宏  
博ノ學ト深邃ノ識トニ資リ加フルニ考驗ノ法  
式其精微ヲ極メ生類ノ母子相傳ヘテ輾轉化成  
スルノ理ヲ求メ及ヒ特ニ吾人々類ノ始祖ノ姿  
テシ所ヲ搜抉シテ其秘蘊ヲ發シテヨリ彼ラマ  
ルク以下學士ノ髣髴トシテ窺破セシ所ノ進化  
ノ至理始テ大ニ世ニ表白スルニ至レリ是ニ於  
テ凡ソ世界萬<sup>(彙)</sup>ノ蕃庶ナル日月星辰ヤ河海山  
嶽ヤ動植物昆虫ヤ社會ヤ人事ヤ制度ヤ文藝ヤ皆  
盡ク此進化ノ一理ニ支配セラレテ漸々徐々ニ  
前往シテ已ム時無キコト復タ疑ヲ容レス請フ更  
ニ細ニ之ヲ論セン

〔21オ〕

夫レ所謂進化トハ不定ノ形ヨリシテ完全ノ形  
ニ赴キ不粹ノ態ヨリシテ精粹ノ態ニ移ルヲ謂  
フ是ナリ汎ク之ヲ言ヘハ初メ醜ナリシ者終ニ  
美ト成リ前ニ惡ナリシ者後ニ佳ト成ルノ義ナ  
リ<sup>(即チ)</sup>サレハ動物ノ類ニテモ其初若干原素ノ相ヒ  
<sup>(在テハ)</sup>

〔21ウ〕

混融シテ粘滑ノ一凝塊ヲ成シテ消化機呼吸機等ノ構造無ク唯蠕々然トシテ縮張シ全身ノ表面ヨリシテ食物ヲ吸摂シ又其背面ヨリシテ渣滓ヲ排泄シテ僅ニ生ヲ保チシモ外間元素社會ノ刺衝力ト自己細胞組織ノ發暢力ト互ニ觸レ交々接シテ或ハ肺ヲ生シ或ハ胃ヲ生シ更ニ大二進漸スルニ及ヒテハ頭腦脊髓ノ靈ナルヨリ神經纖維ノ敏ナルニ至ルマテ具備セサル莫シ是レ動物の進化ノ理ノ發顯ナリ人事モ亦全樣猶ホ此ノ如キナリニテ其初メ穴居シテ野處シ拾食シテ掬飲シ男女ノ交有リテ夫婦ノ契無カリシモ寢クニシテ木ヲ架シ石ヲ累ネテ屋宅斯ニ興リ或ハ逐獵シ或ハ耕耨シ男ハ外ニ操作シ女ハ内ニ經營シテ子ヲ育ヒ孫ヲ長スルニ至ルカ如キハ是レ人事的進化ノ理ノ發顯ナリ

政事ノ点ニ就テ言ヘハ其初ノ強者ハ弱者ヲ凌キ智者ハ愚者ヲ欺キ脅迫壓服シテ主人ト為リ畏懼屈從シテ奴隸ト為リ甲仆レ乙起リ紛々擾々トシテ統紀無キ者是レ無礼度制ノ吾ナリ既ニシテ人々皆鬪ヲ厭ヒ爭ヲ惡ミ晏然トシテ生ヲ送ルコトヲ願欲スルニ際シ一人材徳有ル者起リテ衆心ヲ收攬シ立チテ君ト為リ若クハ強悍ニ

〔22オ〕

シテ姦計ニ富ム者衆庶ヲ籠絡シ自ラ進ミテ君ト為リ然後政ヲ發シ令ヲ施シテ一時ノ治安ヲ図ル是レ所謂君相專擅ノ制ニシテ政事の進化ノ理ノ第一ナリ

〔22ウ〕

此種ノ制度ニ在テハ其君臣官民ノ兩部分ヲ繩束膠著シテ相離レサラシムルニ於テ一種無形ノ器具具有リテ復タ從前專ラ有形ノ腕力ニ由リテ主人奴隸一時ノ交際ヲ假定セシカ如クナラス是レ固ヨリ一步ヲ進メタル境界ト謂ハサル可カラス所謂無形ノ器具トハ何ソヤ曰ク君臣ノ義即チ是レナリ蓋シ此一義ハ必スシモ盡ク人造ノ私ニ出テタルニ非スシテ幾分慈愛ノ心ト幾分感恩ノ心ト相抱合シテ成ル所ナリ君ハ其慈愛ノ心ヲ下ニ施シ民ハ其感恩ノ心ヲ上ニ輪ス是レナリ故ニ上ノ慈愛心ト下ノ感恩心トノ分量愈々多ケレハ君臣ノ義愈重クシテ上下ノ交愈々堅シ漢土夏商周及ヒ漢唐等初年ノ治正ニ是レナリ但此制度ニ在テ大困難ナル病根一有り何ソヤ夫ノ民カ上ニ輪ス所ノ感恩心ハ畢竟君カ下ニ施ス所ノ慈愛心ノ反射ニ過キサルカ故ニ君ノ慈愛心ノ量一分ヲ減スル時ハ民ノ感恩心ノ量モ亦一分ヲ減シテ其迅速ナルコト

〔23オ〕

〔23ウ〕

響ノ声ニ應スルカ如シ然ルニ君ノ慈愛心ノ多

寡ハ元來君一個ノ資質ニ属スルカ故ニ<sup>(不幸ニシテ)</sup>君若シ

天姿無慈悲ナルニ於テハ群臣如何ニ啓沃輔導<sup>(庸劣タル者)</sup>

スルモノノ効果ヲ生スルコト無クシテ君臣ノ義

斯ニ絶ヘテ乱亡ノ禍斯ニ生ス三代漢唐ノ末季

正ニ是ナリ且ツ縱令ヒ天ノ寵靈ニ頼リテ君主

忝々至美至良ノ資質ヲ持シテ其慈愛心ヲ下ニ

施スコト益々多クシテ其反射ノ効ヨリシテ民モ

亦忝々其感恩心ヲ上ニ輸スコト益々多ク千年萬

年熙々皞々ノ治ヲ保ツコトヲ得ルト為サン乎乃

チ更ニ又一大病根ノ尤モ畏ル可キ者ノ生スル

有ルヲ見ントス何ソヤ彼民タル者嘗作シテ生

ヲ計リ其獲ル所ノ幾分ヲ官ニ輸シ此ニ由リテ

凡ソ邦家ノ務ハ悉皆其眉上ヨリ<sup>(肩)</sup>郵去シテ復タ

其心ヲ用イルコト無ク<sup>(シテ)</sup>學士ハ唯其文辭ノ麗ナル

コトヲ思フノミ藝人ハ唯其工伎ノ巧ナルコトヲ思

フノミ農工商賈ハ唯其利ノ贏ナルコトヲ思フノ

ミニシテ<sup>(其他ヲ知ラス是ニ於テ)</sup>其腦髓ノ作用漸次ニ委靡シテ五尺ノ

身財唯一箇ノ飯袋子タルニ過キサリニ至リテ

即チ學士ノ文辭藝人ノ工伎農工商賈ノ業ノ如キ

モ終ニ皆前ニ云ヘル槽底ノ沈澱物ト為リテ生

氣無ク姿態無ク一国人ヲ擧ケテ唯蠕々然蠢々

〔24オ〕

然タル凝滑ノ一肉塊ト為ランノミ

且ツ我儕ノ遠祖カ相率イテ自ラ君主ノ治下ニ

歸シ百般事務ヲ托シテ其示令ニ循ヒタルハ他

ニ非ス彼レ愚昧ニシテ自ラ一身ノ主ト為リテ

生ヲ計ルコト能ハサルカ故ニ姑ク其有スル所ノ

権理ヲ棄却シ一時ノ安ヲ図リ異日其後吾子孫

ノ智識益々長スルヲ待テ將ニ其レヲシテ自主

ノ權ヲ復セシメント欲セシナリ當時君民ノ間

此ノ如キ明絢有リシニ非サルモ其深意ヲ問フ

時ハ必ス然ラサルヲ得サル者有リ然ルニ因襲

ノ久キ彼君主ハ一時我儕遠祖ヨリ領取シタル

権理ヲ持守シテ肯テ之ヲ我儕ニ還ヘサスシテ

以為ヘラク此レ素ヨリ我有ナリト僕故ニ曰ク

君相專擅ノ制ハ愚蒙ニシテ其無礼ヲ覺ラサル

者ナリト

<sup>(試)</sup>誠ニ吾界萬國ノ歴史ヲ繙キテ其建基ノ初ヨリ

數百千年間政事の旅行ノ迢路ヲ點檢セヨ紛擾

無紀ノ吾ヨリ劣テ、進化ノ理第一歩ノ境界ニ

入リタルノ一事ハ阿非利加夷蛮ノ民ヲ除非シ

テ餘ハ皆然ラサル莫シ即チ亞細亞諸國ノ民ハ

一タヒ此境界ニ入り<sup>(タル以來)</sup>淹留シテ未タ進ムコト能ハ

サル者ナリ歐洲諸國ニ至テハ早キ者ハ第十七

〔24ウ〕

〔25ウ〕

〔26オ〕

〔25オ〕

吾紀ヨリ遅キ者モ亦第十八吾紀ヨリ第一歩ノ境界ヲ定テ、更ニ第二歩ノ境界ニ入レリ是レ即チ東西洋文明ノ度級ノ相異ナル所以ナリ  
猗輿進化ノ理乎進化ノ理乎前往シテ倦サルハ汝ノ常性ナリ汝前ニ汝カ兒子ヲ驅リ紛擾無紀ノ曠野ヲ去リ專制狹隘ノ谿谷ニ入りテ姑ク憩休セシメ其體氣強爽ナルヲ待チ更ニ驅々シテ立憲快濶ノ岡阜ニ上リ益々眼ヲ刮ヒ胸ヲ盪セシメ忽然眸ヲ轉シテ仰望スレハ綠樹天ヲ摩シ(更ニ)雲煙橫陳シテ禽鳥其間ニ和鳴ス是レ即チ民主(ルヲ見ル勝景無比ナル)高遠ノ峰峦ナリ此峰峦ノ勝状ハ更ニ詳ニ之ヲ述フル有ラン嗚呼進化ノ理乎進化ノ理乎希臘羅馬ノ方ニ盛ナル自由ノ制度頗其整備ヲ致セシカ如キモ蓄奴ノ汚制有リシカ為ニ汝未タ肯テ大ニ其光ヲ放ツコトヲ欲セサリキ近古ニ至テハ最モ首ニ汝ニ虔事シテ崇敬ヲ致セシハ英國實ニ然リト為ス汝カ安屈魯撒孫ノ種族ヲ寵眷シテ大不列顛ニ光臨セシヨリ此國ノ人士相競フテ志ヲ揮ヒ氣ヲ鼓シ自由ノ旗幟ヲ翻ヘシ號呼シテ撞搪シ王查理第一ノ膏血一タヒ刑場ニ迸射シテ夫ノ燦爛タル憲章ノ大文字斯ニ光彩ヲ青ニ放テリ嗚呼進化ノ理乎進化ノ理乎汝素

〔26ウ〕

ヨリ溫仁ニシテ人ヲ殺スコトヲ嗜ム者ニ非サルモ人情ノ激スル所汝モ亦奈何トモスルコト無キナリ人情ノ旧ニ拘シ新ヲ怯レ頑迷シテ路ヲ塞クニ遇フテハ汝モ亦已ムコトヲ得ス踴躍シテ過キ去ルノミ我レ固ヨリ汝ヲ咎メサルナリ  
所謂進化ノ理第二歩ノ境界トハ何ソヤ立憲ノ制即チ是レナリ  
洋學紳士又杯ヲ引キテ一飲シ南海先生ニ嚮フテ曰ク此等陳々腐々ノ論恐クハ先生ヲシテ嘔噦セシメン

〔27ウ〕

〔27オ〕

南海先生曰ク否欧州諸國ニ在テハ或ハ陳腐ナルモ亜細亞諸邦ニ在テハ未タ必スシモ陳腐ナラス請フ倦ムコト無クシテ竟ニ之ヲ論セヨ  
洋學紳士乃チ又云ヒケルハ立憲ノ制ニ在テモ彼君相專擅ノ制ト全ク其君長ハ或ハ號シテ帝ト称シ或ハ號シテ王ト称シ吾々相承ケテ萬民ノ上ニ儼臨シ又華紳貴族有リテ或ハ公ト称シ或ハ侯ト称シ或ハ伯ト称シ子ト称シ男ト称シ亦吾々相承ケ環嚮シテ官家ヲ權衡スルコトモ亦專擅國ト異ナルコト無シ但立憲國ニ在テハ五等爵位ノ設ハ畢竟其身及ヒ其家ノ寵榮ヲ為スニ(多クハ)過キスシテ其爵位ニ附與スル利益ハ唯上院議

〔28オ〕

士ノ列ニ入ルノ一事有ルノミ其大邑ヲ領シ高  
賁ヲ擁スルカ如キハ彼輩カ自ラ經營シテ得ル  
所ナルカ故ニ他ノ農工商買カ自ラ封殖シテ巨  
財ヲ積メルト異ナルコト無シ專制國ノ貴族カ坐  
ナカラ民庶ノ膏血ヲ吸飲シテ其家ヲ肥スカ如  
キニ非サルナリ是レモ亦立憲國ノ專擅國ニ比  
シテ大ニ相勝ル所以ナリ

〔28ウ〕

且ツ專擅ノ制ヲ宥テ、立憲ノ制ニ入リテ後人  
タル者始テ個々獨立ノ人身ト為ルコトヲ得ルナ  
リ何ソヤ參政ノ權ナリ財産私有ノ權ナリ事業  
ヲ擇ヒテ操作スルノ權ナリ奉教自由ノ權ナリ  
其他言論ノ權ト云ヒ出版ノ權ト云ヒ結社ノ權  
ト云ヒ凡ソ此類ノ諸權ハ人タル者ノ必ス其有<sup>具</sup>  
スヘキ所ニシテ此種ノ權ヲ具備シテ後始テ人  
タルノ声價ヲ有スト為ス爰二人有ランニ首有  
リテ手無ク又ハ手有リテ足無キ時ハ形體的不  
具ノ人タルヲ免レス彼諸權ヲ有セサル時ハ是  
レ精神的不具ノ人ノミ

〔29オ〕

是故ニ立憲ノ制ニ在テハ民タル者輿望有ル人  
物ヲ票選シテ代議士ト為シ托スルニ立法ノ大  
權ヲ以テス所謂議院ナリ是故ニ議院ハ全國民  
意ノ寓スル所ニシテ宰相大臣ハ特ニ議院ニ隸

属シテ各種ノ事務ヲ分掌スルニ過キサルノミ  
是故ニ立法權即チ議院ハ民ノ為ニ事務ヲ委托  
スル主人ニシテ行政權即チ宰相大臣ハ此委托  
ヲ受ケテ事務ヲ處理スル役徒タルニ過キサル  
ノミ夫レ民タル者既ニ代議士ヲ出シテ政務ヲ  
監督スルノ權アリ其他天賦ノ諸權ヲ具有スル  
コト固ヨリ言ヲ待タサルナリ

〔29ウ〕

以上論叙スル所ニ由リテ之ヲ考フレハ夫ノ政  
事の進化ノ理第一步ノ境界即チ君相專擅ノ政  
ト其第二步ノ境界即チ立憲ノ政ト相去ルコト甚  
タ遼遠ナルニ非ス乎君相專制ノ國ニ在リテハ  
人類ト称ス可キ者ハ独リ王公貴紳有ルノミニ  
シテ其餘百萬ノ生靈ハ皆精神的不具ノ飯囊ナ  
ルノミ我僭人民辛勤營作シテ財ヲ積ムモ官家  
若シ庫財ニ乏キカ或ハ不虞ノ費ヲ要スル時ハ  
擅ニ令ヲ定メテ租稅ヲ徵シテ其用途ノ果テ我  
僭ニ益有ルト否サルトハ初ヨリ之ヲ明示スル  
コト無シ是ハ則チ直チニ我カ財ヲ攫ミ去ルト異  
ナラス何ノ私有ノ權カ之レ有ラン我僭人民意  
ニ任セテ業ニ服セント欲スルモ煩苛ノ規制有  
リテ自ラ肆ニスルコトヲ得ス是レハ則チ直チニ  
我身ヲ束縛スルト異ナラス何ノ操作ノ權カ之

〔30オ〕

〔30ウ〕

レ有ラン教法ニ係リテハ我カ心腦ヲ壓束シ言  
論ニ係リテハ我カ唇舌ヲ鈴戾シ<sup>（類下雖）</sup>版セント欲  
スルカ我カ手腕ヲ掣係シ結社セント欲スルカ  
我カ情意ヲ抑<sup>（遏）</sup>シ<sup>（示偶然發生）</sup>譬ヘハ猶途上ニ偶立セル草  
官ノ如シ苟モ芽ヲ発シ根ヲ挿サム時ハ或ハ踏  
藉セラレ或ハ抽拔セラレテ中道ニシテ枯夭ス  
ルノミ何ノ自由カ之レ有ラン且ツ此種ノ国ニ  
在リテハ官途ノ生甚タ貴クシテ民間ノ生甚タ  
賤シク現ニ任ニ就キ吏僚ニ列スル者ニ論無ク  
即チ市井ニ居テ一業ニ服スル者ト虽モ苟モ規  
摸ヲ擴張シテ大ニ為スコト有ラント欲スル時ハ  
必ス官家ノ庇廕ヲ借ラサルヲ得ス農ヤ工ヤ商  
賈ヤ其他百般生業ヲ営ムノ徒其田疇廣博ニ其  
塵肆宏大ニ其廩屋壯廓ニ其使役衆多ナル者ハ  
問ハスシテ其必ス陽ニ或ハ陰ニ官家私恩ノ淋  
滴ヲ乞受シテ其滋液ニ霑フコトヲ知ルベシ即チ  
文藝ヲ以テ自ラ高シトスル者工技ヲ以テ自ラ  
巧トスル者ノ如キ最モ權勢ノ境界ト交渉無キ  
カ如シト虽トモ細ニ覘察スル時ハ実ハ然ラスシ  
テ或ハ現ニ身ヲ仕籍ニ列シ或ハ暗ニ謁ヲ門閭  
ニ通シ諂笑諛諂シテ媚ヲ賣リ愛ヲ買フニ非サ  
レハ其文章偉麗ナルコト能ハス其韻礎<sup>（鏗鏘）</sup>ナ

〔31オ〕

ルコト能ハスシテ其方伎高妙ナルコト能ハス嗚呼  
官家ハ猶ホ心臓ノ如キ乎<sup>（強觀ナル）</sup>毛髮<sup>（類下雖）</sup>齒牙ノ強韌ナル  
モ血液ノ養ヲ得サル時ハ其枯落スルコト立トコ  
ロニ待ツヘキナリ

夫レ文藝技術ノ士ニ在リテ猶此ノ如クナル時  
ハ百官有司ニ至リテハ果テ如何ノ状ヲ為スヤ  
昔人所謂官ヲ公朝ニ受ケテ恩ヲ私門ニ拝シ暗  
夜ニ憐ヲ乞フテ白昼ニ人ニ驕ルトハ正ニ此輩  
ノ狀態ヲ摸寫スル者ニ非ス乎人々自ラ尊ヒ自  
ラ重ンシテ肯テ屈下セサルコト是レ丈夫ノ操守  
ニ非ス乎今彼ノ百官有司ノ状ヲ觀察セヨ果テ  
自尊ノ氣象有ル乎自重ノ意態有ル乎丈夫ノ操  
守有ル乎若シ自尊ノ氣象有リ自重ノ意態有リ  
丈夫ノ操守有ル時ハ一日モ官職ニ在ルコトヲ得  
可ラサルナリ朝ニ抗議シテ侃々ノ言ヲ発スレ  
ハタニハ則チ罷黜ノ状至ル祿俸ノ賜ヲ獲サレ  
ハ一家數口ノ者復タ活スルコトヲ得ルノ道無シ  
自ラ寒餓シテ死シ且ツ寒餓シテ死セシムルヨ  
リハ寧ロ首ヲ俛シテ鍼黹シ妻子ト團聚シテ新  
鮮ヲ茹ラヒ輕煖ヲ著クルノ愈ルニ如カス是レ  
豈ニ論理法ノ最モ見易キ者ニ非ス乎何ソ侃々  
諤々トシテ昔日ニ流行シテ今日ニ流行セサル

〔32オ〕

〔32ウ〕

〔31ウ〕

人物ヲ模擬スルコトヲ須ヒン哉……、足下前ニハ  
某衙ニ在リテ某職ニ服シ後ニハ某廳ニ在リテ  
某官ヲ守レリ是レ足下官海ニ游泳スルコト久シ  
カラスト為サス何ソ足下ノ愚頑ニシテ少年習  
氣ヲ脱セサルノ甚キヤ……

然ルニ凡ソ專制ノ治下ニ生存スル人士ニ於テ  
最モ人ヲシテ失笑噴飯セシムルニ足ル者一有  
リ是レ實ニ失笑噴飯セシムルニ足ルト虽トモ而  
カモ事ノ實迹ニシテ且ツ性理ノ學ニ徴スル時  
ハ尤モ理ニ合シテ必ス然ラサルヲ得サルヲ見  
ル何ソヤ曰ク彼彼人士ノ善ク媚ヲ納レ<sup>(倭)</sup>俟ヲ呈シ  
僂巧浮滑ニシテ已レヲ屈スルコトヲ耻チサルニ  
管セス已レト地位ヲ等クシテ未タ相識ラサル  
者ヲ<sup>(延)</sup>近接シ若クハ已レノ下ニ位スル者ヲ待遇  
スルニ至リテハ其倨傲ナルコト如何ソヤ身ヲ仰  
キテ竦立シ面ヲ側メテ横睨シ彼レ十言ヲ發ス  
レハ已レ徐ニ一諾シ彼レ哄笑スレハ已レ僅ニ  
微哂シテ磊々落々ノ風ハ微塵モ有ルコト無キナ  
リ是レ莊重ヲ擬シ威嚴ヲ飾ルノ念ニ出ルト虽  
トモ抑々亦矜驕シテ自ラ喜フ者ナリ前ノ卑屈ノ  
狀態ト相似スシテ判然別人ナルニ非ス乎曰ク  
然ラサルナリ夫レ言ハント欲スル所ヲ言ヒ為

〔33  
オ〕

サント欲スル所ヲ為シテ肆マニ自ラ舒暢スル  
コト<sup>(是レ)</sup>夫兒ノ本性ナリ然ルニ彼レ其初メ性ヲ忍  
ヒ情ヲ抑ヘ痛ヲ自ラ剋戕シテ敢テ輕ク發スル  
コト無ク久キヲ經テ遂ニ思ハスシテ善ク媚ヒ慮  
ラスシテ巧ニ倭スルノ田地ニ至リタルモ天稟  
ノ情性ハ終ニ得テ磨滅ス可ラサル者有リ是ヲ  
以テ苟モ發舒シテ後害無キノ時機ニ逢フ時ハ  
反リテ驕傲ノ態ヲ為シテ自ラ平日卑屈ノ償ヲ  
取ルノミ是レ性理自然ノ勢ナリ故ニ西人ノ言  
ニ曰ク自由國ノ人士ハ溫雅ニシテ人ト忤フコト  
無ク專制國ノ人士ハ驕汰ニシテ物ニ傲ルト真  
ニ我ヲ欺カサルナリ

〔33  
ウ〕

此ニ由テ之ヲ觀レハ自由ノ制度ハ獨リ民主衣  
食經營ノ間ニ益有ルノミナラス人ノ心術ヲシ  
テ高尚ナラシムルコト諷ユ可ラサル者有リ嗚呼  
自由乎我レ汝ヲ棄テ、誰ト與ニ適帰セン  
然ト虽トモ夫ノ政事の進化ノ理ヲ推シテ之ヲ考  
フル時ハ自由ノ一義ハ未タ以テ制度ノ美ヲ盡  
セリト為ス可ラスシテ必ス更ニ平等ノ義ヲ獲  
テ始テ大成スルコトヲ得ル者ナリ何トナレハ人  
々皆盡ク諸種ノ權利ヲ<sup>(具)</sup>有シテ欠ル所無ク又  
其權利ノ分量ニ於テ彼此多寡ノ差別無キニ非

〔34  
オ〕

〔34  
ウ〕

サレハ權利ノ量ノ多キ者ハ自由ノ量モ亦多ク

權利ノ量ノ寡キ者ハ自由ノ量モ亦寡キヲ致ス

ハ是レ避ク可ラサルノ勢ナレハナリサレハ平

等ニシテ且ツ自由ナルコト是レ制度ノ極則ナリ

是故ニ立憲国ニ在リテ其君主及ヒ五等爵位ノ

設有ルカ為メニ一國衆民ノ中ニ於テ更ニ一種

尊貴ノ族類<sup>(物體)</sup>有リテ大ニ他ノ物體ニ區別スルカ

如キハ平等ノ大義ニ於テ畢竟欠ル所有ルヲ免

レス彼レ既ニ自由ノ旨義ノ必ス循ハサル可ラ

サルヲ知り憲令ヲ規定シ法律ヲ設置シ民ノ諸

權ヲ擁護シテ侵犯ヲ蒙ムルコト無ラシム是レ其

自由ノ義ニ於テ得タリト為ス所以ナリ然リ而

シテ國人ノ中ニ就キテ其若干數ヲ擇取シ所謂

爵位ト称号スル無形ノ繡文ヲ施シテ他ノ物體

ノ上ニ在ラシメ平等ノ義ニ害シテ之ヲ改ムル

コト能ハス夫ノ政事の進化ノ理ハ豈ニ當ニ此境

界ニ留マリテ已ムヘケン哉僕故ニ曰ク立憲ノ

制ハ自ラ其過チヲ知リテ僅ニ其半ヲ改メタル

者ナリト

第十七世紀ニ在リテ英國ハ他ノ諸國ニ先チテ

自由ノ制度ヲ擁立シテ大ニ國ノ光譽ヲ馳セシ

モ其民資性沈毅ニ且ツ厚重ニシテ一時ニ盡ク

〔35オ〕

旧習ヲ擺脫シテ以テ新途ニ進入スルコトヲ喜ハ  
ス依然トシテ王制ヲ執守シテ今日ニ至レリ然レ

トモ深ク英國ノ政ヲ察スル時ハ名ハ立君ト曰

フト雖モ実ハ民主國ト甚タ相異ナルコト無クシ

テ君主據有スル所ノ二三特權ヲ除非スル時ハ

其民主國ノ大統領<sup>(三)</sup>異ナル者ハ唯吾々相承ル

ノ一事有ルノミ是ヲ以テ西土ノ學士政術ヲ論

スルニ於テ往々英國ノ制度ヲ以テ埒摸葛刺私

即チ民主ノ制中ニ列シテ北米聯邦及ヒ佛蘭西

瑞西ノ諸國ト別異スルコト無キハ此レカ為メナ

リ

然リト雖モ所謂名ハ実ノ寶ナルカ故ニ其實有

リテ其名有ルハ固ヨリ佳キモ其実無クシテ其

名有ルカ如キハ事理ニ於テ未タ得タリト為サ

ス且ツヤ王家儼然トシテ萬民ノ上ニ臨ミ吾々

相ヒ承ケ又五等爵位ノ設有リテ亦吾々相ヒ承

ケテ夫ノ平等ノ大義未タ完全ナラサルヨリ英

國人士中高亮ニシテ理義ヲ好ムノ徒ハ往々更

ニ一步ヲ進メテ自由ノ義ノ外<sup>(更ニ)</sup>又平等ノ一義ヲ

并有シテ以テ民主ノ制ニ循フコトヲ願欲スル者

頗衆シ怪ムコト無キナリ人類ナル者ハ他ノ動物

ニ比スレハ夫ノ進化ノ理ニ循フコト尤モ迅疾ニ

〔35ウ〕

〔36ウ〕

〔37オ〕

〔36オ〕

シテ學士論者ハ他ノ人類ニ比スレハ夫ノ進化ノ理ニ循フコト又尤モ迅疾ニシテ<sup>ナリ</sup>而シテ民主ノ制ハ正ニ政事の進化ノ理ニ係ル第三歩ノ境界ナレハナリ

立憲ノ制ハ整ハ則チ整ナリ備ハ則チ備ナルモ猶ホ人ヲシテ隱々然トシテ微ニ頭痛ノ患ヲ覺ヘシムル者有リ吾レ其何ノ故タルヲ<sup>。知ラサルナリ我レ其故ヲ</sup>知ラスト雖トモ頭痛ノ患ハ現ニ有リ此レ猶ホ炎風ノ日身ニ葛衣ノ輕キヲ著ケテ頭ニ鐵帽ノ重キヲ戴クカ如シ民主ノ制乎民主ノ制乎頭上唯青天有ルノミ脚下唯大地有ルノミ心胸爽然トシテ意氣瀾然タリ唯永劫ヲ永シトシテ前後幾億々年所ナルヲ知ラス始無ク終無ケレハ唯<sup>ナリ</sup>大虚ヲ大ナリトシテ左右幾億々里程ナルヲ知ラス外無ク内無ケレハナリ

精神ト身體ト有ル者ハ皆人ナリ孰レヲ歐羅巴人ト為シ孰レヲ亞細亞人ト為サン何ソ況ヤ英佛獨魯ヲヤ何ソ況ヤ印度支那琉球ヲヤ人ハ皆<sup>然ニ今必ス英ト云ヒ魯ト云ヒ獨ト云フハ</sup>名姓有リ相呼フニ便ナルカ為メナリ既ニ名称有ルトキハ何ソ必ス更ニ英人誰某佛ノ誰某印度ノ誰某ト称スルヲ須インヤ名姓ノ上ニ於テ多ク別號ヲ添ユルハ人ノ氣宇ヲ小ニスルナリ智

〔37ウ〕

〔抹消〕

慧ノ光線ヲ隔障スルナリ愛情ノ温波ヲ防遮スルナリ国ニ一人ノ主有ルトキハ其国ハ其主人ノ有ナリ其主人ノ身ナリ故ニ国名無ナル可ラス故ニ英ト云ヒ魯ト云ヒ獨ト云フハ<sup>其主人所有</sup>其主人所有<sup>國王</sup>地ノ名ナリ人々自ラ主トシテ別ニ主人無トキハ

国名ハ唯地球ノ某部分ヲ指名スルニ過キサルノミ故ニ我ハ某国人ナリト云フハ畢竟地球ノ某部分ニ居ル者ナリト云フノ意ナリ我ト人ト

畛域有ルコト無シ敵讎ノ意ヲ生スルコト無シ然ラ

スシテ国ニ一人ノ主有ルニ於テハ国名ハ其主

人ノ家号ナリ故ニ我ハ某国人ナリト云フハ畢

竟某国王ノ臣ナリト云フノ意ナリ此レ我ト人

ト畛域有ルナリ斯ニ於テ乎敵讐ノ意生スル有

リ地球ノ各部位ヲ割裂シ其居<sup>民</sup>人ノ心ヲシテ相

互ニ隔障セシムル者ハ王制ノ遺禍ナリ民主ノ

制乎民主ノ生乎其某甲国ト云ヒ某乙国ト云フ

ハ特ニ地球ノ部位ヲ劃分スルニ過キサルノミ<sup>シテ相手□□使□□</sup>

居民ノ心意ヲ隔障スルニ非サルナリ吾界人類<sup>シテ相呼フノ便ヲ計ル</sup>

ノ智慧ト愛情トヲ一混シテ一大円相ト為ス者

ハ民主ノ制ナリ

斯邦噫彌爾ヤ斯邊施爾ヤ彌兒頓ヤ羅克ヤ民主家ナリ人皆之ヲ知ル孟得士瓜ヤ迄古ヤ立憲家

〔38オ〕

〔38ウ〕

〔39オ〕

ナリ人皆之ヲ知ル瑪竇空ヤ拂布士ヤ亦民主家  
ナリ人或ハ未タ之ヲ知ラス苟モ書ヲ読ミ理義  
ヲ知ル者誰カ民主家ナラサランヤ書ヲ読ミ理  
義ヲ知リテ且ツ民主ノ說ヲ非トスル者ハ必ス  
為メニスル有リ苟モ為メニスル有ルトキハ其人  
ノ本色ニ非サルナリ

立憲ノ制ハ惡シカラス民主ノ制ハ善シ立憲ノ  
制ハ春ナリ些ノ霜雪ノ氣有リ民主ノ制ハ夏ナ  
リ復タ霜雪有ルト無シ漢土人ノ言ヲ學ハン乎  
立憲ハ賢者ナリ民主ハ聖人ナリ印度ノ語ヲ為  
サン乎民主ハ如來ナリ立憲ハ菩薩ナリ立憲ハ  
貴フ可シ民主ハ愛ス可シ立憲ハ驛舎ナリタニ  
必ス去ラサル可ラズ<sup>(去ルト能ハ)</sup>  
入り朝ニ夕ツ其<sup>(去ルト能ハ)</sup>ガサル者ハ弱行ナリ跛ナリ民  
主ハ屋宅ナリ久シク行旅シテ宅ニ帰ヘル其安キ  
コト何如ソヤ

佛蘭西ハ英國ニ比スレハ稍ヤ後レテ自由ノ途  
ニ上リタリ然トモ一蹴シテ民主ノ制ニ進人セシ  
ハ真ニ偉ナル哉英人ハ<sup>(多ナ)</sup>智有リ佛人ハ<sup>(多ナ)</sup>情有リ英  
人ハ沈毅ナリ佛人ハ<sup>(恢復)</sup>剽悍ナリ英人ハ一タヒ進  
歩ノ途ニ上ルトキハ失迷スルコト無シ佛人ハ其進  
ムコト疾ク其退クコト鋭ナリ嗚呼彼レ豈真ニ退ク  
者ナラン哉彼レ其王路易第十六ノ頭ヲ斫リ其

## 〔39ウ〕

## 〔40オ〕

熱血ヲ掬取リテ之ヲ歐洲諸国王ノ頭上ニ沃キ  
衣無ク履無ク兵無ク糧無クシテ愈々益々奮進  
シ人々<sup>(頭)</sup>背上皆平等ノ大圓光ヲ帶ヒ敵丸傷クコト  
能ハス敵刃創クコト能ハス一時ニ盡ク諸国ノ制  
度ヲ一変シテ平等ノ制ト為サント欲セシカ如  
キハ狂顛ニ似タル哉拿破崙第一ノ百拳百克シ  
千戰千勝シテ孛塙魯英ノ軍能ク當ルト無カリ  
シハ其韜略ノ奇ナルニ由ルト雖モ抑々當時佛  
人カ平等顛病ノ熱氣<sup>(力)</sup>鼓舞セラレテ其體軀其精  
神並ニ迥カニ尋常人類ノ上ニ二ダシカ為メナリ  
然而テ佛人ハ俄然トシテ其平等大圓光ノ靈驗  
ヲ忘却シテ反テ拿破崙破甯旗幟ノ采色ニ眩亂シ緯  
約タル民主ノ天女ヲ放遣シテ獐患ナル帝国ノ  
猛<sup>(虎)</sup>□ヲ養養シ相率イテ自ラ其餌食ト爲シ甘ン  
シテ百年前ノ時勢ニ退却シテ佛国社會ノ論理  
頓ニ其次序ヲ失ヘリ否是レ正ニ佛国社會ノ大文  
章ナリ大波瀾瀾ナリ英國ハ能品ノ文ナリ前後次序整然  
タリ佛国ハ神品ノ文ナリ突兀トシテ次序有ルト無シ彼レ其  
後路易彪立布ヲ踣シ查理第十ヲ踣シ拿破崙第三ヲ踣  
シテ民主ノ政益々<sup>(斯ニ其)</sup>革小圓團ヲ成セリ嗚呼變動居ラ  
サルコト是レ佛国文章ノ次序ナル哉冒頭ヨリ結末ニ至ルマテ  
應接暇アラスシテ或ハ人ヲシテ爽快ナラシメ或ハ人ヲシテ

## 〔40ウ〕

## 〔41オ〕

慘澹タラシメ或ハ喜ハシメ或ハ怒ラシム英國ハ一部ノ学科

書<sup>テリ</sup>佛國ハ一冊ノ院劇本ナリ英ハラフアエルノ幀画ナリ佛

ハミケランジノ壁描ナリ英ハ少陵ノ律詩ナリ佛ハ大白ノ

古風ナリ英ハ程不識ナリ佛ハ李廣ナリ<sup>フミ</sup>日耳曼ハ

如何是レ政事國ナリ未タ政理國ト爲スヲ得サルナリ……」

<sup>洋學紳士遽ニ曰ク僕偶々興シテ喋々シテ大ニ</sup>  
論理ノ序ヲ失ヘリ先生請フ恕セヨ

是時洋學紳士ハ一層音声ヲ揚勵シテ曰ク且ツ

夫レ大邦ニ雄據シ百萬ノ精兵ヲ蓄ヘ百千數ノ

堅艦ヲ列シ民物殷阜ニ土產饒多ナル者ニ在リ

テハ富強ヲ以テ自ラ恃ミテ一代ヲ雄視スルコト

固ヨリ難キニ非ス疆土狹小ニ民衆寡少ナル者

ニ至リテハ理義ニ據リテ自ラ守ルニ非サレハ

他ニ憑恃ス可キ者有ルコト無シ陸軍ハ則チ十許

萬ニ過キス船艦ハ則チ十許艘ニ踰ヘス若シ大

ニ水陸軍備ヲ張りテ他ノ強國ニ遜ラサラント

欲スル時ハ財用ノ給セサル重稅苛斂シテ以テ

怨ヲ民ニ買フコトヲ免レス田野ヲ闢キ農桑ヲ勸

ムルモ土地ノ素ヨリ狹小ナル暴カニ之ヲ博大

ニスルコトヲ得可ラスシテ地ノ々ス所ハ一定ノ

限有リテ隨意ニ増殖ス可キニ非ス工業ヲ興張シ

テ利益ヲ機械若クハ手技ニ収メント欲スル乎

貨物殖<sup>□</sup>スルモ販路ノ求ム可キ無キヲ奈何セ

〔41ウ〕

ン試ニ歐洲諸國財利ノ形勢ヲ一見セヨ英國ハ

印度ヲ跨有シテ根本ヲ固メ凡ソ亜細亞阿非利

加彌利堅ノ諸洲至ル處地ヲ略シ氓ヲ移シ以テ

自ラ肥ヤスノ計ヲ規畫シテ遺漏有ルコト無シ佛

蘭西ハ亜非利加ニ於テアルジョリーヲ割有<sup>シ</sup>印度

ニ於テ西貢ヲ割有シ支那ニ於テ安南ヲ割有シ

其他諸國ニ至リテハ據ル所ノ土地大小有リト

雖トモ伸フル所ノ威權輕重有リト雖トモ皆占侵

スル所有ヲサル莫クシテ自國貨物ノ為メニ販

路ヲ通スルノ策既ニ固定セサル莫シ区々一小

邦ノ民タル者今ニ於テ僅々十萬數ノ兵衆ヲ々

シ十百艘ノ船艦ヲ發シ遠ク地ヲ境外ニ畧シテ

以テ本土財利ノ流注ヲ疏通セント欲スルカ如

キハ愚ニ非サレハ狂ナリ唯務メテ自ラ守リ自

ラ足スコトヲ求ム可キノミナレハ則チ何ソ此カ

為メニ一策ヲ々スコトヲ求メサルヤ一策トハ何

ソヤ請フ言ハン

民主平等ノ制ヲ建立シ人々ノ身ヲ人々ニ還ヘ

シ城堡<sup>□</sup>夷ケ兵備ヲ撤シテ他國ニ對シテ殺人

犯ノ意有ルコト無キコトヲ示シ亦他國ノ此意ヲ挾

ムコト無キヲ信スルノ意ヲ示シ一國ヲ擧ケテ道

德ノ園ト為シ學術ノ圃ト為シ單一箇ノ議院ヲ

〔42オ〕

〔43オ〕

〔42ウ〕

〔43ウ〕

置キ民ノ腦髓ヲシテ<sup>(分岐)</sup>ナラシメ凡ソ丁年ニ

<sup>(岐裂セサ)</sup>

満チテ白痴瘋癲其他品行ニ係リテ障礙無キ者

ハ貧富ヲ論セス男女ヲ別タス皆選舉權有リ皆

被選舉權有リテ皆一個ノ人ト為ラシメ地方官ハ

上縣令ヨリ下戸長ニ至ルマテ皆公選ト為シテ

行政官ニ媚フルコトヲ須イサラシメ並ニ法吏ヲ

以テ公選ト為シテ亦行政官ニ媚フルコトヲ須イ

サラシメ大ニ學校ヲ起シ謝金ヲ要スルコト無ク

シテ國人ヲシテ皆學ニ就キテ君子ト為ルノ手

段ヲ得セシメ死刑ヲ廢シテ法律的殘酷ノ繩具<sup>(紋)</sup>

ヲ斷チ保獲稅ヲ廢シテ經濟的嫉妬ノ隔障ヲ除<sup>(去)</sup>

□風俗ヲ傷敗シ若クハ禍乱ヲ煽起スルニ至ラ

サルヨリハ一切言論出版結社ニ係ル條令ヲ罷

メテ論者ハ其唇舌ノ自由ヲ得聽者ハ其鼓膜ノ

自由ヲ得筆者ハ其手腕ノ自由ヲ得讀者ハ其目

睫ノ自由ヲ得會集者ハ其胫脚ノ自由ヲ得ル等

是レ其綱領ナリ細目ハ別ニ之ヲ審議センノミ

道德ノ園ハ人之ヲ愛シ之ヲ慕フ、之ヲ壞ルニ忍

ビサルナリ學術ノ園ハ人之ヲ利シ之ヲ便トス、

之ヲ毀ツコトヲ欲セサルナリ請フ試ニ一タヒ之

ヲ行ハン哉之ヲ行フテ惡シケレハ止メンノミ

何ノ害有ル乎物化學家ヲ看ヨ苟モ発見スル所

〔44オ〕

有ルトキハ試験室ニ入りテ試験スルニ非ス乎試  
ニ亜細亞ノ小邦ヲ以テ民主平等道德學術ノ試  
驗室ト為サン哉吾僑或ハ吾界ノ最モ貴フ可ク  
最モ愛ス可キ天下太平四海慶福ノ<sup>(複合物質)</sup>元素ヲ蒸餾  
スルコトヲ得ン哉吾僑或ハ社會學實驗的ノ<sup>(フレイ)</sup>布列  
士埜利刺暉士噎ト為ラン哉此レ即チ僕カ所謂  
一策ナリ

<sup>(進)</sup>

且ツ夫ノ神化神ハ常々蒞ミテ人類ノ頭上ニ在

ルモ其威怒ヲ奮發スルコトハ或ハ頻數ナル有リ

或ハ稀疎ナル有リ或ハ百數年ニ一タヒ怒ヲ發

シ或ハ千數年ニ一タヒ怒ヲ發ス其怒ヲ發スル

コト頻數ナル時ハ其怒タルヤ甚激烈ナラサルモ

其千數年ニ一タヒ怒ヲ發スル時ハ其怒タルヤ

實ニ懼ル可シ他無シ吾人々類ノ姑息ナルヤ夫

ノ神ノ□温仁ノ顔ヲ示シ和柔ノ声ヲ垂ル、ノ

間ハ<sup>(不平等ノ)</sup>巖□、路ニ横ハルモ除カス荆棘、迢ニ滿ルモ

芟ラサルカ故ニ夫ノ神ハ其至ルニ及ヒ自ラ其

威怒ヲ奮フテ其輪蹄ヲ通スルハ已ムコトヲ得サ

レハナリ是故ニ夫ノ神ヲ奉スル政事<sup>(家)</sup>宗ノ僧侶

ハ各々其國ニ於テ古來夫ノ神ノ怒ヲ發シタル

度數ヲ計ヘテ苟モ其稀疎ナリシヲ認ルトキハ其

準備ニ於テ大ニ奮發<sup>(勉勵)</sup>シテ大ニ滌蕩振刷ス可キ

〔45ウ〕

〔45オ〕

ナリ若シ政事家ノ僧侶タル者深ク此道理ニ於  
テ意ヲ用ヒサル時ハ数十百年ノ後或ハ其君主  
ヲシテ英王查理第一ト為ラシメ佛王路易第十  
六ト為ラシメテ君ニ禍ヒシ民ニ禍ヒシテ且ツ  
後世ノ笑ト為ルヲ免<sup>(戒メサル可ケン哉縱令ヒ大ニ條議改革スル  
所有ルコト能ハサルモ新□廢石ヲ運搬増々廢石ヲ攢列シ益々窮乏ヲ叢積シテ早晚必ス光臨  
無作無業ニシテ貴富□樂ヲ享ケテ安ニ首ヲ他  
シ來ル進所ノ進花神ノ通路ヲ梗塞シテ放ラニ其震怒ヲ招クカ如キハ彼レ誠ニ何ノ心ソヤ  
ノ人類ノ上□昂ル者はレナリ荊棘トハ何ソヤ</sup>

〔46才〕

人或ハ云ハン民主ノ制ハ誠ニ理ニ合スルモ実  
行スルニ於テ甚タ難キ者有リ智識既ニ進ミ風  
俗既ニ完キニ非サレハ民主ノ制ハ祇タ以テ乱  
□ヲ為スニ足ランノミ大統領有リテ行政ノ職  
ニ首長□ルモ衆民ノ選挙ニ頼リテ職ヲ獲ルカ  
故ニ其威嚴遠ク帝王ニ遜ル有ルヲ以テ一日茲  
豪ノ非望ヲ覬覦スルニ遇フトキハ官民解體シテ  
挙国潰乱スルヲ免<sup>(且夫レ)</sup>レ<sup>(尊貴ノ位ニ在ルコト</sup>  
ヲ願欲スルハ人ノ情ナリ大統領ノ職<sup>(實ニ)</sup>選挙ニ頼  
リテ立ツト雖モ他ノ人民ニ比スル時ハ固ヨリ  
尊貴ニシテ衆<sup>(民)</sup>ニ夸耀スルニ足ル者有リ是ヲ以  
テ民主ノ国ニ在リテハ苟モ志氣有ル者ハ皆自  
ラ進ミテ統領ノ職ニ登ルコトヲ冀幸シ百方策ヲ  
竭シテ輿望ヲ釣弋スルコトヲ求メテ躁進ノ風終

〔46才〕

ニ得テ防ク可ラス此レ民主国ノ大患ナリ立憲  
ノ制ニ至リテハ此ニ異ナリ帝王ノ職常主<sup>(有)</sup>アリ  
テ以テ非望ヲ鎮壓スルニ足リテ又憲法ノ貴重  
ニシテ侵ス可ラサル<sup>(憲法)</sup>有ルカ故ニ王公將相ノ尊  
ト雖<sup>(モ)</sup>敢テ自ラ肆ニスルコト能ハスシテ民庶皆其  
自由ノ權ヲ守リテ喪ハサルコトヲ得ルナリ故ニ  
立憲ノ制ハ君相專擅ノ制ト民主ノ制トノ中間  
ニ居ル者ナリ其君位ノ尊嚴ナルカ為メニ非望  
ヲ鎮壓スルヨリシテ言ヘハ專制国ニ類スル有  
リ其人民ノ自由ナルヨリシテ言ヘハ民主国ニ  
似タル有リテ畢竟此両制度ノ利ヲ併有シテ其  
害無キ者ト謂フ可シ是ヲ以<sup>(モンテスキュー)</sup>テ孟得士瓜ハ其法  
律ノ精神ノ書ニ於テ斯<sup>(ステュアルミル)</sup>郊遏彌兒ハ其代議政論  
ノ書ニ於テ並ニ諸制度ヲ論シテ其必ス民俗高  
下ノ度ニ適當セサル可ラサルノ意ヲ言ヘリ  
嗚呼是言ヤ此レ所謂老生ノ常談ナリ天下進歩  
ノ運ヲ妨阻スル者ナリ著實ナルニ似テ実ハ非  
ナリ且ツ方今現ニ民主ノ制ニ循フテ治ヲ為ス  
者ヲ觀察セヨ北米聯邦や佛蘭西や瑞西や果テ  
其民皆君子ニ其俗皆諄粹ニシテ欠ル所無キ乎  
然ラサルナリ大統領改選ノ期ニ遇フ毎ニ常ニ  
禍乱ニ免レサル乎然ラサルナリ姦雄ノ徒常ニ

〔47才〕

〔47才〕

〔48才〕

非望ヲ覬覦スルノ患有ル乎然ラサルナリ

更ニ一層ヲ進メテ之ヲ論センニハ若シ立憲国

ノ民タル者唯其君主ノ尊嚴ナル有ルカ為メノ

ミニシテ安寧ヲ得ル時ハ是レ其安寧ノ福利ハ

自己ノ自由ノ權ニ賴リテ得ル所ニ非スシテ君

主ニ賴リテ得ル所ナリ吁嗟君主モ人ナリ我モ

人ナリ同一人類ノ身ニシテ自己ノ權ニ賴リテ

生ヲ為スコト能ハスシテ人ニ賴リテ僅ニ生ヲ為

スカ如キハ豈羞ツ可キノ甚キニ非ス乎

洋學紳士更ニ言ヲ發シテ云ヒケルハ且ツ民主

ノ制度ハ兵ヲ戢メ和ヲ敦クシテ地球一家ト為

ラシムルニ於テ欠ク可ラサルノ一事ナリ夫レ

萬国兵ヲ戢メ和ヲ敦クスルノ説ハ第十八世紀

ノ時ニ於テ佛人アペールトサンビエール始テ

之ヲ唱ヘシト雖モ當時此説ヲ善シトスル者甚

タ寡クシテ往々云ヘル<sup>(サンビエール)</sup>是レ終ニ行フ可ラス

ト又甚キ者ハ或ハ聖比噓ヲ<sup>(サンビエール)</sup>譁弄シテ空論家ト

為スニ至レリ即チウォルテールノ高朗ニシテ尤

モ意ヲ社会進歩ノ運ニ留メシモ聖比噓ノ説ヲ

聞キ猶ホ一二嘲謔ノ言辭ヲ放チテ自ラ慧トシ

自ラ聰トセリ獨リジャンジャツクハ酷タサンビエ

ールノ説ヲ賛稱シ其雄偉ノ筆ヲ振フテサンピ

〔48ウ〕

エールノ著書ヲ褒揚シテ乃チ言ヘリ此レ必ス

吾ニ存セサル可ラサルノ一書ナリト其後獨乙

人カントモ亦サンビエールノ占趣ヲ祖述シ萬

国平和ト題号スル一書ヲ著ハシテ兵ヲ寢メ好

ヲ敦クスル事ノ必要タルコトヲ論道セリ其言ニ

曰ク更ニ一步ヲ退ケテ論センニハ縱令ヒ人心

功名ヲ好ミ克捷ヲ喜フノ情終ニ除ク可ラスシ

テ平和ノ実<sup>(實ニ)</sup>古ニ施ス可ラスト為スモ苟モ理義

ヲ貴尚スル者ハ當ニ務テ此田地ニ前往スルコト

ヲ求ム可キナリ他無シ是レ正ニ人類ノ責任ナ

レハナリ云々ト但後吾學士輩未タサンビエー

ルノ説ニ滿タサル所ノ者蓋シ一有リ其兵ヲ寢

ムルノ手段是レナリ

凡ソ古今諸国ノ兵ヲ挙ケテ相ヒ攻撃スルニ至

ル所以ノ者其原因多シト雖モ細ニ之ヲ考フル

時ハ帝王若クハ將相タル者功名ヲ好ミ武震ヲ

喜フノ一念常ニ之レカ厲階ヲ為セリ故ニ萬国

皆民主ノ制ニ循フニ非サレハ兵ヲ寢ムルノ事

終ニ得テ望ム可ラスサンビエールハ此ニ慮ラ

スシテ當時各国ノ形勢<sup>(三)</sup>於テ曾テ心ヲ留メス

シテ唯旧來ノ制度ニ沿因シテ略ホ更革ヲ加フ

ルコト無クシテ專ラ條約誓盟ノ末ヲ頼ミテ以テ

〔49ウ〕

〔50オ〕

〔49オ〕

平和ノ実ヲ得ント欲セリ殊ニ知ラス彼ノ帝王  
將相ハ唯彼我強弱ノ勢是レ察シ彼レ強クシテ  
我レ弱ケレハ已ムコトヲ得ス一時和ヲ講シ盟ヲ  
締ヒテ自ラ紓フルコトヲ求ムルモ一旦国富ミ兵  
強キニ及ヒテハ(盟約)載書千紙有リト雖モ豈ニ復タ  
其桀驁ノ志ヲ尼ムルニ足ラン哉

是故ニ近時佛蘭西ノ理学士エミールアコラー  
スハ其諸種法律ノ區別ニ於テ吾ノ所謂萬国公  
法ヲ取りテ之ヲ道德ノ中ニ列シテ之ヲ法律ノ  
中ニ列セス其意思ヘラク凡ソ法律ト云フ者ハ  
必ス之ヲ司掌シ之ヲ施行スルノ公官有リテ且  
ツ又違犯スル者有ル時ハ必ス之ヲ懲罰スル有  
リ否サレハ竟ニ真ノ法律ト為ス可ラス若夫レ  
道德ハ履行スルト否サルト唯人々ノ衷情ニ在  
ルノミ吾ノ所謂公法モ亦此ノ如シ既ニ施行ニ  
任スル法術無ク又懲罰ヲ司トル公吏無シ是レ  
固ヨリ法律ト為スコトヲ得スト

アコラーヌ又諸国戦争ノ種類ヲ論シテ曰ク凡  
ソ戦ノ由リテ起ル所ノ者其目四有リ曰ク王家  
系統ノ争ナリ曰ク宗教ノ争ナリ曰ク人種ノ争  
ナリ曰ク商法ノ争ナリ顧フニ此四種ノ原因ノ  
中ニテ宗教ノ争ト人種ノ争トノ如キハ近日既

〔50ウ〕

〔51オ〕

ニ跡ヲ斂メテ復タ力ヲ逞クスルコト無シ今日ニ  
在リテハ土地ノ要勝(ヲ争ヒ)若クハ貨物ノ販路(競)ヲ争フ  
カ為メカ或ハ王家嗣續ノ權ヲ争フカ為メニ兵  
ヲ用ユル者實ニ多キニ居ル此前ノ者ハアコラ  
ースノ所謂商法ノ争ニシテ此後ノ者ハ其所謂  
王家系統ノ争ナリ而シテ更ニ其秘蘊ヲ搜抉ス  
ル時ハ其原因孰レニ在ルヲ問ハス或ハ帝王或  
ハ宰相其功名ヲ収ムルカ為メニ瑣屑ノ名義ヲ  
口ニ藉キテ兵ヲ弄スルニ至ル者多キニ居ル若  
夫レ民主ノ国ニ至リテハ自由ノ理平等ノ義友  
愛ノ情ノ三者ヲ以テ(社會)根柢ト為シ其隣国ニ勝ル  
コトヲ求ムルハ特ニ學術ノ精ト財利ノ富トノ二  
点ニ存スルノミ之ヲ要スルニ立君国ハ有形ノ  
腕力ニ頼リテ隣国ニ勝ルコトヲ求メ民主国ハ無  
形ノ旨趣ニ頼リテ隣国ニ勝ルコトヲ求ムル是レ  
ナリ

サンピエール一タヒ萬国平和ノ說ヲ唱ヘシヨ  
リジャンジャツク之ヲ頌賛シ其後獨人カントニ至  
リ益々此說ヲ擴充シテ其レヲシテ(體裁)理学精粹ノ  
旨趣ニ合セシムルコトヲ得タリ茲ニ其言ヲ挙ケ  
ン

カントノ言ニ曰ク萬国兵ヲ寢メ和ヲ敦クスル

〔51ウ〕

〔52オ〕

ノ好結果ヲ得ント欲スル時ハ諸国皆盡ク民主ノ制ニ□フニ非サレハ不可ナリ諸国既ニ民主ノ制ニ循フ時ハ是レ民ノ身ハ復タ君主ノ有ニ非スシテ已レノ有ナリ民苟モ自ラ有シ自ラ主ナル時ハ豈ニ復タ自ラ好ミテ相屠斬スルノ理有ラン哉……、二国相攻撃スルモ方リテ凡ソ戦

〔52ウ〕

ヨリ生スル所ノ災禍ハ誰カ之レニ當ル乎兵ヲ執リテ闘ヲ者ハ即チ民ナリ金ヲ帑シテ軍費ニ充ル者ハ即チ民ナリ廬舎焚焼セラレ田野踏藉セラレテ其害ヲ受ル者ハ即チ民ナリ事平クノ後国債ヲ募集シテ善後ノ策ニ任スル者モ亦民ナリ而テ此種ノ国債ハ終ニ償却シ尽スコトヲ得可ラス何トナレハ戦一タヒ交ハル時ハ禍連ナリ怨結ヒテ一旦和ヲ講スルモ久カラスシテ復タ発スルコトハ避ク可ラサルノ勢ナレハナリ果テ此ノ如クナル時ハ民タル者豈ニ自ラ好ミテ戦端ヲ開クノ理有ラン哉……

〔53オ〕

又曰ク立君ノ国ニ在リテハ然ラス彼ノ帝王ハ國ノ所有者ニシテ国士ノ員ニ非サルカ故ニ其民ノ血ヲ灑キ其民ノ財ヲ糜スルコトハ帝王ノ意ニ於テ少モ恤フル所ニ非ス何ソヤ兩軍既ニ接シテ礮彈交々死ヲ放チ銃丸互ニ創ヲ送り肝腦

〔53ウ〕

地ニ塗レ膏血野ヲ潤ホスノ時ニ於テ彼ノ帝王ハ或ハ苑中ニ在リテ游獵シ或ハ宮裡ニ居テ宴飲シテ略ホ平日ト異ナルコト無シ且ツ彼レ其初メ兵ヲ帑スヤ輕些ノ名義ヲ以テ口ニ藉クモ実ハ其民ノ性命ト財産トヲ賭ニシテ自己ノ功名ヲ求ムルニ外ナラスシテ所謂戰ハ帝王ニ在リテ畢竟戲樂ノ一種タルニ過キサルノミ

〔54オ〕

是故ニ近時歐洲諸国ノ學士中兵ヲ寢メ和ヲ敦クスルノ說ヲ唱フル者ハ皆民主ノ制度ヲ主張シ然後宇内萬国ヲ合シテ一大聯邦ヲ組成セント欲ス其言夸大ナルニ似タリト雖モ夫ノ政事の進化ノ理ヲ推シテ之ヲ考フル時ハ未タ必スシモ然ラサルヲ見ル嗚呼進化ノ理乎何ソ速ニ汝ノ輪ヲ轉シ汝ノ蹄ヲ運シ裁ユル者ハ之ヲ培ヒ傾ク者ハ之ヲ覆ヘシ大塊上幾億々ノ生靈ヲシテ皆熙々皞々トシテ生ヲ懷ンセシメサル乎嗚呼歐洲幾億數自由ノ人民ヨ汝等各々汝ノ國ニ在リテハ民刑諸種ノ法律有リテ汝ノ身汝ノ財汝ノ家室ヲ護リテ横サマニ害ヲ蒙ムルコト無ラシム即チ兇暴人有リテ敢テ害ヲ汝ニ加フル時ハ彼ノ法律ハ速ニ之ヲ懲ラシテ汝ヲシテ自ラ慰ムルコトヲ得セシム汝或ハ汝ノ財賄ニ於テ

〔54ウ〕

損害ヲ受クルコト有ルモ起チテ與ニ闘フコトヲ須  
ヒスシテ唯一紙ノ書ヲ持シテ<sup>(公平ナル)</sup>岁訴シテ足ル則  
チ彼ノ法吏ハ明文ニ據リ處斷シテ償ヲ取ラシ<sup>(放ラシテ)</sup>  
ム是ハ則チ汝ノ生タル蜜野交闘ノ危キヲ<sup>(難)</sup>々テ  
、文明制度ノ安キニ入ルコトヲ得タリ更ニ眸ヲ<sup>(ト謂フ可シ汝)</sup>  
轉シテ汝カ四境ノ外ヲ視察セヨ汝カ隣人ノ鑄  
鍛スル所ノ煩<sup>(鑄)</sup>鍛鎗銃ハ一日汝ヲ一発ノ下ニ轟  
殺スルカ為メナリ汝カ盧舍ヲ<sup>(燬)</sup>灰スルカ為メ  
ナリ其構造スル所ノ鍊艦ハ汝カ臨海ノ屋樹ヲ<sup>(水雷)</sup>  
震衝スルカ為メナリ汝今日枕ヲ高フシテ安眠  
スルト雖モ明日或ハ屍ヲ原野ニ暴スモ未タ知  
ル可ラス  
人ト人トハ文明ノ生ナリ家族ト家族トハ文明  
ノ安ナリ人ノ團聚ナル民ト民トハ蜜野ノ生ナ  
リ家族ノ集合ナル国ト国トハ蜜野ノ危ナリ痘  
瘡ノ其毒ヲ傳フルヤ牛痘以テ之ヲ避ルコトヲ得  
可シ瘡疾ノ其威ヲ肆マ、ニスルヤ石炭酸以テ  
之ヲ防クコトヲ得可シ隣敵ノ硝彈ハ之ヲ避ルコト  
ヲ得可ラス火ノ屋宅ヲ焼キ水ノ舟船ヲ覆スヤ  
保險ノ制以テ之ヲ償コトヲ得可シ隣敵ノ兵禍ハ  
之ヲ弭ムコトヲ得可ラス……、汝真ニ汝カ隣敵カ  
一日汝ヲ屠殺シ汝カ田宅ヲ焼暴シ汝カ港灣ヲ<sup>(斬)</sup>  
<sup>(汝ヲ創殺シ)</sup>

〔55ウ〕

裏破スルコトヲ憂フル乎汝何ソ速ニ汝カ<sup>(煩)</sup>砲ヲ  
鎖毀セサルヤ汝カ鍊艦ヲ焚燬セサルヤ<sup>(燒)</sup>  
第十九百紀ノ今日ニ在リテ真ニ武震ヲ以テ国  
光ト為シ侵略ヲ以テ国是ト為シ人ノ土ヲ奪ヒ  
人ノ民ヲ殺シ必ス地球ノ所有主ト為ラント欲  
スル者ハ真ニ<sup>(顧)</sup>狂国ナル哉我レ歐洲ノ東偏ニ於  
テ一箇ノ<sup>(顧)</sup>狂国有ルヲ見ル其歷古君主ノ孫謀ヲ  
觀テ知ル可シ……、劇藥ヲ投シテ其効力ノ意外  
ニ激甚ナリシヲ見テ自ラ驚悔スル者ハ日耳曼  
ナリ吳下ノ阿蒙ヲ<sup>(悔)</sup>悔リ反リテ屈ヲ受ケテ自ラ  
憤恨スル者ハ佛蘭西ナリ多ク田宅ヲ買ヒ貨財  
ヲ積ミテ人ノ来リ攘ムコトヲ畏レ百方防禦ニ苦  
ム者ハ英吉利ナリ兒童カ大人ノ姿睢猖狂スル  
ヲ見テ其心中種々ノ憂慮有ルコトヲ知ラス妄ニ  
欽羨シテ其列ニ加ハラント欲スル者ハ伊答利  
ナリ顛狂人四五人相共ニ棍棒ヲ揮フテ乱闘ス  
ルノ間ニ居テ可憐ノ嬰兒カ嬉戲游笑シテ反リ  
テ創傷ヲ免ル、者ハ其レ白耳義荷蘭瑞西乎米  
利堅乎米利堅乎<sup>(封建侯国)</sup>田舎武士カ妄ニ藩ノ名譽ヲ抱  
負シテ交々勇ヲ買ヒ互ニ疾視スルヲ觀テ笑フ  
テ顧ミス専ラ家業ヲ勤メテ多ク財ヲ致ス者ハ<sup>(貨)</sup>  
其レ米利堅乎心神頑鈍ニシテ敏ナラス手足重

〔56ウ〕

〔56オ〕

拙ニシテ捷ナラサルモ軀幹ノ肥大ナルヲ特ミ  
テ人ト闘フコトヲ怯レサル者ハ亜細亞ノ一大国  
乎身體尪羸ニ志氣怯弱ナルカ為メニ相與ニ一  
朋ヲ為シテ時々他ノ兇童ノ來リ虐スルニ苦ム  
者ハ亜細亞ノ諸島乎……、咄、汝其中一神童ノ在  
ル有ルヲ見サル乎彼レ其至ル所未タ量ル可ラ  
サルナリ汝何ソ盲ナルヤ

佛蘭西ヤ日耳曼ヤ查理大帝ノ時ニ在リテハ此  
兩人實ニ一體ヲ為セリ其後王路易第十四ノ佛  
蘭西妄ニ日耳曼ヲ伐テ之ニ克チ其後非列埒利  
第二ノ孛漏生ハ佛蘭西ヲ敗リテ怨ヲ報ヒタリ  
其後拿破崙第一ノ佛蘭西又妄ニ日耳曼ヲ伐テ  
之ニ克チ近日維廉帝ノ孛漏生ハ佛蘭西ヲ敗リ  
テ又怨ヲ報ヒタリ世々相攻伐シ吾々相報復ス  
ル時ハ何ノ窮己カ有ルヤ維廉帝ノ孛漏生ト拿  
破崙<sup>(帝)</sup>ノ佛蘭西ト実ニ怨ヲ結ヘリ孛漏生人ノ孛  
漏生ト佛蘭西人ノ佛蘭西トハ果テ何ノ怨カ有  
ルヤ

孛漏生人ノ孛漏生ト佛蘭西人ノ佛蘭西ト此兩  
人ハ皆文明人ナリ皆學術人ナリ皆稀<sup>稀</sup>突ノ武夫  
ニ非サルナリ佛蘭西ハ既ニ佛蘭西人ノ佛蘭西  
ト為レリ孛漏生一日亦孛漏生人ノ孛漏生ト為

[57オ]

[57ウ]

ルニ於テハ吾レ其結ヒテ兄弟ト為ルヲ見ル佛  
蘭西ノ機敏ナルヤ孛漏生ノ沈重ナルヤ吾レ其  
結ヒテ友朋ト為ルヲ見ル魯失亜乎魯失亜乎  
突ノ武夫ナリ汝モ亦歴山帝ノ魯失亜ヲ去リテ  
魯失亜人ノ魯失亜ト為ラン乎<sup>(暴亢ナル)</sup>虚無黨ノ暴亢ナ  
ル吾レ固ヨリ其深意有ルヲ知ルナリ英吉利モ  
亦文明人ナリ學術人ナリ財ヲ積ムコトヲ好ム者  
ナリ故ニ其或ハ暴ヲ亜細亞阿非利加ニ肆マ、  
ニスルハ其實ハ已ムコトヲ<sup>(獨)</sup>魯失亜<sup>(ノ暴ナルコトヲ思ヘテ已ムコトヲ)</sup>得サルニ因  
ル乎……、英ヤ佛ヤ魯ヤ曼ヤ汝唯汝ノ兒子中ニ  
豪傑ト称スル怪物ヲ出サ、ルコトヲ是レ務メモ  
不幸ニシテ豪傑ノ怪物出ル時ハ慎テ其言フ所  
ヲ聴クコト勿レ汝若シ誤リテ其言ヲ聴ク時ハ汝  
ハ終ニ汝ノ有ト為ルコト能ハスシテ怪物ノ有ト  
為ラン

今一言センニハ地球上諸大国多クハ皆愚ニシ  
テ立君ノ制ヲ守リテ自ラ禍ヒシ且ツ其君ニ禍  
ヒシ或ハ將ニ其君ニ禍ヒセントス諸小国タル  
者何ソ進ミテ民主ノ制ニ入りテ自ラ福ヒシ且  
ツ其君ニ福ヒセサルヤ地球上諸強国多クハ皆  
怯ニシテ交々畏レ互ニ憚リテ兵ヲ蓄ヘ艦ヲ列  
ネテ反リテ自ラ危クス諸弱国タル者何ソ自ラ

[58オ]

[58ウ]

[59オ]

断シテ兵ヲ撤シ艦ヲ散シテ以テ安キニ就カサル

豪傑ノ客膝ヲ進メテ曰ク紳士君ノ言ハ誠ニ學士ナル哉學士ノ言ハ之ヲ書ニ筆ス可クシテ之ヲ行ニ施ス可ラス紳士君誠ニ倫敦巴勒伯林伯德武爾屈ニ游ヒ力ヲ竭シテ君ノ高論ヲ唱道セシ乎彼国新聞記者ハ或ハ其雜報欄中ニ於テ戯レニ之ヲ掲ケン政事家ハ恐クハ之ヲ……

洋學紳士遽ニ曰ク政事家ハ必ス之ヲ狂トセン政事家ノ之ヲ狂トナルコト是レ正ニ僕ノ自ラ夸ル所以ナリ學士ナル哉學士ナル哉今ノ所謂政事家ハ天下ノ最モ政事ニ拙ナル者ナリ學士ナル哉學士ナル哉古人云ヘリ理學士政ヲ秉ラサル間ハ真ノ治平ハ終ニ望ム可カラスト信ナル哉

豪傑ノ客曰ク紳士君ノ旨趣ハ僕詳ニ之ヲ解セリ但一事ノ請問ス可キ件有リ抑モ紳士君力諸弱小国ノ速ニ民主ノ制ニ循ヒ且ツ速ニ兵備ヲ撤スルコトヲ欲スルハ其意竊ニ米利堅佛蘭西ノ如キ民主国カ其志ヲ偉ナリトシ其業ヲ奇ナリトシテ之ヲ援輔スルコトヲ冀幸スルニ非ス乎洋學紳士對テ曰ク否々一時ノ幸ヲ俸トシテ国ノ大事ヲ断スルコト是レ政事家ノ動スレハ計ヲ

〔59ウ〕

誤ル所以ナリ僕ハ唯理義ヲ是レ視ルノミ彼ノ米利堅佛蘭西ノ属カ我志ヲ偉ナリトシ我業ヲ奇ナリトシテ我ヲ援輔スルカ或ハ他ノ魯英獨ノ属カ萬国均勢ノ義ニ由リテ我ヲ保護スルカ如キハ皆自ラ彼輩ノ事ナリ我レ何ソ與リ知ラシ

豪傑ノ客曰ク然ハ則チ若シ兇暴ノ国有リテ我レノ兵備ヲ撤スルニ乗シ兵ヲ遣ハシテ來リ襲フ時ハ之ヲ如何

洋學紳士曰ク僕ハ断シテ此ノ如キ兇暴国有ルコト無キヲ知ル若シ萬分ノ一此ノ如キ兇暴国有ルニ於テハ吾僞各々自ラ計ヲ為サンノミ但僕ノ願フ所ハ我衆一兵ヲ持セス一彈ヲ帶ヒス從容トシテ曰ハンノミ吾僞未タ札ヲ公等ニ失フコト有ラス幸ニ責ラル、ノ理有ルコト無シ吾僞相共ニ治ヲ施シ政ヲ為シテ爭訟スルコト有ルコト無シ公等ノ來リテ吾僞ノ国事ヲ擾スコトヲ願ハス公等速ニ去リテ国ニ歸レト彼レ猶ホ聽スシテ銃礮ヲ装シテ我ニ擬スル時ハ我衆大声シテ曰ハンノミ汝何ソ無礼無義ナルヤト因テ彈ヲ受ケテ死センノミ別ニ奇巧ノ策有ルニ非サルナリ

〔60ウ〕

〔61オ〕

〔60オ〕

豪傑ノ客失笑シテ曰ク甚キ哉理學ノ旨趣ノ人心ヲ錮蔽スルヤ紳士君カ数時間來滔々ノ辨ヲ奮フテ宇内ノ形勢ヲ論シ政事ノ沿革ヲ述ヘシモ最後ノ一著ハ挙国ノ民手ヲ拱シテ一時二敵丸ノ下ニ斃ル、ニ過キサルノミ談何ソ容易ナルヤ有名ナル進化神ノ靈驗ハ果テ此ノ如キ者乎幸ニシテ僕ハ明ニ他ノ衆人カ必ス此神ノ仁心ニ依頼セサルコトヲ知ルナリ

〔61ウ〕

南海先生ハ此答問ヲ聽キ默シテ一言ヲ發セサリシカ是ニ至リ更ニ自ラ一飲シ因テ二客ニ觴シテ云ヘルハ紳士君ノ高論ハ僕既ニ之ヲ聞クコトヲ得タリ豪傑君願クハ亦偉説ヲ垂示シテ以テ僕ニ教ユル有レ

豪傑ノ客乃チ云ヒケルハ抑モ戦争ノ事タル學士家ノ理論ヨリシテ言フ時ハ如何ニ厭忌ス可キモ事ノ實際ニ於テ畢竟避ク可ラサルノ勢ナリ且ツ勝ツコトヲ好ミテ負ルコトヲ惡ムハ動物ノ至情ナリ虎獅豺狼ニ論無ク虫蛾ノ類ニ至ルマ

テ苟モ両問ニ呼息スル者皆殺獲ヲ以テ事ト爲サ、ルハ莫シ試ニ看ヨ生物ノ中ニ就キテ愈々靈慧ナル者ハ愈々猛勇ニシテ愈々蠢愚ナル者ハ愈々怯懦ナリ家鳧ハ禽中ノ最モ愚ナル者ニ

〔62オ〕

シテ家猪ハ獸中ノ最モ蠢ナル者ナリ鳧ハ唯鵞々ノ声ヲ發スルノミ蹄齧スルコト能ハス豕ハ唯喙々ノ音ヲ揚クルノミ蹄齧スルコト能ハス是ニ物果テ温仁ナリト爲ス<sup>(ヲ)</sup>得ル乎試ニ<sup>(小)</sup>兒輩ヲ看ヨ僅ニ匍匐シテ身ヲ運スルニ及ヒテハ犬狸ノ属ヲ見レハ或ハ棍ヲ拳ケテ之ヲ打チ或ハ尾ヲ攫ミテ之ヲ曳キテ彼レ其圓釋ノ顔色欣々然トシテ自ラ快トセリ其然ラサル者ハ必ス體軀尪弱ニシテ氣力無キ者ナリ且ツ忿怒ハ義氣ノ発ナリ苟モ義氣有ル者皆怒ラサル者莫シ故ニ狸ノ鼠ヲ捕フルハ狸ノ義氣ナリ狼ノ鹿ヲ捕フルハ狼ノ義氣ナリ是ニ物豈不仁ト爲ス可ケン哉是ニ物ヲ以テ不仁ト爲スハ畢竟吾侪人類中ノ言語ナルノミ

〔63オ〕

且ツ彼ノ學士ハ理論ヲ貴ヒテ鬭爭ヲ賤ムト雖トモ実ハ亦勝ツコトヲ好ミテ負ルコトヲ惡ムヲ免レス試ニ看ヨ兩學士ノ相嚮フテ各々其持説ヲ述ルニ方リテヤ交々論シ互ニ駁シ其末ヤ声ヲ厲マシ膝ヲ動カシ目ヲ瞋ラシ腕ヲ扼シ相共ニ鬯々トシテ復タ敵家ノ言フ所ヲ聽クコト無シ彼レ必ス曰ハン己レノ勝ツコトヲ好ムニ非ス己レカ主張スル所ノ理ニ勝ツコトヲ好ムノミト遁辭

〔62ウ〕

ナル哉若シ真ニ理ノ勝ツコトヲ好ムノミナラハ  
何ソ虚心平氣ニテ之ヲ述ヘサル乎  
(其旨趣)

爭ハ人ノ怒ナリ戰ヒハ国ノ怒ナリ爭フコト能ハ  
サル者ハ懦夫ナリ戰フコト能ハサル者ハ弱國ナ  
リ人若シ爭ハ惡德ナリ戰ハ末節ナリト曰ハ、  
僕ハ對ヘテ曰ハントス人ノ現ニ惡德有ルコトヲ  
奈何セン国ノ現ニ末節ニ徇フコトヲ奈何セン事  
ノ實際ヲ奈何セント

是故ニ文明国ハ必ス強国ナリ戰フコト有リテ爭  
フコト無シ嚴明ナル法律有リ故ニ人ト人トハ爭  
フコト無シ強盛ナル兵力有リ故ニ国ト国トハ戰  
フコト無キコト能ハス夫ノ野蠻ノ民ハ常々相爭フ  
テ已マス豈復タ戰フニ暇有ラン哉是故ニ古今

ノ史藉ニ徴スルニ昔ノ文明国ハ昔ノ善ク戰フ  
者ナリ今ノ文明国ハ今ノ善ク戰フ者ナリ斯披  
善ク戰ヘリ羅馬善ク戰フ者近世ニ在リテハ英  
佛獨魯最モ善ク戰フ者ナリ是故ニ史藉ニ據ル

ニ世運益々進ムニ及ヒ其戰ニ於テ兵ヲ用ルコト

(其智益々開ルニ)

益々衆ク武器益々精ク城壘益々固シ是故ニ武  
備ハ各国文明ノ効ノ統計表ナリ戰爭ハ各國文  
明ノ力ノ驗温器ナリ二国將ニ戰ハントスル乎  
學術最モ精ナル者貨財最モ富メル者必ス勝ヲ

〔63ウ〕

獲可シ其武備殷實ナルカ故ナリ五洲ノ中ニ就  
キ歐羅巴文明最モ進メリ故ニ武備最モ充テリ  
戰最モ強シ是レ其明證ニ非ス乎是レ事ノ實迹  
ニ非ス乎

〔64オ〕

魯失亜兵百餘萬有リ將ニ土耳其ヲ呑マント欲  
シ將ニ朝鮮ヲ併サント欲ス日耳曼モ亦兵百餘  
萬有リ既ニ佛蘭西ヲ蹋蹴シテ將ニ威ヲ亜細亞  
ニ伸ヘント欲ス佛蘭西モ亦兵百餘萬有リ將ニ  
讐ヲ日耳曼ニ報セント欲シ又新ニ地ヲ安南ニ  
略セリ英吉利堅艦百餘有リ地球上到ル處殖民  
地無キハ莫シ且ツ近日歐洲諸強國ノ為ス所ヲ  
見スヤ魯英獨佛互ニ目ヲ瞋ラシ交々腕ヲ撫テ  
機ヲ視テ將ニ発セントスルノ勢ハ恰モ爆發藥  
ヲ堆積シテ地上ニ滾轉スルカ如シ一時轟然ト  
シテ迸裂スル時ハ千百萬ノ兵卒ハ歐洲ノ野ヲ  
蹂藉シ百千艘ノ閼艦ハ亜細亞ノ海ヲ攪破セン  
トス是時ニ於テ區々トシテ自由平等ノ義ヲ唱  
ヘ四海兄弟ノ情ヲ述フルカ如キハ真ニ陸秀夫  
ノ論語ナル哉

〔64ウ〕

炎熱熾々トシテ蒸スカ如ク焼クカ如シ人有リ  
机ニ對シ椅ニ憑リ或ハ書ヲ披ヒテ呻吟シ或ハ  
目ヲ瞑シテ反觀シ流汗面ニ漲リ背ニ湛ヘテ自

〔65オ〕

〔65ウ〕

ラ其熱ヲ覺ヘス冬夜將ニ五更ナラントス燈微  
ニ爐冷ニ硯水磨スルニ隨フテ氷結シ手足頭面  
胸腹背脊一点ノ温素有ルコト無シ其人ヤ亦机ニ  
対シ椅ニ憑リ或ハ書ヲ披ヒテ呻吟シ或ハ目ヲ  
瞑シテ反觀シテ自ラ其寒ヲ覺ヘス彼レ果テ何  
ノ樂ム所有ル乎樂ム所有リ其樂ミタルヤ極テ  
大ナリ彼レ其腦中ノ智慧方ニ一心衆力ノ將帥  
ト為リ迭升法ヲ銃礮トシ迭降法ヲ船艦トシ諸  
種謬戾ノ効敵ヲ擊破シテ真理ノ国都ニ進入セ  
ントス其樂タルヤ極テ大ナリ商人ハ市道不振  
ノ効敵ニ勝テ巨利ヲ攫ムコトヲ樂ミ農夫ハ氣候  
不序ノ効敵ニ勝テ豊穰ヲ獲ルコトヲ樂ム其他一  
業ヲ執リ一技ヲ脩ムル者皆勝利ヲ求メサル莫  
シ皆快樂ヲ願ハサル莫シ人各々皆樂ム所有リ  
国モ亦樂ム所無ル可ケン哉人ヲシテ樂マシム  
ル者ハ各人ノ心ナリ国ヲシテ樂マシムル者ハ  
宰相ノ謀策ナリ武將ノ韜略ナリ謀策妙ニシテ  
□国先ヲ爭フテ盟ヲ我ニ納レ韜略奇ニシテ敵  
国一戰ノ下ニ破敗ス国ノ樂タル其レ何如ソヤ」  
且ツ紳士君ハ專ラ戰爭ヲ以テ不好事ト為シ兵  
卒ノ櫛風沐雨ノ苦ヲ想像シテ真ノ苦ト為シ兵  
卒ノ焦頭裂脚ノ痛ヲ想像シテ真ノ痛ト為ス真

〔66オ〕

ノ苦ナラン哉真ノ痛ナラン哉戰ハ勇ヲ主トシ  
勇ハ氣ヲ主トス両軍將ニ合セントス氣ハ狂ス  
ルカ如ク勇ハ沸クカ如シ是レ別天地ナリ是レ  
新境界ナリ何ノ苦痛有ラン哉敵軍我ヲ距ルコト  
若干里ニシテ某處<sup>(三)</sup>ヘ止舍ス我カ大將往キ二候  
騎ヲ遣ハシテ委曲其狀ヲ審ニセリ我衆彼山腹  
ヲ繞リ此通路ヲ過キ敵ノ後ニ二ガテ敵ノ横ニ二鎗  
テ敵ノ不意ニ二ガテ一時二煩礮ヲ發シ一斉ニ鎗  
銃ヲ放チ煙ニ乗シテ馳突シ風ヲ負フテ撞衝セ  
ハ我レ必ス勝ヲ一撃ニ決スルコトヲ得ン吾レ且  
ツ身ヲ挺シテ先登セン死セサルヲ得ル乎勇烈  
三軍ニ冠タラン死スル乎名ヲ身後ニ留メン是  
レ卒徒ノ樂ナリ其樂タルヤ極テ大ナリ且ツ紳  
士君カ祁寒ヲ畏レス炎熱ヲ怯レス書ヲ披ヒテ  
呻吟シ目ヲ瞑シテ反觀シ自ラ以テ苦痛ト為サ  
ス武夫タル者何ソ死傷ヲ以テ苦痛ト為サンヤ」  
曠野茫々トシテ十里以内人家ヲ見ス四望スレ  
ハ岡巒起伏シ蜿蜒シ屏風ヲ列ルカ如シ天晴レ  
風靜ニシテ初日霜ヲ照ラシ枯艸平鋪シ瘦莖溜  
ムニ隨フテ摧折ス晚秋ニ非レハ初冬ナリ敵軍  
前ニ當リテ陣ス其衆八十萬ナル可シ十二萬ナ  
ル可シ其將校ハ某々ナリ善ク兵ヲ用ルノ名有

〔67オ〕

〔66ウ〕

〔67ウ〕

リ其士卒ハ頗ル精勁ニシテ其兵仗ハ頗ル銳利ナリ我軍十萬皆剛烈ニシテ素ヨリ吾カ將略ニ服ス我レ捷ヲ得レハ銃劒敵ノ背ニ接シ長驅シテ都ニ入り地ヲ裂キ金ヲ要シ和成リテ我王国ノ武威斯ニ<sup>(四隣)</sup>海外ニ光被セン捷ヲ得サレハ則チ一死以テ驍名ヲ世ニ播サンノミ是レ大將ノ樂ナリ其樂タルヤ極テ大ナリ……、紳士君、紳士君君ハ筆墨ヲ以テ樂ト為セ僕ハ戎馬ヲ以テ樂ト為サン

南海先生是言ヲ聞キ微笑シテ曰ク公等年壯ニ氣銳ナリ各々其樂ヲ以テ樂ト為スコシ余ノ樂ム所ハ唯此レ有ルノミト因テ又一二杯ヲ連飲シ胸ヲ撫テ曰ク快ナル哉

洋學紳士曰ク豪傑君方ニ君ト與ニ国家ノ大計ヲ論ス一身ノ樂ヲ論スルニ非ス君モ亦少ク本論ノ外ニ<sup>二</sup>似タル

南海先生曰ク豪傑君善ク人心ノ奥區ヲ搜抉シ善ク人情ノ快樂ヲ摸寫ス性理家ノ說ニ得ル有ル者ニ似タリ

豪傑ノ客曰ク僕過テリ請フ直ニ本論ニ入ラン方今宇内萬邦ノ相競フテ武ヲ尚フヤ凡ソ學術ノ得ル所種々精妙ノ効果ハ皆資リテ以テ戎馬

〔68才〕

〔68ウ〕

ノ用ニ供シテ益々其精銳ヲ極ム即チ物象ノ學物化ノ學算數ノ學ノ如キ或ハ以テ銃礮ヲ精ニシ或ハ以テ城壘ヲ堅クシ農工商賈ノ業ノ如キ或ハ以テ軍器ノ費ニ給シ或ハ以テ糧食ノ用ニ充ツ之ヲ要スルニ凡ソ百般ノ業皆轉注滙流シテ力ヲ軍政ニ輪サ、ル莫シ是レ其百萬ノ兵衆數百千ノ艦隊カ一号令ヲ待テ直ニ敵城ヲ指シテ進ミ敵港ヲ望テ駛リテ期會ニ後レ節度ニ違フノ患無キ所以ナリ嗚呼此幾萬々虎狼ノ眼下ニ在リテ國ヲ為ス者軍政ヲ外ニシテ何ヲ恃ミテ自ラ維持セン哉然ト雖モ彼レ百萬ノ兵有リテ我兵十萬ニ過キス彼レ千百ノ艦有リテ我艦數十二踰ヘサルニ於テハ日々ニ練習ヲ事トシテ其精銳ヲ極ムルモ要スルニ<sup>二</sup>兒戲ニ等キノミ要スルニ一時目ヲ怡ハスノ觀ニ過キササルノミ此ヲ用テ以テ外侮ヲ禦カント欲スルカ如キハ愚ニ非レハ狂ナリ我港灣未タ煩轟ノ害ヲ受ケス是レ幸ナルノミ我堡壘未タ燒夷ノ禍ヲ被ラス是レ幸ナルノミ彼レ元來我ヲ畏ル、コト有ルニ非ス彼レノ來寇セサルハ彼レ自ラ未タ來寇スルヲ得サル理由有ルカ故ナリ彼レ一日來寇セント欲セハ輒チ來寇センノミ則チ我港灣ハ

〔69才〕

〔69ウ〕

〔70才〕

轟破セラレンノミ我城堡ハ燒夷セラレンノミ  
我州郡ハ割裂セラレンノミ我都城……、嗚呼今

日ニ在テ衆小邦タル者其レ危殆ナル哉

然ト雖モ邦小ナル者ハ猝ニ之ヲ大ニセント欲  
スルモ得可ラス邦貧ナル者ハ暴ニ之ヲ富サン  
ト欲スルモ得可ラス兵寡キモ之ヲ増スコトヲ得  
可ラス艦少キモ之ヲ多クスルコトヲ得可ラス然  
トモ兵ヲ増シ艦ヲ多クシ邦ヲ富シ邦ヲ大ニセ  
サル時ハ或ハ亡滅ニ至ルモ未タ知ル可ラス是  
レ算數ノ理ナリ波蘭ト緬甸トヲ見スヤ幸ナル  
哉今日ニ於テ我レ現ニ邦ヲ大ニシ邦ヲ富シ兵  
ヲ増シ艦ヲ多クスルノ策有リテ存ス何ソ速ニ  
此策ニ從事セサルヤ

亜細亞ニ於テ乎阿非利加ニ於テ乎僕偶マ之ヲ  
忘レタリ一大邦ノ在ル有リ僕偶マ其名ヲ忘レ  
タリ是レ甚タ博大ナリ甚タ富貴ナリ而テ甚タ  
劣弱ナリ僕聞ク此邦兵百餘萬衆有リト然トモ  
混擾シテ整ハス寬急用ヲ為スニ足ラスト僕聞  
ク此邦制度有ルモ制度無キカ如シト是レ極テ  
肥腴ナル一大牲牛ナリ是レ天ノ衆小邦ニ餌シ  
テ其腹ヲ肥サシムル所以ナリ何ソ速ニ往テ其  
半ヲ割サルヤ其三分ノ一ヲ割サルヤ一紙ノ詔

〔70ウ〕

〔71オ〕

令ヲ發シ尽ク國中ノ丁壯ヲ募ル時ハ之ヲ少ク  
スルモ四五十萬衆ヲ得可シ府庫ノ財ヲ傾クル  
時ハ之ヲ少クスルモ數十百艦ヲ買フ可シ兵往  
キ商往キ農往キ工往キ學士往キ兵ハ捷チ商ハ  
販ヒ農ハ耕シ工ハ作リ學士ハ教ヘテ彼邦ノ半  
若クハ三分ノ一ヲ我邦トスルニ於テハ我レ其  
レ大邦ト為ラン財阜二人衆ク乃チ數クニ政教  
ヲ以テセハ城壘起ス可ク煩懣鑄ル可ク陸ニハ  
百萬ノ精銳ヲ戢ス可ク海ニハ百千ノ堅艦ヲ泛  
フ可シ我小邦一變シテ魯失亜ト成リ英吉利ト  
成ラン……旧小邦ハ如何カ之ヲ措置セン我レ

既ニ新大邦ヲ得タリ旧小邦ハ何ソ心ヲ留ムル  
コトヲ須ヒンヤ且ツ我君上ハ親ラ我中軍ニ將ト  
シ某々々々水師提督ト某々々々大中小將トヲ  
隨ヘテ自ラ擁衛シ堅牢無比ナル某艦ニ御シテ  
海ヲ踰ヘ往ニ我某道ノ軍ノ大捷ヲ得タルニ乘  
シ某地ヲトシテ都ヲ奠メ新ニ宮殿ヲ起シ構築  
極テ宏麗ニシテ羽林ハ環列シ飛騎ハ圍屯シ儼  
然トシテ帝者ノ居ヲ為セリ故ニ我君上ハ我新  
大邦ノ君上ナリ旧小邦ハ外国ノ來リ取ルニ任  
セン魯失亜先ツ來ル乎我レ之ヲ與ヘン英吉利  
先ツ來ルカ我レ之ヲ與ヘン……、否々此レ上策

〔71ウ〕

〔72オ〕

二非ス旧小邦ニハ民権家有リ民主家有リ彼輩  
多クハ君主ヲ好マス兵隊ヲ好マス我君主我兵  
隊ハ皆新大邦ニ徙レリ故ニ旧小邦ヲ拳ケテ之  
ヲ民権家民主家ニ與ヘン彼輩ノ喜ヒハ則チ知  
ル可キナリ上策ニ非ス乎

歴代ノ山陵ヲ如何セン民権家如何ニ兇頑ニシ  
テ君主ヲ好マサルモ既ニ升遐シタル君主ヲモ  
好マシテ敢テ無礼ヲ陵墓ニ加フルニ至ランヤ  
年々使節ヲ遣ハシテ幣ヲ奉セハ何ソ追遠ノ礼  
ヲ欠クニ至ランヤ

我レ既ニ一大邦ヲ奄有シ土廣ク民衆ク兵強ク  
艦堅ク益々農ヲ勸メ益々商ヲ通シ益々工ヲ惠  
ミ益々政令ヲ脩ムルニ於テハ我官家ハ財益々  
殷富ニシテ此ヲ以テ彼ノ欧米文明ノ効力ヲ買  
取り我庶民モ亦財益々殷富ニシテ此ヲ以テ彼  
ノ欧米文明ノ効力ヲ買取ルニ於テハ彼英佛魯  
獨ノ悍強ナルモ復タ何ソ我ヲ侮ルコトヲ得ン哉  
且ツ彼英佛獨魯ノ諸国カ今日富強ヲ致セシ所  
以ノ者ハ一朝一夕ノ故ニ非スシテ其原因タル  
極テ滋ク其手段タル極テ蕃シ或ハ賢哲王ノ統  
御シテ仁慈ヲ布クアリ或ハ俊傑宰相ノ君主ヲ  
輔ケテ内外ノ政ヲ整理スル有リ或ハ名將ノ武

〔72ウ〕

〔73オ〕

勲ヲ建ツル有リ或ハ碩學ノ士ノ至理妙義ヲ唱  
フル有リ或ハ巧藝ノ士ノ精器ヲ造ル有リ昇平  
時ニ在テハ之ヲ停滯シ之ヲ浸漬シ兵争ノ候ニ  
於テハ之ヲ泄瀉シ之ヲ攪攤シ膏雨以テ之ヲ潤  
ホシ晴日以テ之ヲ晒シ或ハ阻隘ヲ去リテ坦夷  
ニ就キ或ハ激湍ヲ岑テ、穩流ニ入り或ハ右ニ  
或ハ左ニ或ハ緩ニ或ハ急ニ二千辛萬苦シテ以テ  
今日文明ノ境界ニ透徹セリ是レ其年歳ヲ費ヤ  
シ智力ヲ費ヤシ工夫ヲ費ヤシ性命ヲ費ヤシ財  
貨ヲ費ヤシタルコト如何ソヤ然ルニ我レ一時傍  
ヨリ其効果ヲ分チ取りテ文明ノ境ニ闖入セン  
ト欲セハ金ヲ費シテ買取ルニ非レバ他ニ手段  
無キナリ然ルニ文明ノ價ハ極メテ貴クシテ些  
少ノ額ヲ以テ之ヲ買フ可キニ非ズ故ニ小邦ニ  
在リテ暴力ニ之ヲ買取ラント欲スル時ハ国財  
頓ニ盡ルニ至ラン若シ徐々ニ金ヲ費シテ徐々  
ニ買取ラント欲スルトキハ買得タル所未タ幾何  
ナラスシテ我ハ則チ彼ノ為ニ吞併ラレン何ト  
ナレハ我レ小ナリト雖モ彼レ若シ我ヲ得ル時  
ハ更ニ其文明ノ具ヲ増スニ於テ幾分益スル所  
有ル可レハナリ且ツ縱令ヒ彼レ溫仁ニシテ憐  
ミテ敢テ我ヲ吞併セサルモ彼ハ強大ニシテ我

〔73ウ〕

〔74オ〕

ノ弱小ナル我レ自然ニ消融シ自然ニ糜滅スルヲ免レス譬ヘハ猶ホ一滴水ヲ炎日ニ晒スカ如シ彼日ハ必スシモ水ヲ乾スノ意有ルニ非サルモ水ハ則チ自然ニ蒸氣ト為リ散滅シテ已マンノミ是レ強弱大小ノ勢ナリ

是故<sup>(他邦)</sup>二人ニ後レテ文明ノ具ヲ得ント欲スル者ハ必ス巨額<sup>(ノ金)</sup>ヲ費シテ買取ラサル可ラスシテ小

邦ニ在リテハ其費ヲ給スルコト能ハス必ス更ニ一大邦ヲ割取リテ己レ自ラ富國ト為ラサル可

ラス然ルニ天ノ寵靈ニ頼リテ眼前<sup>(歴然タル)</sup>一大邦ノ在

ル有リテ其國極テ富ミ且ツ弱キニ於テハ何ノ幸カ之ニ踰ル有ラン假ヒ彼大邦ヨシテ強盛ナ

ラシメハ我レ割取リテ自ラ富マント欲スルモ得可ラス今幸ニ彼大邦現ニ富且弱ナルニ於テ

ハ小邦タル者何ソ速ニ之ヲ取ラサルヤ之ヲ取リテ自ラ富ミ自ラ強クスルハ取ラスシテ自ラ

消滅スルニ勝ルコト萬々ナラスヤ

品式習尚情意ヲ挙ケテ之ヲ變更セサル可ラス

是ニ於テ国人中必ス旧ヲ恋フノ念ト新ヲ好ムノ念トノ二者發生シテ反對ノ觀ヲ呈スルニ至

〔74ウ〕

〔75オ〕

〔75ウ〕

ルハ勢ノ自然ナリ其旧ヲ恋フノ<sup>(徒)</sup>ニ在リテハ凡ソ新規ノ文物品式習尚情意ハ皆輕浮虚夸ノ態有リテ之ヲ見レハ目ヲ汚スヲ覺ヘ之ヲ聞ケ

ハ耳ヲ浼スヲ覺ヘ之ヲ言ヘハ嘔噦シ之ヲ念ヘハ昏眩ス其新ヲ好ムノ徒<sup>(不正ニ之)</sup>ニ在リテニ反シテ苟

モ旧規ニ属スル事物ハ腐壞シテ一種ノ臭氣有ルカ如ク汲々トシテ唯新規是レ求メテ後ル、

コトヲ恐ル即チ其未タ此ノ如クノ甚キニ至ラサル者ト雖モ細<sup>(スル)</sup>之ヲ別ツトキハ必ス此兩黨中ノ

一二列在スルヲ見ル要スルニ恋旧好新ノ二者ハ此種ノ国民中<sup>(霄壤相容レサル)</sup>判然タルニ元素ナリ顧フニ此二元

素ハ之ヲ分析スルコト甚容易ナラサル年齢ト州俗ニ由リテ判断スルトキハ大抵之ヲ別ツコトヲ得可

シ試ニ實際ニ就テ點檢セヨ齡三十以上ノ人物ハ往々皆恋旧黨<sup>(家)</sup>ニシテ三十以下ノ人物ハ往々皆好

新黨ナリ即チ三十以上ノ人物ニシテ自ラ務テ新事物ヲ採用シテ且ツ其意實ニ之ヲ嗜好スルニ至

リタルカ如キ者ト雖モ細<sup>(忖)</sup>ニ<sup>(考スル)</sup>ヲ覘フトキハ知ラス識ラス時々恋旧ノ情發生シテ其力ヲ逞クスルヲ

見ル三十以下ノ人物ニ至テハ父親ノ教育或ハ恋旧家ノ態<sup>(習)</sup>ヲ免レサルモ其自ラ言爲スル所ハ

自然ニ好新ノ元素ヲ帶ヒテ恋旧元素ト相容レ

〔76オ〕

〔76ウ〕

サルヲ致ス怪ムコト無キナリ彼三十以上ノ人物  
ニ在テハ其十二三齡即チ稍ヤ人事ヲ感觸スル  
ノ齡ニ及ヒタル以後ハ其日々ニ業トスル所ハ  
詩書ヲ誦シ語孟ヲ讀ミ否ラサレハ劔ヲ撃チ槍  
ヲ揮ヒ又其耳目ノ觸ル、所心志ノ遇フ所旧事  
物ニ非サル萬クシテ其寫象深ク腦髓ニ印著シ  
テ復タ拭去ル可ラス若夫レ三十以下ノ人物ハ  
其頭腦未タ一點ノ寫影ヲ受ケサルニ及ヒテ早  
ク已ニ新事物ノ爲メニ浸漬セラレテ其好新ノ  
念直ニ一心ノ主ト爲ルコトヲ得タリ是レ此兩齡  
ノ好尚ヲ殊ニスル所以ナリ人或ハ云ハン三十  
以上ノ人物ト雖モ夙ニ英佛ノ書ヲ學ヒ若ハ繙  
譯諸書ヲ誦シ若ハ時務ニ軌掌シテ夫ノ自由平  
等權理責任等ノ占趣ニ於テ頗ル其蘊奧ヲ究メ  
新途ニ進入スルコト是レ務メテ肯テ少壮ノ後ニ  
居ラサル者甚衆シ未タ年齡ヲ以テ之ヲ別ツ可  
ラスト是レ洵ニ然リ高明ノオヲ持シ卓偉ノ見  
ヲ具フル者ハ固ヨリ常理ヲ以テ之ヲ論ス可ラ  
ス若夫レ其他ハ年齡ノ爲ニ區セラレ習貫ノ爲  
ニ局セラレサル者實ニ希ナリ  
試ニ看ヨト以上ノ人物カ妻子ノ間ニ在ルノ時  
ヲ觀ヨ其兒子カ夏日絹傘ヲ持シテ日ヲ遮リ若

〔77オ〕

〔77ウ〕

ハ<sup>(頭)</sup>二絨巾ヲ纏フテ寒ヲ防クヲ見テ叱<sup>(ルトキハ輒チ云)</sup>シテ<sup>(冬旦)</sup>□  
□炎汝何ソ脆弱ナルヤ炎日何ソ畏ル、ニ足ラ  
ン寒風何ソ怯ル、ニ足ラント是レ其意其兒子  
ヲシテ寒暑ノ刺衝ニ習ハシムルニ在ラスシテ  
特ニ其少時曾テ此二物ヲ用イシコト有ラサルカ  
爲メナリ又其妻カ學藝ヲ話説シ若ハ時事ヲ談  
論スルヲ聞クトキハ痛ク戒メテ曰ク汝一婦人唯  
中饋ヲ司リテ足ルノミ今後復タ此ノ如キ事ヲ  
吐出シテ他人ノ爲ニ冷笑セラル、コト勿レト是  
レ其意或ハ牝雞ノ晨ニ至ルヲ戒ルニ在ラスシ  
テ特ニ其少時ニ於テ婦人カ此等ノ事ヲ話スル  
コトヲ聞キシコト有ラサルカ故ナリ而テ其兒子ハ  
竊ニ笑フテ云フ何ソ吾父ノ<sup>(疎暴ニシテ)</sup>衛生ノ道ヲ解セサ  
ルヤト其妻ハ陰ニ哂フテ云フ何ソ吾良人ノ頑  
慝ニシテ時風ニ通セサルヤト故ニ曰ク恋旧好  
新ノ二元素ハ大概年齡ニ由リテ之ヲ別<sup>(分)</sup>□コトヲ  
得ルト  
又此兩元素ハ亦州俗ニ由テ之ヲ別<sup>(分)</sup>□コトヲ得可  
シ大抵封建ノ時大邦ヲ享ケテ租額二十萬石以  
上ノ者ハ大率其四境ヲ閉チテ外邦人ノ來入ル  
コトヲ禁セリ是ヲ以テ其人士畢生ノ見聞スル所  
ハ皆邦内ノ事物ニ出テスシテ終身ノ接遇スル

〔78オ〕

〔78ウ〕

所ハ皆邦内ノ士女ニ過キス是ヲ以テ其思想其  
習尚其被服並ニ其言語ニ至ルマテ自ラ一定ノ  
態有リテ儼然トシテ別ニ一種族ヲ爲セリ即チ  
租額二十萬石以下ノ小邦ト雖モ其都邑僻陋ニ  
在テ外邦ト交接セサル者ハ亦此ト異ナル無シ  
要スルニ此等ノ邦俗ハ皆質朴ニシテ武ヲ尚ヒ  
以テ国風ヲ成セリ是ヲ以テ其人多ハ疎豪ニシ  
テ(厚重)鄙野ナリ鄙野ニシテ雄剛ナリ否サレハ忌克  
ニシテ陰險ナリ是ヲ以テ其人多ハ旧ヲ恋フテ  
新ヲ厭ヒ悲壮恍惚ノ氣ニ富ミテ縝密周匝ノ才  
ニ乏シ若夫レ四通八達ノ地ニ国セシ者ノ如キ  
ハ其人士常々四方ノ事物ニ接觸シ四方ノ人士  
ニ應酬シ紛々擾々以テ生ヲ爲セリ是ヲ以テ其  
俗(皆)華侈ニシテ文ヲ喜フ是ヲ以テ其人多クハ敏  
慧ニシテ(縝密)環巧ナリ否ラサレハ詔佞ニシテ浮滑  
ナリ是ヲ以テ其人多ハ旧ヲ棄テ新ヲ謀ルニ於  
テ極テ迅速ナリ(若夫レ)高明ノ才ヲ持シ卓偉ノ見ヲ具  
フ者ハ固ヨリ常理ヲ以テ之ヲ論スルヲ得サル  
モ其他ハ邦俗ノ爲ニ區セラレサル者實ニ希ナ  
リ故ニ曰ク恋旧好新ノ二元素ハ大概州俗ニ由  
テ之ヲ別ツコトヲ得ルト  
(分)  
然而テ彼ノ文明ノ途ニ上リテ一旦改革ノ運ニ

〔79オ〕

〔79ウ〕

際シタル邦国ニ在テハ此二元素廣ク朝野ニ被  
ムリ遍ク官民ニ及ヒ隱然トシテ拳国人心ノ中  
ニ潛行默發シテ到ル處互ニ其力ヲ角シ交々捷  
利ヲ競ヒ宰相大臣ノ間ニ在テハ宰相大臣ヲ乖  
隔シ百僚ノ間ニ在テハ百僚ヲ乖隔シ在野人士  
ノ間ニ在テハ在野人士ヲ乖隔シ農工ヲ乖隔シ  
商賈ヲ乖隔シ親子ヲ乖隔シ夫妻ヲ乖隔シ兄弟  
ヲ乖隔シ朋友ヲ乖隔シ之ヲ上ニシテハ廟朝百  
年ノ大計ニ於テ之ヲ下ニシテハ民生日常ノ事  
業ニ於テ之ヲ顯著ニシテハ對面堂々ノ議論ニ  
於テ之ヲ隱微ニシテハ飲食嗜好ノ瑣事ニ於テ  
苟モ人生機心ノ寓スル所ハ此二元素必ス擠排  
シ相剋爭シテ復タ調和ス可ラス是ニ於テ一國  
ノ中、朝野官民學士藝人農工商賈等從前族類ノ  
區畫ノ外ニ於テ別ニ二大黨類ヲ生出スルニ至  
ル此レ實ニ救療シ難キ大病患ナリ某大臣某將  
軍ハ旧甲藩ノ人ナリ某大臣某將軍ハ旧乙藩ノ  
人ナリ甲藩ハ大邦ナリ其然ラサレハ遠隔ニ僻  
在シテ他邦人ト交接スルコト無カリキ其俗質朴  
ニシテ武ヲ尚ヒ其人疎豪ニシテ厚重ナリ否ラ  
サレハ其人忌克ニシテ陰險ナリ乙藩ハ小邦ナ  
リ其然ラサレハ四通ノ路ニ国シテ八達ノ(イ)□ニ

〔80オ〕

〔80ウ〕

〔81オ〕

邑セリ其俗華修ニシテ文ヲ喜ヒ其人敏慧ニシ  
テ(機密)儼巧ナリ否サレハ其人詔倭ニシテ浮滑ナリ  
我レ是ニ於テ明ニ其孰レカ最モ恋旧元素ニ富  
ミテ孰レカ最モ好新元素ニ富ムコトヲ知ル若夫  
レ高明ノ(オ)ヲ持シ卓偉ノ見ヲ具フル者ハ我レ  
之ヲ測ルコト能ハサルナリ

某大臣(某)大將軍ハ四五十齡ナリ某大臣某將軍ハ  
二三十齡ナリ我レ是ニ於テ明ニ其孰レカ最モ  
恋旧元素ニ富ミテ孰レカ最モ好新元素ニ富ム  
コトヲ知ル若夫レ高明ノオヲ持シ卓偉ノ見ヲ具  
フ者ハ我レ之ヲ測ルコト能ハサルナリ

且ツ在野人士自由ノ義ヲ唱ヘ革進ノ説ヲ張ル  
ノ徒ニ在テモ夫ノ恋旧好新ノ二元素(同)然トシ  
テ其力ヲ逞クシテ明ニ兩黨ヲ劃分スルヲノ色  
態ヲ取セシム試ニ看ヨ好新元素ニ富ムノ徒(呈)  
理論ヲ貴ヒ腕力ヲ賤ミ改革(産業)ヲ先ニシ武備ヲ  
後ニシ道德法律ノ説ヲ鑽研シ經濟ノ理ヲ窮究  
シ平居文士學士ヲ以テ自ラ任シテ(武夫豪傑ノ流叱咤慨)扼腕ノ  
態ハ其痛ク擯斥スル所ナリ宜ナリ此輩ノ景慕  
スル所ハチエール、グラットストーンノ徒ナリ拿破崙ビス  
マルクノ輩ニ非サルナリ若夫レ恋旧元素ニ富ム  
ノ徒ハ然ラス彼レ其自由ヲ認メテ豪縦不羈

〔81ウ〕

〔82オ〕

ノ行ト爲シ平等ヲ認メテ鏗刈破滅ノ業ト爲シ  
悲壯慨慨シテ自ラ喜ヒ法律學ノ估屈ナル經濟  
學ノ縝密ナルカ如キハ其深ク喜ハサル所ナリ  
故ニ此輩ヲシテ佛國革命ノ紀事ヲ誦セシムル  
時ハ立法國會契約國會カ上下紛擾ノ間ニ在テ  
不朽ノ典章ヲ建立シテ第十九世紀ノ新世界ヲ  
開闢シタルカ如キハ初ヨリ心ヲ留メスシテロ  
ベスピエール、ダントンノ徒カ相ヒ競フテ屠斬ノ暴  
ヲ恣ニセシヲ見ルニ及ヒテハ蹶起シテ快ト呼  
ビ其爲セシ所ヲ爲サント欲シテ流涎三尺ナル  
ニ至ル怪ムコト無キナリ此輩ハ今ヨリ

二三十年前ニ在リテ皆劔ヲ撃チ槍ヲ揮ヒ屍ヲ  
馬車ニ褰ムヲ以テ無上ノ榮譽ト爲セシ者ニテ  
其尚武ノ習ハ遠ク祖先ノ遺傳スル所ニシテ寓  
セテ三尺ノ劔ニ在リ其身ニ至リ益々寶重シテ  
失ハス魔刀ノ令々ルニ及ヒ涙ヲ把リテ之ヲ筐  
裡ニ藏メシモ心中猶ホ竊ニ自ラ祝シテ一日取  
岑シテ之ヲ用ユルノ機會ニ遭遇スルコトヲ願ハ  
サル莫シ其後民權自由ノ説海外ヨリ至ルニ及  
ヒ彼輩ハ則チ翕然トシテ之ニ嚮往シ所在相ヒ  
共ニ結聚シテ黨幟ヲ翻ヘシ曩日ノ武夫一變シ  
テ儼然タル文明ノ政事家ト爲レリ嗚呼彼レ豈

〔82ウ〕

〔83オ〕

直ノ文明政事家ナラン哉彼レ其腦中本ト自ラ

馬革旨義ヲ蓄ヘ湮鬱シテ洩ラスコト能ハス適々

民權自由ノ説ヲ聽キ其中ニ於テ一種果敢剛銳

ノ態有ルヲ見テ喜ヒテ以為ヘラク是レ我カ馬

革旨義ニ類似スル有リ如カス封建遺物ノ馬革

旨義ニ易フルニ海外舶齋ノ民權旨義ヲ以テセ

ンニハト彼輩腦髓進化ノ正史蓋シ此ノ如シ固

ヨリ真ノ進化ニ非サルナリ彼輩太タ國會ヲ好

ム其大声疾呼スルニ便ナルヲ好ムナリ其宰相

大臣ニ抗スルニ便ナルヲ好ムナリ彼輩太タ改

革ヲ好ム旧ヲ棄テ、新ヲ謀ルコトヲ好ムニ非サ

ルナリ唯專ラ改革スルコトヲ好ムナリ善惡俱ニ

改革スルコトヲ好ムナリ破壊ヲ好ム其勇ニ類ス

ルカ故ナリ建置ヲ好マス其怯懦ニ類スルカ故

ナリ尤モ保存ヲ好マス其尤モ怯懦ニ類スルカ

故ナリ

被選權ヲ得サルカ為メニ國會ニ入ルコトヲ得サ

ル乎城南ノ某街ニ在テ城北ノ某街ニ在テ傾圮

セル寺院有リ彼輩ノ俱樂部ナリ大臣ヲ攻撃シ

議士ヲ攻撃シ新聞記者ヲ攻撃シテ餘力ヲ遺サ

ス一日若干金ヲ得タリ誰氏ノ所ヨリ得來リタ

(既ニシテ)

ル乎因テ急ニ新聞ヲ發兌セリ社説文辭中何

〔83ウ〕

ノ字カ最モ多キ顛覆破壊斬戮屠殺等ノ字ハ吾

レ其甚少カラサルヲ知ル其名詞ニ在リテハ肝

腦鮮血等ノ字面ハ用キテ以テ辭句ヲ瑰麗ニス

ル所ナリ僕はニ於テ始テ佛ノマラーサンジュス

ト輩カ千七百八十九年ノ前三五年ニ在テ定テ

恋旧家ナリシヲ覺ルナリ」紳士君紳士君此種ノ

民權家ヲ殺スコト能ハサルニ於テハ君ノ有名ナ

ル進化神ハ僕固ヨリ其靈無キヲ見ルナリ

嗚呼恋旧好新ノ二元素カ垓ヲ對シテ廟廊ノ上

ニ相値フヤ百年ノ大計ニ於テ妨阻スル所有ル

コト何如ソヤ此ノ如キ現象ハ古今歷々證ス可ク

シテ實ニ人ヲシテ頭ヲ痛メ額ヲ蹙メシムルニ

足ル恋旧元素ハ狀貌魁岸ニ志氣雄□ニシテ事

ニ遇フ毎ニ猛斷峻舉シテ後害ヲ顧ミス輿論ヲ

憚ラス平生無事ノ日ニ在テハ高拱緘默シテ自

ラ喜ヒ一切緻密ナル思考ヲ須ヒ圓滑ナル實行

ヲ要スル事項ハ瑣屑ナリトシテ之ヲ措置ヲ施

スコトヲ屑トセスシテ曰ク我レ素ヨリ迂拙ニシ

テ此事ニ當ルニ足ラス誰某慧巧ニシテ善ク勉

勵シテ事ニ從フ彼レ自ラ當ニ之ヲ辨ス可キノ

(以テ智)

ミト蓋シ平生大關係無キ事條ニ於テハ專ラ愚

(威)

ヲ粧ヒ拙ヲ智トシ拙ヲ以テ自ラ巧トシ其知ル

〔84オ〕

シテ實ニ人ヲシテ頭ヲ痛メ額ヲ蹙メシムルニ

足ル恋旧元素ハ狀貌魁岸ニ志氣雄□ニシテ事

ニ遇フ毎ニ猛斷峻舉シテ後害ヲ顧ミス輿論ヲ

憚ラス平生無事ノ日ニ在テハ高拱緘默シテ自

ラ喜ヒ一切緻密ナル思考ヲ須ヒ圓滑ナル實行

ヲ要スル事項ハ瑣屑ナリトシテ之ヲ措置ヲ施

スコトヲ屑トセスシテ曰ク我レ素ヨリ迂拙ニシ

テ此事ニ當ルニ足ラス誰某慧巧ニシテ善ク勉

勵シテ事ニ從フ彼レ自ラ當ニ之ヲ辨ス可キノ

ミト蓋シ平生大關係無キ事條ニ於テハ專ラ愚

ヲ粧ヒ拙ヲ智トシ拙ヲ以テ自ラ巧トシ其知ル

〔84ウ〕

〔85オ〕

シテ實ニ人ヲシテ頭ヲ痛メ額ヲ蹙メシムルニ

足ル恋旧元素ハ狀貌魁岸ニ志氣雄□ニシテ事

ニ遇フ毎ニ猛斷峻舉シテ後害ヲ顧ミス輿論ヲ

憚ラス平生無事ノ日ニ在テハ高拱緘默シテ自

ラ喜ヒ一切緻密ナル思考ヲ須ヒ圓滑ナル實行

ヲ要スル事項ハ瑣屑ナリトシテ之ヲ措置ヲ施

スコトヲ屑トセスシテ曰ク我レ素ヨリ迂拙ニシ

テ此事ニ當ルニ足ラス誰某慧巧ニシテ善ク勉

勵シテ事ニ從フ彼レ自ラ當ニ之ヲ辨ス可キノ

ミト蓋シ平生大關係無キ事條ニ於テハ專ラ愚

ヲ粧ヒ拙ヲ智トシ拙ヲ以テ自ラ巧トシ其知ル

ヲ粧ヒ拙ヲ智トシ拙ヲ以テ自ラ巧トシ其知ル

ヲ粧ヒ拙ヲ智トシ拙ヲ以テ自ラ巧トシ其知ル

所モ之ヲ知ラストス<sup>(シテ他人ニ推譲シテ肯ヘテ與ラス)</sup>其意ニ以爲ヘラク是レ小<sup>(在ケテ)</sup>事ノミ何ソ心ヲ用イルニ足ラント一旦利害ノ<sup>(ス)</sup>關係ル所有ルニ及テハ頭ヲ昂ケテ一言シ衆議<sup>(ス)</sup>洵々タルモ略ホ恤フルコト無ク不ト無ク否ト無ク必ス其言フ所ヲ行フコトヲ以テ目的ト爲シテ中道ニシテ遽ニ他人ノ議ニ從フカ如キハ其極テ耻辱トスル所ナリ好新元素ハ然ラス事ニ<sup>(シテ)</sup>遇フ毎ニ小ト爲ク大ト無ク必ス慎ミ必ス重シ<sup>(無)</sup>心ヲ焦シ慮ヲ凝シ本ヲ揣リ末ヲ度リ必ス弊<sup>(丁寧周匝シテ)</sup>害無キヲ審ニスルニ非レハ敢テ斷行スルコト無シ故ニ其容顏ハ<sup>(ハ往々)</sup>清爽ニ其志趣ハ往々沈實<sup>(シテ)</sup>ナリ恋旧元素ハ屈スルコト無キヲ以テ目的ト爲シテ好新元素ハ敗スルコト無キヲ以テ目的ト爲ス看ヨ古今此ニ元素カ相共ニ朝ニ立ツノ時ニ在テハ其施設スル所往々人ヲシテ了解スルコト能ハサラシム怪ム無キナリ其壘ヲ對シ相爭フニ於テ恋旧元素若シ捷ヲ得ル時ハ官ノ令スル所必ス果斷ノ意ヲ帶フル有リ好新元素若シ勝ヲ獲ル<sup>(時)</sup>ハ官ノ施ス所必ス周匝ノ態ヲ呈スル<sup>(令ル)</sup>有リ是ニ於テ凡ソ若干年來官ノ施令スル所ヲ把リテ相對比スルトキハ<sup>(前後)</sup>動スレハ相<sup>(其趣向極テ)</sup>類セサルヲ見ル若夫<sup>(其)</sup>薦引獎拔スル所ノ人物ニ至テハ

[86才]

其相類セサルコト何如ヤ彼レ各々其喜フ所ノ者ヲ薦引シ其愛スル所ヲ獎拔スルハ自然ノ情ナリ是ニ於テ吏ノ器局有ル者ハ<sup>(若クハ器局有ル如キ者)</sup>好新元素之ヲ吸引シ吏ノ操守有ル者ハ<sup>(若クハ操守有ルニ似ル者)</sup>恋旧元素之ヲ嚮納ス是レ固ヨリ心術の化学ノ理ナリ是ニ於テ司ノ主長ニ論無ク即チ刀筆小吏ニ至ルマテ恋旧元素<sup>(苟モ)</sup>ニ非レハ好新元素ヲシテスル所ニシ<sup>(ノ嚮納)</sup>實縁シテ依附シ攀援シテ自ラ地ヲ爲スコトヲ求メ堂々官<sup>(舊リテ後日)</sup>府ヲ擧ケテニ元素黨類ノ窟宅ト爲スニ足ルコト史ヲ按シテ徴ス可キナリ<sup>(朝野)</sup>紳士君、紳士君、<sup>(朝野)</sup>國中兩元素<sup>(シ互ニ捷利ヲ競ヒ)</sup>力ヲ角スル<sup>(二旦)</sup>一タ<sup>(交々)</sup>ヒ此勢ニ<sup>(二旦)</sup>其或ハ大ニ相抵激シテ互ニ<sup>(二旦)</sup>勝敗ヲ一挙ニ決セント欲スルニ及テハ国其レ殆イ哉即チ然ラスシテ兩元素各々自ラ戒メテ相共ニ務テ和合スルコトヲ求ムルモ其三質ノ相容レサルヨリ措置ノ間阻格ノ患ヲ生スルコト何如ソヤ必ス二元素ノ一ヲ除去ルニ非レハ国家ノ事復タ爲ス可ラサルナリ紳士君紳士君若シ此ニ元素ノ一ヲ除クノ策ヲ盡スルコトヲ知ラサ<sup>(コト能ハサルニ於テハ君ノ崇敬スル所ノ進化)</sup>紳ハ僕固ヨリ其靈驗無キヲ見ルナリ<sup>(自然ニ)</sup>洋學紳士曰ク必ス二元素ノ一ヲ除クコトヲ要スルニ於テハ恋旧元素ヲ除カン乎將タ好新元素ヲ除

[87才]

[87ウ]

[88才]

カン乎

豪傑ノ客曰ク恋旧元素ナル哉好新元素ハ譬ヘハ生肉ナリ恋旧元素ハ譬ヘハ癌腫ナリ」癌腫□洋学紳士曰君往キニ僕ノ言ヲ譏リテ迂論ナリト爲セリ今ハ朝野改革ノ運ニ際スル邦国ノ二元素ヲ論スルニ及ビ好新元素ヲ存シテ恋旧元素ヲ除カント欲シテ之ヲ癌腫ニ比スルニ至ル君ノ言恐クハ前後相容レサルニ似タリ真理ノ誣ユ可ラサルコト誠□此ノ如キ哉

豪傑ノ客笑フテ曰ク然リ君ハ純乎タル好新元素ナリ民主ノ制ニ循ヒ且ツ兵備ヲ撤セント欲ス僕ハ固ヨリ恋旧元素ナリ威武震ニ頼リテ事ヲ成サント欲ス僕ハ唯国ノ爲メニ生肉ヲ肥ヤスコトヲ知ルノミ僕ハ国ノ爲メニ癌腫ヲ除クコトヲ求ム癌腫ヲ除カサレハ生肉ヲ肥ヤサント欲スルモ得可ラサルナリ

洋学紳士曰ク癌腫ヲ除クノ方法ハ如何

豪傑ノ客曰ク割去ランノミ

洋学紳士曰ク君戲言スルコト勿レ癌腫ハ疾ナリ固ヨリ割去ルコトヲ得可シ恋旧元素ハ人ナリ豈割去ルコトヲ得可ケン哉君請フ戯ル、コト勿レ豪傑ノ客曰ク癌腫ハ之ヲ割カンノミ恋旧元素

〔88ウ〕

ハ之ヲ殺サンノミ

豪傑ノ客曰ク恋旧元素ヲ殺スノ方法ハ如何豪傑ノ客曰ク之ヲ驅リテ戦ニ赴カシム是ナリ彼ノ恋旧元素ハ其朝ニ布列スル者ト市井ニ家居スル者トニ論無ク皆無事ニ苦ミテ所謂脾肉ノ生スルコトヲ如何トモスルコト無シ□家若シ令ヲ発シテ戦ヲ布クトキハ二三十萬ノ衆立ロニ致スコトヲ得□僕ノ如キ者モ亦社會ノ一癌□ナリ自ラ割去リテ生肉ノ害ヲ爲サ、ルコトヲ冀フノミ癌腫ノ割断場ハ彼ノ僕カ名ヲ忘レタル阿非利加カ亜細亞ノ一大邦ニ若クハ莫シ故ニ僕ハ二三十萬衆ノ癌腫家ト俱ニ彼邦ニ赴キ事成レハ地ヲ略シテ一方ニ雄據シ別ニ二種癌腫社會ヲ打開セン事成□サレハ屍ヲ原野ニ横ヘ名ヲ異域ニ留メン事成ルモ事成サルモ国ノ爲メニ癌腫ヲ割去ルノ効ハ必ス得可キナリ所謂一挙兩得ノ策ナリ

若シ夫レ内治ヲ脩明シ制度ヲ釐正シ風俗ヲ移易シ後代文明ノ地ヲ爲スカ為メニ旧規ヲ眷恋□新圖ヲ妨害スル分子ヲ挙ケテ之ヲ淘汰スルカ如キハ第二策ナリ吾ノ故常ニ安シシ姑息ヲ守リ一切猛断ノ挙ヲ怯レテ唯游移搖曳シテ以

〔89ウ〕

〔90オ〕

テ得計ト為ス者ハ此二策ヲ聞<sup>ク</sup>トキハ皆駭絶シテ  
舌ヲ吐カン僕固ヨリ其然ルヲ知レリ然レトモ  
古今豪傑ノ士非常ノ変ニ遭遇スル者ハ皆非常  
ノ計ヲ采シテ以テ大効ヲ収メサル莫シ断シテ  
行ヘハ鬼神モ之ヲ避クトハ正ニ此ヲ謂<sup>意</sup>フナリ  
且ツ政ヲ為ス者ハ時ト地トニ由リ各々其手段  
ヲ異ニス若シ僕ノ二策ヲ取リテ之ヲ今日ノ泰  
西諸国ニ施ス時ハ直ニ狂人ノ行ナリ故ヲ以テ  
字漏生国ノ如キハビスマルクノ宰相タルヲ以  
テモルトゲノ將軍タルヲ以テ百萬ノ衆ヲ驅リ  
數百年来薪ニ卧シ膽ヲ嘗メ仇視シテ一日モ忘  
レサリシ所ノ佛国ヲ破敗シタルモ和ヲ講スル  
ニ及ビテハ其得ル所ハローレンアルサー  
スノ二郡ト八億弗蘭金トニ過キサル者ハ時ト地  
トノ勢實ニ然ラシメタルナリ僕ノ二策ヲ今日  
ノ亜細亞弗利加ニ施ス時ハ正ニ其機ニ合セ  
リ假リニ泰西諸国奇傑ノ士ヲシテ今日ノ亜細  
亞ニ在ラシメハ僕必ス其断然トシテ此二策ノ  
一二循フテ變弱為強ノ業ヲ建ルカ若クハ割斷  
癰腫ノ計ヲ施シテ遲疑セサルヲ知ルナリ  
洋学紳士曰ク然リ拿破崙第一及ヒビスマルク  
ノ如キハ或ハ君ノ兩策ニズル者ナリ吾運進歩

〔90ウ〕

〔91オ〕

ノ大妨害ヲ為ス者ハ此種ノ怪物ナリ自由平等  
ノ大義ト道德經濟ノ至術トヲ破壞シテ腕力社  
会ヲ間拓スル者ハ此種ノ怪物ナリ第十八世紀  
以後歐洲ノ山林ニ於テ此種ノ怪物ヲ生セサリ  
セハ民主ノ旨義ハ既ニ大ニ其管轄ヲ擴メテ學  
術ノ機關ハ已ニ大ニ其規模ヲ拓キタランコト疑  
無シ試ニ歐洲豪傑ノ士ヲ把来リテ之ヲ我東方  
豪傑ノ士ニ比較セヨ僕ノ所謂怪物ノ豪傑ハ我  
東方ニ於テ類似ノ人有ルモ真ノ豪傑ハ我東方  
ニ於テ類似ノ人物甚タ寡シ是レ我東方ノ歐洲  
ニ及ハサル所以ナリ看ヨ歷山德ヤ愷撒ヤ拿破  
崙ヤ若シ劉邦勿必烈豐太閤ノ属ヲ以テ之ヲ比  
スル時ハ幾分カ相類スル所有ルヲ見ルモニユー  
トンヤラウオアジェーヤアタムスミッスヤオーギユ  
ストコントヤ誰カ類カ類似ノ人物有ル乎一時  
猛暴ノ謀ヲ采シテ目前ヲ經營スル者ハ皆百年  
ノ大計ヲ害スル者ナリ  
豪傑ノ客曰ク天下ノ事ハ皆理ト術トノ別有リ  
力ヲ議論ノ境ニ逞<sup>シ</sup>クスル者ハ理ナリ効ヲ実  
際ノ域ニ収ムル者ハ術ナリ医道ニハ則チ医理  
有リ医術有リ政事ニハ則チ政理有リ政術有リ  
細胞ノ説ヤ黴菌ノ論ヤ医理ナリ熱病ニ幾尼ヲ

〔91ウ〕

〔92オ〕

投シ蠱毒ニ水銀ヲ用ユ医術ナリ平等ノ義ヤ経  
済ノ旨ヤ政理ナリ弱ヲ轉シテ強ト為シ乱ヲ變  
シテ治ト為ス政術ナリ君請フ其理ヲ講セ僕其  
術ヲ論セシ

且ツヤ方今ノ時一タヒ眼ヲ歐洲諸国ノ形勢ニ  
著ルニ於テハ亜細亞ノ群嶋ニ居テ活計ヲ為ス  
者ハ恰モ一点ノ燈火ヲ把リテ之ヲ颺風ノ前ニ  
置クカ如シ颺然トシテ来リ撲ツ時ハ其滅スル  
コト立チテ俟ツ可キナリ憂国ノ志有ル者ハ今ニ  
及ヒテ早ク措置ヲ為サル可ラスシテ外征ノ計  
實ニ其機ニ合セリト為ス童諺ニ曰ク夜又ノ未  
タ至ラサルニ及ヒテ速ニ其衣裳ヲ濯フトハ今  
ノ時実ニ然リト為ス夜又トハ何ソヤ獨佛英魯  
即チ是レナリ蓋シ近日獨佛二国ノ状勢ニ係リ  
テハ中外諸新聞並ニ報道ヲ怠ラスシテ或ハ云  
フ二国戦備甚タ力ムト或ハ云フ平和ヲ保ツノ  
模様有リト或ハ云フビスマルク云々ノ言ヲ為  
セリト或ハ云フブーランジエー云々ノ状ヲ為  
セリト而シテ僕ハ特ニ此二国相讐スル所以ノ故  
ヲ尋繹シテ其破裂ノ甚タ遠ラスシテ今日ニ於  
テセサレハ明日ニ於テシ今歲ニ於テセサレハ  
明歲ニ於テス可キヲ察シテ復タ疑ハサルナリ

〔92ウ〕

〔93オ〕

〔93ウ〕

夫レ二国ノ相ヒ讐スルヤ紳士君ノ言ノ如ク單  
ニ拿破崙帝ノ佛蘭西ト維廉帝ノ孛漏生ト怨ヲ  
結ヒタルニ非スシテ古ヨリ以來国ト国ト怨ヲ  
結フコト未タ此二国ノ甚シキカ如キ者ヲ見ス  
レ其故タル一朝一タノ事ニ非スシテ拿破崙維  
廉ノ二帝ハ特ニ其破裂<sup>(裂)</sup>ノ時機ニ遭遇シタルニ  
過キサルノミ即チビスマルクハ幸ニシテ其破  
裂<sup>(裂)</sup>ノ時ニ遭フテ因テ其技倆ヲ逞クセシ者ナリ  
ガ<sup>(裂)</sup>ンベッターハ不幸ニシテ未タ其破裂ノ機ニ遇  
ハスシテ其膽略ヲ顯ハスコトヲ得サル者ナリ拿  
破崙末年浸ク国民ノ望ニ背キ議院中反對黨頗  
ル衆カリシモ戰ヲ孛漏ニ宣スルニ及ヒテハ議  
院ノ士皆盡ク同意ヲ表シテ即チチエールカ老  
鍊ニシテ口ヲ極テ戰ノ不利ナルヲ論セシニ滿  
場囂々トシテ沸クカ如ク其退キテ第二<sup>(宅)</sup>歸ルニ  
及ヒ無賴小民路上ニ要シ礫ヲ擲テ之ヲ詬罵セ  
シト云フ佛国民人民ノ怨ヲ孛漏生ニ懷キシコト證  
ス可キナリ然レモ余ヲ以テ之ヲ觀ルニ此二国  
ハ其初メ未タ必スシモ深ク怨ヲ挾ムニ至ラサ  
リシモ第十八世紀ノ頃ヨリ陸軍ノ強ヲ称スル  
者ハ必ス指ヲ二国ニ屈セシヨリ其交戦スル毎  
ニ隣国傍觀スル者豫メ其勝敗ヲ評シテ喧囂シ

〔94オ〕

〔94ウ〕

終ニ二国ノ民ヲシテ各々力ヲ競ヒ互ニ既往ノ敗ヲ耻テ至恨ト為シテ報復ノ念ヲシテ無窮ニ相繼カシムルニ至レリ譬ヘハ猶ホ両力士ノ場ニ上ルカ如シ彼レ其初念特ニ一時技ヲ角スルニ過キサルモ満場ノ看客声ヲ揚ケテ或ハ東ヲ賛シ或ハ西ヲ稱シ<sup>(又)</sup>其勝負已ニ決スルニ及ヒ喝采ノ声天地ヲ震撼シ此ノ如キコト数次ニ至ルニ及ヒ両力士モ亦必ス勝ヲ獲ルヲ以テ職分ト為シテ心中ニ相ヒ嫉ムニ至ル二国ノ事情正ニ是ナリ僕故ニ曰ク二国ノ相怨ムコトハ一朝一夕ノ故ニ非スシテ紳士君ノ言ノ如ク単ニ維廉帝ノ字漏生ト拿破崙帝ノ佛蘭西ト怨ヲ結ヒタルノミニ非サルナリ

魯失亜ト英吉利トニ至リテハ洵ニ紳士君ノ言ノ如キ者有リ蓋シ英国ハ夙ニ大二意ヲ經濟ノ一邊ニ用ヒ地球上到ル處殖民地有ラサル莫ク財貨ノ殷阜ナル他ノ諸国ノ企及スル所ニ非ス而テ其目的ハ專ラ從來ノ版圖ヲ守リテ喪失セサルニ在テ更ニ益々地ヲ拓クコトハ必スシモ旨トスル所ニ非サルモ獨リ奈何セン彼魯失亜ノ猛鷲ナルヤ其先王ノ貽謀ヲ堅守シテ變セス兵威ニ藉リ益々版圖ヲ擴ムルコトヲ求メ英国ノ

〔95才〕

〔95ウ〕

富盛ヲ妬害シテ一意ニ其印度ノ根本ヲ覆ヘサント欲シテ已マス是レ英国力前ニ拿破崙ト連結シテセバストボールノ役有リシ所以ナリ是故ニ佛ト字トハ其意專ラ兵力ヲ競ヒ武名ヲ闘ハスニ在リテ地ヲ拓クニ在ラス英国ハ地ヲ衛リ財ヲ守ルコトヲ主トシテ武ヲ競フコトヲ好マス獨リ魯失亜ハ古昔羅馬国ニ追蹤シ強兵ノ力ニ頼リテ益々富国ノ業ヲ建テ富国ノ資ニ藉リテ益々強兵ノ威ヲ伸ヘント欲ス此レ實ニ歐洲

戦乱ノ禍ヲ造々スル工廠ナリ然リ而テ其敢テ直ニ兵ヲ印度ニ加ヘサル所以ノ者ハ何ソヤ蓋シ魯失亜ノ畏憚スル所ハ英ニ非スシテ佛ナリ佛ニ非スシテ字ナリ己レカ東安ノ虚ニ乗シテ後ヲ圖ルコトヲ畏ル、ナリ是ヲ以テ曩ニ字佛ノ交戦スルヤ魯人ハ踊躍シテ相慶シ直ニクリメ<sup>1)</sup>ノ盟ヲ破リテ艦隊ヲ黑海ニ安セリ故ニ僕ノ意ニ以為ヘラク字佛ノ兵一日歐洲ノ野ニ交ハルニ於テハ魯軍ハ則チ砂塵ヲ捲起シテ東方ニ溢セセン果テ此ノ如クナル時ハ字佛兵爭ノ禍ハ歐洲大陸ニ局スルニ非スシテ亜細亞海中ノ諸嶋モ亦其餘餘ヲ被ムルヲ免レスシテ英国艦隊ノ掠據スル所ハ獨リ巨文嶋ニ止マラサルヤ

〔96才〕

〔96ウ〕

疑無キナリ之ヲ要スルニ悖ト佛トハ歐洲ニ在  
テ力ヲ角シテ魯ト英トハ亜細亜ニ在テ、雄ヲ  
競フコト此レ今日ノ大勢ナリ

嗚呼李佛ノ兵ハ硝煙ヲ歐洲ノ郊ニ漲ラシ英魯  
ノ軍ハ塵ヲ亜細亜ノ大陸ニ揚ケ瀾ヲ亜細亜ノ  
海洋ニ簸クルニ方リ彼萬國公法ハ果テ戰略ニ  
便利ナル暴行ヲ抑住スルノ効ヲ生ス可キ乎萬  
國公法果テ特ム可ラサルニ於テハ小邦タル者  
ハ何ニ由リテ自ラ防守スルコトヲ得ル乎唯速ニ  
沈没ニ垂タル小艇ヲ去リテ隕然トシテ動カサ  
ル大艦ニ移ルノ一策有ルノミ危殆ナル小邦ヲ  
棄テ、安穩ナル大邦ニ赴クノ一計有ルノミ且  
ツヤ清浅ノ流ハ以テ大魚ヲ捕フ可ラス治平ノ  
時ハ以テ奇計ヲ爲ス可ラス歐亞二洲一時二妖  
雲ヲ醸々スルノ候是レ尤モ小邦タル者ノ禍ヲ  
變シテ福ト爲シ弱ヲ轉シテ強ト爲スノ好機會  
ニシテ實ニ千歳ノ一時ナリ是時ニ於テ疾雷耳  
ヲ掩フニ及ハサルノ手段ヲ爲サスシテ區々ト  
シテ田舎ノ老婆力藍縷ヲ補綴スルカ如キ小計  
策ヲ特ミテ徒ニ國ヲ維持スルヲ求ム僕實ニ其  
餘地有ルニ駭クナリ

是時南海先生ハ更ニ杯ヲ引イテ云ケルニ紳士

〔97才〕

〔97ウ〕

君ノ旨趣ヲ約言スレハ曰ク民主平等ノ制度ハ  
凡百制度中最モ完粹ナル者ニシテ世界萬國早  
晩必ス此制度ニ循ハントス而テ小弱ノ邦タル  
者ハ富國強兵ノ策ハ初ヨリ望ム可ラサルカ故  
ニ速ニ此完粹ナル制度ニ循ヒ然後陸軍ヲ撤シ  
艦ヲ諸強國萬分ノ一二モ足ラサル腕力ヲ棄テ  
、無形ノ理學<sup>(義)</sup>ヲ用イ大ニ學術ヲ興シテ其國ヲ  
以テ極テ精細ニ彫鑄シタ美術ノ作物ノ如キ者  
ト爲シテ諸強國ヲシテ愛敬シテ犯スニ忍ヒサ  
ラシメント欲スル是ナリ豪傑君ノ旨趣ヲ約言  
スレハ歐洲諸國方ニ兵爭ヲ事トシテ一旦破裂  
スルトキハ其禍ハ延イテ亜細亜ニ及ハントス故  
ニ小弱ノ邦タル者ハ是時ニ於テ大英斷ヲ出シ  
國中ノ丁壯ヲ擧ケ甲ヲ捲キ兵ヲ荷フテ他ノ一  
大邦ヲ攻伐シテ新ニ博大ノ版圖ヲ開ク可シ即  
チ未タ此英斷ヲ出スコト能ハスシテ専ラ内治ヲ  
脩明セント欲スルモ<sup>(必ス)</sup>改革ノ業ヲ防阻スル恋旧  
元素ヲ除カサル可ラスシテ外征ノ計終ニ已ム  
可ラス是ナリ紳士君ノ論ナリ<sup>(ハ醒乎)</sup>□トシテ正ナル  
者ナリ豪傑君ノ論ハ瑰然トシテ奇ナル者ナリ  
紳士君ノ論ハ醞酒ナリ人ヲシテ目暈シ頭眩セ  
シム豪傑君ノ論ハ劇藥ナリ人ヲシテ胃裂ケ腸

〔98才〕

〔98ウ〕

〔99才〕

敗レシム余老タリ二君ノ論ハ余カ羸<sup>(萎)</sup>□セル脳髓ノ能ク咀嚼消化スル所ニ非ス二君其レ各々努力シ時ヲ俟チテ之ヲ嘗試セヨ僕將ニ之ヲ傍觀セントス

是ニ於テ二客モ亦各々一杯ヲ挙ケ南海先生ニ嚮フテ云ケルニ吾儕兩人既ニ衷情ヲ倒盡シテ遺ス所無シ先生必ス批評シテ之ヲ教ユルコト有レ是レ至願ナリ

南海先生乃チ云ケルニ紳士君ノ論ハ歐洲学士カ其腦髓中ニ醞釀シ其筆舌上ニ發揮スルモ未タ行フ可ラサル爛燦タル思想的ノ慶雲ナリ豪傑君ノ論ハ古昔俊偉ノ士カ千百年ニ一タヒ事業ニ施シ功名ヲ博シタルモ今日ニ於テ復タ挙行ス可ラサル政事のノ幻戲ナリ慶雲ハ將來ノ祥瑞ナリ望見テ樂ム可キノミ幻戲ハ過去ノ奇觀<sup>(之ヲ)</sup>ナリ回顧シテ之ヲ快トス可キノミ俱ニ今日ニ益ス可ラサルナリ紳士君ノ論ハ全国人民カ同心協力スルニ非レハ行フ可ラス豪傑君ノ論ハ天子宰相カ獨斷默決スルニ非レハ施ス可ラスシテ皆恐クハ空ノ言タルヲ免レス且ツ紳士君ハ力ヲ極テ夫ノ進化神ノ靈威ヲ唱說スルモ夫ノ神ノ行路ハ迂曲羊腸ニシテ或ハ登リ或ハ降り或

〔99ウ〕

ハ左シ或ハ右シ或ハ舟シ或ハ車シ或ハ往クカ如クニシテ反リ或ハ反ルカ如クニシテ往キ紳士君ノ如ク<sup>(言)</sup>如ク吾儕人類ノ幾何學ニ定メタル直線ニ循フ者ニ非ス要スルニ吾儕人類<sup>(ニシテ安ニ)</sup>進<sup>(進)</sup>神ヲ先導セント欲スルモ得可ラスシテ唯當ニ其往ク所ニ隨フテ行歩ス可キノミ

且ツ所謂進化ノ理トハ天下事物カ經過セシ所ノ跡ニ就イテ名ヲ命スル所ナリ故ニ二<sup>(造)</sup>天草昧ノ時<sup>(世界)</sup>吾儕ノ人類カ穴居野處セシカ如キモ亦進化ノ一理ナリ其<sup>(一)</sup>一君主ノ治下ニ歸セシモ亦進化ノ一理ナリ其立憲ノ制ニ赴キタルモ亦進化ノ一理ナリ其民主ノ制ニ入りタルモ亦<sup>(進化)</sup>一理ナリ君主ヤ大統領ヤ貴族ヤ人民ヤ白布帆ノ船ヤ蒸氣機ノ艦ヤ火繩ノ銃ヤ施條ノ砲ヤ佛ヤ儒ヤ耶蘇ヤ凡ソ世界人類ノ經過セシ所ノ迹ハ皆學士カ所謂進化神ノ行路ナリ歐洲學士ハ死<sup>(諸國或ハ)</sup>ヲ廢セ<sup>(シ者有リ)</sup>ント欲ス<sup>(自ラ)</sup>是レ歐洲諸國ノ進化ナリ<sup>(阿)</sup>非利種族或ハ人肉ヲ啗ヒシ者有リ是レ自ラ阿非利加種族ノ進化ナリ<sup>(夫ノ進化神ハ)</sup>天下ノ最モ多情ニ多愛ニ多嗜ニ多欲ナル者ハ進化紳士君、紳士君、君若シ進化神ハ<sup>(立憲若クハ)</sup>民主ノ制ヲ愛シテ專擅ノ生ヲ愛セスト曰フトキハ是レ土耳其古白爾矢亞ニハ進化神無<sup>(シ)</sup>キト爲サン<sup>(ハ有ラサル乎若シ)</sup>

〔100ウ〕

〔101オ〕

〔100オ〕

進) 乎化神ハ生育ノ仁ヲ嗜ミテ殺戮ノ暴ヲ嗜マス

ト曰フトキハ是レ羅馬帝ネロンカ一府ヲ焼時ハ進

化神ハ在ラサリシ乎

封建ノ時ニ封建ヲ好ミ郡縣ノ時ニハ郡縣ヲ好

ミ鎖港ノ世ニハ鎖港ヲ喜ヒ交易ノ世ニハ交易ヲ

喜ヒ麦飯ヲ嗜ミ牛炙ヲ嗜ミ濁醪ヲ嗜ミ葡萄酒

ヲ嗜ミ大髻ヲ好ミ被髮ヲ好ミ沈石田ノ水墨ヲ

愛シランブランドノ油畫ヲ愛シ吁嗟天下ノ最モ多愛

ナル者ハ其レ進化神乎

然而テ其甚惡ム所ノ者モ亦一有リ是レ知ラサル可ラス

政事家ハ尤モ知ラサル可ラス政事家ニシテ進化神ノ

惡ム所ヲ知ラサルトキハ其禍實ニ勝テ計ル可ラサル者有

リ吾儕書生ノ如キハ或ハ進化神ノ惡ム所ヲ知ラスシ

テ言為スルコト有ルモ其禍ハ特ニ一人ノ身ニ止マルノミ

進化神ノ惡ム所ヲ知ラスシテ書ヲ著ハス乎唯其書ノ

世ニ<sup>售</sup>ラレサルニ止マルノミ圖謀スル所有ル乎

唯其身ノ刑戮ヲ蒙ルニ止マルノミ政事家ニシテ

進化神ノ惡ム所ヲ知ラスシテ施設スル所有ルトキハ

幾千萬ノ人類實ニ其禍ヲ受ケン吁嗟畏ル可キ哉

進化神ノ惡ム所ハ何ソヤ時ト地トヲ知ラスシテ言為

スルコト即チ是レノミ……、<sup>縦令ヒ</sup>僕過テリ若シ政事家ニシテ時

ト地トヲ知ラスシテ施設スルコト有リ千幾千萬人類カ禍

[101ウ]

ヲ<sup>蒙</sup>ムルモ<sup>其迹ニ就テ見ルトキハ</sup>必ス曰ハン是レ自ラ然此ノ如クナラ得サルノ理

有リテ然リシト果テ然ラサルヲ得サルノ理有リ<sup>リ</sup>□テ然カ

シトキハ是レ自ラ進化神ノ好ム所ナリ其惡ム所ニ非サルナリ

故ニ學士ヲシテ王安石ノ新法ヲ論セシメハ必ス曰ハン是レ固

ヨリ然ラサルコトヲ得スシテ然リシト<sup>是ニ知ル凡ノ古今既ニ行フコトヲ得タ</sup>然ハ則チ進化神ノ惡ム所

ハ事業ハ皆進化神ノ好ム所ナルコトヲ然ハ則チ進化神ノ惡

ム所ハ何ソヤ<sup>何ノ時ト無ク何ノ地ト無ク</sup>必ス行フ可ラサル所ヲ行ハント欲スルコト是レ

ノミ紳士君、君ノ言フ所ハ今時ニ於テ斯地ニ於テ必

ス行フコトヲ得可キ所ト為サン乎將タ必ス行フコトヲ得可

ラサル所ト為サン乎

紳士君ハ極テ進化神ヲ崇敬スル者ナリ僕請フ君ノ言ヒシ

所ニ係リ<sup>亦</sup>□一々進化ノ理ニ據リテ之ヲ批セン君願<sup>幸</sup>

ニ咎ムルコト勿レ

紳士君ハ<sup>ノ設</sup>極テ平等ノ制度ヲ主張シ五等公爵ヲ以テ

進化神ノ<sup>惡</sup>ム所ト為シテ之ヲ巖石ニ比スルニ

至ル是レ尤非ナリ若シ進化神ニシテ五等公爵ノ

設ヲ惡ムニ於テハ何故ニ旧來有ル所ノ五等公

爵ノ外更ニ又新ニ貴族ヲ打出スル乎<sup>ハ重細重</sup>進化神固

ヨリ五等公爵ヲ好ム者ナリ故ニ旧貴族皆康健ニシ

テ善ク食飲シ炎夏ノ候時ニ或善ク食飲ス炎夏ノ

候時ニ或ハ瘧疾<sup>大ニ</sup>□流行スル有リテ石炭酸水□

沃キテ門閭ニ湛ユルモ猶ホ傳染シテ十萬衆□

[102オ]

[103オ]

屍ヲ駢ヘテ火焰ニ葬ムルニ至リ(ル而テ旧新貴族ハ并ニ)編戸窮乏ノ民

傳染スルコト無クシテ並ニ康健ナリ閭閻小乏ノ民ハ親

子夫妻一時車ヲ連ネテ病院ニ赴クモ旧新貴族(繼)茶毗

焼□場ニ赴クモ旧新貴族ハ依然トシテ高樓ノ上

ニ居テ侍姫媵妾傍ヨリ扇ヲ揮揚シテ涼風ノ不(巨)足ヲ補フテ皆康健ナリ余ヲ以テ之ヲ考フレハ進(並ニ)細連ノ

化神ハ殆ト貴族ヲ好ミテ平民ヲ惡ム者ノ如シ殆ト紳士君ノ言フ所ニ反スル者ノ如シ……

南海先生是ニ至リ遽ニ容ヲ改テ曰ク僕過チテ諸識(ノ言少ク)

ニ涉レリ二君請フ恕セヨ

南海先生更ニ杯ヲ引イテ云ケルニ抑々二君カ(紳士君ハ専ラ民主)

ノ制ヲ主張スルモ恐クハ政事ノ本旨ニ於テ未

タ達セサル所有ルニ似タリ政事ノ本旨ト何ソ(ハ)

ヤ国民ノ意嚮ニ循由シ国民ノ智識ニ適當シ其

レヲシテ安靖ノ樂ヲ保チテ福祉ノ利ヲ獲セシ

ムル是ナリ若シ国民ノ意嚮ニ循ハス智識ニ適(俄ニ)

セサル制度ヲ用イルトキハ安靖ノ樂ト福祉ノ利

トハ何ニ由テ之ヲ得可ケン哉試ニ土耳古白耳(今日)

矢亜ノ諸国ニ於テ民主ノ制ヲ建設セシニハ衆

民□駭愕シ□喧擾シテ其末ヤ禍乱ヲ撥起シテ

國中血ヲ流スニ至ルコト立テ待ツ可キナリ且ツ(紳)

進士君ノ所謂進化ノ理ニ據リテ考フルモ專制

[103ウ]

ヨリ出テ、立憲ニ入り立憲ヨリ出テ、民主ニ入

ルコト是レ正サニ政治社會行旅ノ次序ナリ專制

ヨリ出テ、一蹴シテ民主ニ入ルカ如キハ決テ次序ニ非

サルナリ何ソヤ人々頭腦中帝王ノ思想公□ノ意象(侯)

方ニ印著シテ其奥底ニ在リ隱然トシテ其守護(深ク)司命

神ノ如ク其護身符ノ如クナルニ方リ俄ニ民主ノ制ヲ

打開スル時ハ衆庶頭腦中頓ニ主宰コト是レ正ニ性理ノ(爲メニ眩乱セラル)

法則ナレハナリ是時ニ於テ二三少数ノ人物カ獨リ欣然トシ

テ其制度ノ理義ニ合スルコトヲ喜フモ衆民ノ惶惑シ沸騰セ(ス)

ルコトヲ奈何セン此レ理ノ最明白ナル者ナリ且ツ世ノ所謂

民權ナル者ハ自ラ二種有リ英佛ノ民ハ恢復的ノ民(權)

權ナリ下ヨリ進ミテ之ヲ取レリ世又一種恩賜的ノ民(リシ者ナリ)

權ト稱ス可キ者有リ上ヨリ惠ミテ之ヲ與フル者ナリ恢

復的ノ民權ハ下ヨリ進取スルカ故ニ其量□我レノ定隨意(分ノ多寡ハ)

ニ定ル所ナリ恩賜的ノ民權ハ上ヨリ惠與スルカ故

ニ其分量ノ多寡ハ我レノ得テ定ル所ニ非サルナリ若シ恩

賜的ノ民權ヲ得テ更ニ變シテ恢復的ノ民權ト爲サ(直)

ント欲スルカ如キハ豈事理ノ序ナラン哉

嗚呼国王宰相タル者威權ヲ恃ミテ敢テ其民ニ還ヘスニ(自由權ヲ)サス

是レ方ニ禍乱ノ基ニシテ英佛ノ民カ其恢復ノ業有リ(的民權)

シ所以ナリ若シ然ラスシテ君主宰相タル者時ヲ料リ勢ヲ

察シ其民ノ意嚮ヲ循ヒ其民ノ智識ニ適スルコトヲ求メ自(三)

[104オ]

[104ウ]

[105オ]

[105ウ]

由權ヲ惠與シテ其分量宜ヲ得ルニ於テ上下ノ慶幸何  
 事カ之ニ踰ユル有ラン危難ヲ冒シ死傷ヲ冒シテ千金ノ  
 利ヲ獲ルハ坐ニシテ十金ヲ受ルニ孰ンヤ且ツ恩賜的<sup>(縦令ヒ)</sup>民權  
 如何<sup>(ノ)</sup>少量ナルモ其本質ハ恢復的ノ民權ト少モ異ナラサルカ  
 故ニ吾僭人民タル者善ク護持シ善ク珍重シ道德ノ  
 元氣ト學術ノ滋液トヲ以テ之ヲ養フトキハ時勢益々進<sup>(世)</sup>歲  
 運益々移ルニ及ヒ漸次ニ肥腴ト成リ長大ト成リテ彼ノ  
 恢復的ノ民權ト肩ヲ並フルニ至ルハ正ニ進化ノ理ナリ<sup>(紳)</sup>  
 士君紳士君<sup>(思想)</sup>占<sup>(思想)</sup>趣<sup>(義)</sup>ハ種子ナリ腦髓ハ田地ナリ君真ニ民主  
 主義ヲ喜フトキハ之ヲ口ニ挙ケ之ヲ書ニ筆シテ其種子ヲ人々  
 ノ腦髓中ニ蒔ユルニ於テハ<sup>(幾)</sup>百年ノ後凡々然トシテ國中ニ  
 茂生スルハ固ヨリ期シテ俟ツ可キナリ今人々ノ腦髓中帝王  
 貴族ノ艸花方ニ根ヲ蔓スルニ方リ君ノ頭腦中獨リ一粒ノ  
 民主種子ヲ萌芽シテ遽ニ豐穰ナル民主ノ収獲ヲ得ント  
 欲スルカ如キハ豈謬ラス乎  
 是故ニ人々ノ腦髓ハ過去思想ノ貯蓄所ナリ<sup>(而テ)</sup>是故ニ  
 事業ナル者ハ過去思想ノ發出ナリ是故ニ若シ新事業ヲ  
 建立セント欲スルトキハ一タヒ其思想ヲ人々ノ腦髓中  
 ニ入レテ過去ノ物ト為サル可ラス何トナレハ事業ハ常ニ  
 現在ナルモ思想ハ常ニ因ヲ過去ニ取ルカ故ナリ紳士  
 君一タヒ史ヲ繙キテ之ヲ誦セヨ<sup>(萬)</sup>國ノ事迹ハ<sup>(萬)</sup>  
 國ノ思想ノ効果ナリ思想ト事業ト迭ニ累ナリ互ニ

[106  
オ]

聯<sup>(ナ)</sup>リテ迂曲ノ線ヲ畫スルコト是ヲ名ケテ歴史ト謂フ思想、  
 事業ヲ生シ事業思<sup>(反)</sup>ヲ生シ是ノ如クニシテ變轉ヒマサル  
 コト是レ即チ進化ノ理ナリ路ナリ<sup>(神ノ行)</sup>是故ニ進化神ハ社會ノ  
 上ニ儼臨スルニ非ス又神會<sup>(社)</sup>ノ下ニ潜在スルニ非スシ  
 テ人々ノ腦髓中ニ蟠踞スル者ナリ是故ニ進化神ハ人  
 々思想ノ相混<sup>(合)</sup>シテ一圓體ヲ成ス者ナリ紳士君、君  
 若シ君一箇ノ思想ヲ提出シ<sup>(腦髓中ニ崇奉シ自ラ認メテ)</sup>進化神ト為ストキ  
 亦ハ之ヲ崇奉セシメント欲スルトキハ是レ猶ホ一  
 點ノ墨跡ヲ下シテ衆人ヲシテ認メテ圖畫ト為サ  
 シメント欲スルカ如シ<sup>(此)</sup>是レハ是レ思想的ノ專擅ナリ  
 此レ進化神ノ喜ハサル所ニシテ學士ノ戒ム可  
 キ所ナリ  
 時世ハ<sup>(絹)</sup>紙ナリ<sup>(思)</sup>意<sup>(丹青)</sup>想ハ墨ナリ事業ハ<sup>(繪)</sup>画ナリ紳  
 士君、君若シ未タ研セサルノ墨ヲ以テ將來ノ画  
 ヲ現在ノ紙ニ描カント欲スルカ如シハ恐クハ  
 狂顛ニ類スルニ非ス乎君今ニ於テ思想ノ墨ヲ  
 研シテ已マサルトキハ百歳ノ後其墨汁洵々然ト  
 シテ社會ノ<sup>(硯)</sup>研地ニ溢ル、ニ至ラン是ニ於テ現  
 在ノ紙ニ描クニ現在ノ事業ノ画ヲ以テスルトキハ  
 過去ノ思想ノ墨<sup>(彩色)</sup>ハ油然トシテ人目ヲ奪フテ衆  
 人觀ル者皆一稱シテ美術ノ佳作物ト為サンノミ  
 且ニ君カ各々積消兩極ノ論ヲ執リ一ハ將<sup>(固シ)</sup>未<sup>(未タ生セ)</sup>タ生セ

[107  
オ]

[106  
ウ]

[107  
ウ]

サル思想ヲ曳来リ望ミテ妄進<sup>(三)</sup>一ハ既ニ去リタル

旧觀戲ヲ顧ミテ妄ニ退カント欲シテ其旨趣ヲ

ル冰炭相容レサルカ如キモ

各々積消極兩極ノ論ヲ執リテ氷炭相容レサル所<sup>(ト)</sup>

以ノ者ハ僕ノ察スル所ニ由レハ其源因<sup>(病)</sup>ハ實ハ一ナリ

一トハ何ソヤ過慮ナリ<sup>(二)</sup>兩君皆歐洲強國カ萬ノ貔貅ヲ

養ヒ千萬ノ鬪艦ヲ造リテ相噬攫シ又時々来リ

テ亜細亞<sup>(地)</sup>ニ方ヲ暴掠スルヲ見テ因テ過慮シテ以為ヘ

ラク彼レ一日必ス大ニ船ヲ装フテ来リ侵サント<sup>(スコト有ラン)</sup>是レ其兩

極ノ論ノ出ル所以ナリ是ニ於テ紳士君ハ民主ノ制ニ

循ヒ兵備ヲ撤シ<sup>(敵意ヲ表スル)</sup>歐洲人ノ先ヲ制セント欲ス<sup>(シテ其不意ニ)</sup>是レ

兵法ニ所謂其銳ヲ避ル者ナリ<sup>(出テテト欲ス)</sup>是ニ於テ豪傑君ハ<sup>(シテ其銳ヲ避ケント欲ス)</sup>

大ニ外征ノ<sup>(兵)</sup>ヲ興シ他邦ヲ割取リ<sup>(巨)</sup>版圖ヲ廣メン<sup>(擴張シテ)</sup>欲

歐洲人ノ乱ニ乗シテ利ヲ取メント欲ス皆歐洲諸國ノ形<sup>(方今)</sup>

勢ニ於テ過慮スル所有ルカ故ナリ僕ヲ以テ之ヲ觀ルニ<sup>(盛)</sup>字

佛二國カ大ニ兵備ヲ張ルハ<sup>(其勢甚迫レルカ如キモ實ハ然ラスシテ)</sup>必スシモ甚

畏ル可キニ非サル<sup>(少ク)</sup>彼レ兵ヲ張ルトキハ或ハ畏ル可キモ大ニ

兵ヲ張ルカ故ニ畏ル可キ者有ルコト無シ何ソヤ二君彼ノ<sup>(破裂スルコト)</sup>

各日童子カ作ル所ノ雪球ヲ看スヤ其初メ甚大ナルサル間<sup>(冬)</sup>

ハ前後左右意ニ隨フテ滾轉スルモ漸クニシテ彪然タル大<sup>(ヲ得ル)</sup>

圓球ヲ成ストキハ力ヲ極テ推轉ス<sup>(之ヲ)</sup>モ復タ動ス可ラス

且<sup>(今大)</sup>字佛二童子ハ方ニ相競フテ其雪球ノ益々大ニシ<sup>(各々)</sup>

[108  
オ]

テ他ノ球ニ勝ルコトヲ求<sup>(和)</sup>其一片屑ヲ割取

リテ他所ニ送ルコトハ其甚好マサル所ナリ<sup>(メテ已マズ)</sup>字國一萬ヲ増

ストキハ佛國モ亦一萬ヲ増シ字國二萬ヲ増ストキハ佛國モ亦二

萬ヲ増シテ其雪球年々益々大ヲ成セリ而テ魯英ハ方

ニ傍觀シテ此二球ノ相觸ル、ヲ俟ツ者ナリ然トモ彼童子

ハ各々其庭上<sup>(殘)</sup>雪ノ有ラン限ハ益々其球ヲ大

ニスルコトヲ求メテ未タ遽ニ門外ニ推出サス<sup>(顧フニ)</sup>恐

クハ其庭上<sup>(ハ)</sup>雪ノ盡ル頃<sup>(二非レハ)</sup>二球或ハ皆碎ケ片屑ト

為ランノミ

且ツ萬國講<sup>(和)</sup>ハ未タ實行ス可ラスト雖トモ諸

國實際ノ間道德ノ旨義ハ漸ク其域<sup>(區)</sup>ヲ廣メテ腕力ノ

旨義ハ漸ク其封境ヲ狹ムルコト是レ自然ノ勢ニシテ紳士君

ノ所謂進化神ノ行路ナリ故ニ魯失亜ノ如キハ其威ヲ亜

細亞ニ宣ヘ便地ヲ割有シテ英ノ印度ヲ衝カント欲スルモ

未タ容易ニ手ヲ下スニ至ラス蓋シ諸國<sup>(皆)</sup>其外交ノ策ニ至

リテハ專ラ腕力ヲ尚ヒテ道德ヲ尚ハサルカ如シト雖モ未タ世

人ノ想像スルカ如ク甚ニハ非サルナリ<sup>(キ)</sup>若シ字佛獨魯ノ

中其一最強クシテ大ニ他ノ三國ノ上ニ出ルニ於テハ<sup>(專ラ)</sup>初ヨ

リ萬國公法恣睢猖獗シテ少モ萬國公法ヲ顧ミサル<sup>(腕力ニ任セ)</sup>

可キモ今ハ然ラスシテ四國強弱ノ勢大抵相當ルカ故ニ

彼レ皆已ムコトヲ得スシテ幾分公法ヲ守ラサルヲ得ス是レ<sup>(カ)</sup>

小邦ノ頼リテ以テ吞併ヲ免ル、所ナリ<sup>(衆)</sup>

[108  
ウ]

[109  
ウ]

[109  
オ]

[110  
オ]

且邦国ナル者ハ衆意欲ノ集合ニシテ或ハ君有リ  
 百僚有リ議院有リ庶民有リテ其機關極テ錯雜ナ  
 ルカ故ニ其趣意<sup>(向)</sup>ヲ決シ其運動ヲ起スコト復タ一個人  
 ノ輕便ナルカ如クナラス縱令ヒ邦国ノ運動ヲシテ一個人  
 ノ如ク輕便ナラシメハ強者ハ常ニ暴ヲ恣ニシテ弱者ハ常ニ  
 禍ヲ蒙ル可キモ幸ニ然ラシテ<sup>(萬衆)</sup>一兵ヲ出シ一<sup>(萬數ノ兵)</sup>百數ノ艦ヲ  
 遣ハサント欲スルトキハ君主議シ宰相議シ百僚議シ新  
 聞紙論シ議院論シ新聞紙論シテ一個人カ衣ヲ攀ケ  
 棍ヲ持シ徒歩シテ闘ニ赴クカ如クナラス是レ正ニ<sup>(重刺比)</sup>ゴルドン  
 將軍カ命ヲ沙漠ニ殞セシ所以ナリクルベ<sup>(終)</sup>提督カ死  
 ヲ安南ノ瘴煙ニ<sup>(取リ)</sup>致セシ所以ナリ然ラスハ英佛ハ強ヲ  
 以テ各個人ノ輕便ナルカ如クナル<sup>(其兵ヲ出シ謀ヲ運スルコト)</sup>トキハ亞細亞地方ハ其吞  
 併セラル、コト已ニ久シカランノミ故ニ歐洲諸国ノ兵ハ猶  
 ホ虎獅ノ如シ其議院新聞紙ハ猶ホ鏡網ノ如シ而テ<sup>(又諸)</sup>加フルニ  
 夫萬国公義有リ萬国公法ノ約有リテ隱然トシテ之ニ<sup>(其手足ニ膠)</sup>□  
 國均勢ノ<sup>(著)</sup>スルカ故ニ夫ノ獐惡ナル虎獅ハ終歲□ヲ開キ舌ヲ  
 吐クモ遽ニ其貪暴ヲ恣ニスルコト能ハサルナリ僕故ニ曰  
 ク紳士君ノ民主制度ヤ豪傑君ノ外略占義ヤ皆歐  
 洲強国ノ<sup>(形)</sup>勢ニ於テ過慮スル所有ルカ為メナリト  
 是時二客<sup>(辭)</sup>□ヲ合シテ曰ク若シ彼レ一日敢テ悍然トシテ  
 來襲フニ於テハ先生將ニ何ヲ以テ之ヲ待タントス  
 スル乎

〔110ウ〕

〔111オ〕

南海先生曰ク彼レ果テ他国ノ議ヲ<sup>(憚ラ)</sup>顧ミス公法ノ義ヲ<sup>(顧憚)</sup>憚  
 ミス議院ノ論ヲ<sup>(顧)</sup>慮ミス敢テ<sup>(狡焉)</sup>悍然トシテ來襲フ  
 トキハ我レ唯力ヲ竭シ<sup>(テ)</sup>抗禦シ国人皆兵ト為リ進退出沒  
 據リテ拒守シ或ハ不意ニ出テ、侵撃シ進退出沒變化  
 測ラレスシテ<sup>(サルヲ為シ)</sup>彼ハ客ニシテ<sup>(我ハ主)</sup>□□ヲナ<sup>(リ)</sup>□□<sup>(リ)</sup>彼ハ不義ニシテ我ハ  
 義ナリ我將士我卒徒敵愾ノ氣益奮揚スルニ於テハ曷  
 ソ遽ニ自ラ防守スルコト能ハサルノ理有ラン哉是ハ則チ□  
 □<sup>(武官ニ職)</sup>武官ニ服スル者自ラ當ニ奇計妙策有ル可キノミ且ツ  
 我兵<sup>(重細重ノ兵終ニ歐洲ノ兵ニ當ルニ)</sup>□□ニ自ラ防守スルニ足ラスト為ストキハ紳士君ノ民主  
 国ヤ豪傑君ノ新大邦ヤ皆亦陷落スル所ト為ランノミ  
 僕<sup>(モ亦)</sup>ト雖モ別ニ奇策有ルニ非サルナリ獨リ僕ノミニ非ス  
 シテ即チ英佛諸国カ相互ニ攻守スルモ亦別ニ奇策有  
 ルニ非サルナリ之ヲ要スルニ我重細重<sup>(買フコトヲ須イン哉)</sup>諸邦ノ兵ハ此ヲ以テ侵  
 伐セント欲スルトキハ足ラサルモ此ヲ以テ防守スルトキハ餘有リト  
 為ス故ニ<sup>(務テ)</sup>□□平時ニ於テ訓練シ<sup>(蒐肄シテ以テ)</sup>□□<sup>(銳ヲ養フ)</sup>トキハ何ソ遽ニ  
 自ラ守ルコト能ハサルコトヲ<sup>(憂)</sup>□□<sup>(略ニ循ヒ)</sup>ヘン哉何ソ紳士君ノ如ク手ヲ束ネ  
 テ死ヲ俟ツコトヲ須イン哉何ソ豪傑君ノ如ク怨ヲ<sup>(隣)</sup>他国ニ  
 抑々豪傑君ノ所謂阿非利加力亞細亞ノ一大邦  
 抑々<sup>(固ヨリ何ノ邦ヲ指スコトラ知ル)</sup>豪傑君ノ如ク怨ヲ<sup>(隣)</sup>他国ニ  
 果テ亞細亞ニ在ルトキハ是レ宜ク相共ニ結テ兄  
 弟国ト為リ平時<sup>(緩急)</sup>相救フテ以テ各々自ラ援フ可  
 キナリ妄ニ干戈ヲ動シ輕ク隣敵ヲ挑シ無辜ノ

〔111ウ〕

〔112オ〕

民ヲシテ命ヲ<sup>(彈)</sup>丸ニ殞サシムルカ如キハ尤モ

計ニ非サルナリ中ニ就キ支那国ノ如キハ其風俗

習尚ヨリシテ言フモ其文物品式ヨリシテ言フ

モ其地勢ヨリシテ言フモ亜細亜ノ小邦タル者

ハ當ニ之ト交ヲ敦クシ交ヲ固クシ務テ怨ヲ相

嫁<sup>(嫁)</sup>スルコト無キコトヲ求ム可キナリ国家益々物産ヲ

増殖シ貨物ヲ殷阜ニスルニ及テハ支那国土ノ

博大ナル人民ノ<sup>(蕃)</sup>滋庶ナル實ニ我レノ一大販路

ニシテ混々盡ルコト無キ利源ナリ是ニ慮ラスシ

テ徒ニ一時国體ヲ張ルノ念ニ徇フテ瑣碎ノ違

言ヲ名トシテ<sup>(徒ニ)</sup>爭競ヲ騰ルカ如キハ僕尤モ其非

計ヲ見ルナリ論者或ハ言フ此邦素ヨリ怨ヲ我ニ

修メント欲スルコト久シ我レ縱令ヒ禮ヲ厚シ<sup>(ク)</sup>好ヲ敦ク

セン相結フコトヲ求ムルモ<sup>(シテ)</sup>他ノ小邦ノ關係ヨリシテ彼レ常

ニ憤々ノ念ヲ懷ク有ルカ故ニ一朝機會ニ遭遇ス

ルトキハ彼レ或ハ歐洲強國ト謀ヲ協ヘ約ヲ通<sup>(シ)</sup>テ以テ

我ヲ排擠シ<sup>(シ)</sup>強國ノ餌ニ供シテ自ラ利スルコトヲ

計ルモ未タ知ル可ラスト僕ヲ以テ之ヲ考フルニ支那国ノ

心ヲ設ルコト未タ必スシモ此ノ如キニ至ラス大抵国ト国ト怨

ヲ結フハ<sup>(所以ノ者)</sup>實形ニ在ラスシテ虚声ニ在リ實形ヲ

洞察スルトキハ少モ疑ヲ置クニ足ラサルモ虚声ヲ預測ス

ルトキハ頗ル畏ル可キヲ見ル故ニ各国ノ相疑フハ各国

[113  
オ]

[112  
ウ]

ノ神經病ナリ青色ノ眼鏡ヲ著ケテ物ヲ視ルトキハ見  
ル所トシテ青色ナラサルハ莫シ僕常ニ外交家ノ眼鏡  
ノ無色ナラサルコトヲ憫レムナリ

是故ニ<sup>(邦)</sup>兩國ノ戰端ヲ開クハ互ニ戰ヲ好ムカ為メニ

シテ然ルニ非スシテ<sup>(正ニ)</sup>戰ヲ畏ル、カ為メニシテ然ル者ナリ

我レ彼ヲ畏ル、カ故ニ急ニ兵ヲ備フレハ彼モ亦我ヲ畏

レテ急ニ兵ヲ備ヘテ彼此ノ<sup>(各)</sup>神經病日<sup>(烈クシテ)</sup>ニ熾二月ニ

劇ク其間又彼ノ新聞紙ナル者有リ<sup>(各)</sup>萬國ノ實形

ト虚声トヲ並奉シテ區別スル所無ク甚ハ或ハ自

家<sup>(振フテ)</sup>ノ<sup>(振ヒ)</sup>神經病ノ華ヲ<sup>(振ヒ)</sup>一種異様ノ彩色ヲ施シテ

之ヲ世上ニ傳播スル有リ是ニ於テ彼ノ相畏ル、兩

邦ノ神經ハ益々錯亂シテ以為ヘラク先スレハ人ヲ

制ス寧ロ我ヨリ<sup>(其)</sup>兇スルニ如カスト是ニ於テ彼ノ兩邦戰ヲ

畏ル、ノ心俄ニ<sup>(其)</sup>極ニ至リテ戰端自然ニ其間ニ開クルニ至ル

是レ古今萬國交戰ノ實情ナリ若シ<sup>(其)</sup>神經無クシテ戰爭

ニ至ルコト無ク即チ戰爭ニ至ルモ其邦ノ戰略ハ必ス防禦

ヲ主トシテ餘裕有リ義名有ルコトヲ得テ文明ノ春秋經

ニ於テ必ス貶譏ヲ受ルコト無キナリ<sup>(猶尚ホ)</sup>「<sup>(極テ喜フ)</sup>諸若シ神經病ヲ起メ

洋学紳士曰ク先生<sup>(極テ喜フ)</sup>論ハ比喻ニ富ミ形容ニ專

ラニシテ往々有形可キモ本旨ノ在ル所ハ茫洋

トシテ影ヲ捉フルカ如キヲ覺フ願クハ<sup>(願クハ)</sup>先生明

高言ノ要ヲ摘ミテ<sup>(高言ノ要ヲ摘ミテ)</sup>二事實ヲ撮リテ之ヲ示メセ

[114  
オ]

[113  
ウ]

豪傑ノ客曰ク先生ノ論ハ吾侪兩人ノ言ニ於テ  
皆モ採用セラル、コト無シ請フ邦家将来ノ経綸  
ニ於テ先生ノ所見ヲ述ヘテ之ヲ教ヘヨ

南海先生乃チ曰ク亦唯立憲ノ制ヲ設ケ上ハ皇  
上ノ尊榮ヲ増シ<sup>(張リ)</sup>下ハ萬民ノ福祉ヲ増シ上下両  
議院ヲ置キ上院議士ハ貴族ヲ以テ之ニ充テ、  
世々相承ケシメ下院議士ハ選舉法ヲ用イテ之  
ヲ取ル是ノミ若夫レ詳細ノ規條ハ歐米諸国現  
行ノ憲法ニ就イテ其採ル可キヲ取リ<sup>(ランノミ)</sup>テ其棄ツ  
可キヲ棄ツル<sup>(時談論ノ邊ニ)</sup>ニ言盡ス所ニ非サルナリ外交ノ旨義<sup>(趣)</sup>

『三酔人経綸問答』の草稿・「酔人之奇論」・刊本間における本文の主な異同

草稿は稿本の何丁目のオモテまたはウラの何行目かを、「酔人之奇論」は『国民之友』第三号の何頁の上段または下段の何行目かを、刊本は集成社から刊行された単行本の何頁の何行かを、それぞれ示した。

【草稿・「酔人之奇論」・刊本間の本文の異同】

草稿		醉人之奇論		刊本	
1才8	千歳ノ前二溯リ千歳ノ後二跨リ	千載ノ前二溯ホリ千載ノ後二跨リ	1―5	千歳の前に溯り千歳の後に跨り	
1才9	社會ノ方計	社會ノ方針	1―6	社會の方計	
2才7	痕迹ヲ留ルナク	痕迹ヲ留ルコト無ク	1―9	痕迹を留ることなく	
3才2	洋火酒ヲ齋シテ	洋火酒ヲ齋ラシテ	3―8	洋火酒を齋して	
3才7	思想ノ園中ニ	思想ノ園中ニ	3―10	思想の園中に	
3才8	論理ノ直線ニ循フテ	理論的ノ直線ニ循フテ	3―11	論理の直線に循ふて	
3ウ9	先生ノ識古今ヲ串ク	先生ノ識古今ヲ貫ク	4―6	先生の識古今を串く	
5才2	劔ヲ揮ツテ	劔ヲ揮フテ	5―10	劔を揮ふて	
5才9	文明ノ原質ナル良心	文明ノ原質ナル良心	6―3	文明の原質なる理義の心	
5ウ4	彼モ亦其堡壘ヲ恃ミ	彼モ其ノ堡壘ヲ恃ミ	6―8	彼も亦其堡壘を恃み	
5ウ9	我邦	我國	6―11	我邦	
6才1	彼果テ	彼レ果テ	7―1	彼果て	
6才1	我田	我邦	7―1	我田	
6才4	忍耐力ニ富サル者	忍耐力ニ富サル者	7―2	忍耐力に富まざる者	
6才6	大劫會	大都會	7―4	大劫會	
6ウ3	プラトン	プラトン	7―8	プラトン	
6ウ8	為サル乎	為サル乎	7―12	為さゝる乎	
7才6	南海先生笑ツテ曰ク	南海先生笑フテ曰ク	8―6	南海先生笑つて曰く	
7才8	豪傑ノ客モ亦笑ツテ曰ク	豪傑ノ客モ亦笑テ曰ク	8―8	豪傑の客も亦笑つて曰く	
7才10	任スル者	任スルモノ	8―9	任する者	
8才8	豫メ	豫シメ	9―11	豫め	
8ウ5	一衣帶水ノ外	一衣帶水ノ外	10―3	一衣帶水の外、	
8ウ7	苟儼	苟儼	10―5	苟儼	
8ウ9	明医	明醫	10―6	名醫	
9才2	舉ケ	舉テ	10―8	舉げ	
9才3	果シテ	果テ	10―9	果して	
9才8	易ルニ	易ルニ	11―1	易ふるに	
9才10	入ルノミニニテ	入ルノミニニシテ	11―2	入るのみにて	
9ウ4	国ノ為メニ	国ノ為ニ	11―5	国の為めに	

草稿(訂正前)	草稿(訂正後)	醉人之奇論	刊本
1才9	我ハ是レ人類處世ノ道ノ指南車ナリ	我コソハ人類處世ノ道ノ指南車ナリ	1—6
1才2	近眼者カ安ニ水先案内ト爲リ	近眼者安ニ羅針盤ヲ執リ	1—7
2才2	地誌歴史ニ切當スルコトモマ之有リ	地誌歴史ニ切當スルコトモマ之有リ	2—5
2才5	夫レヨリ二三時間睡眠シ	夫レヨリ二三時間睡眠シ	2—7
2才8	狐憑	狐憑	2—9
2才8	狐憑	狐憑	2—9
2才8	此頃「霖雨打続キ連日鬱陶トシテ不快云」ハカタ無ク	近日霖雨濛々として連日間カス情意鬱陶とし て極て不快を覺へり	3—4
4才5	過テハ輒チ改□益々善ニ進ム者ナリ	其胸中半點ノ塵汚無キ者ナリ	4—11
4才8	民主ノ制ニ循ハサル者多キニ居ル乎	民主ノ制ニ循ハサル者多キニ居ル乎	4—12
4才1	功名ヲ競フテ相共ニ屠斬セシムル	功名ヲ競フカ爲メニ無辜ノ民ヲシテ相共ニ屠斬セシムル	5—2
4才2	文明ノ運ニ於テ後進ナル□□□□一小邦	文明ノ運ニ於テ後進ナル一小邦	5—3
4才4	煩懣ヲ銷シ	煩懣ヲ銷シ	5—5
4才6	純然理學的ノ兒子	純然理學的ノ兒子	5—6
5才1	自由ハ軍隊ナリ艦隊ナリ平等ハ要塞ナリ友愛ハ砲臺ナリ	自由を以て軍隊と爲し艦隊と爲し平等を以て要塞と爲し友愛を以て砲臺と爲すきは天下豈當る者有らん哉若し然らずして	6—5
5才10	我レ留マラン□□	我レ留マランニ	6—12
6才3	之ヲ忍耐センノミ	之ヲ忍耐センノミ	7—2
6才6	大洪水	大洪水	7—10
6才6	大洪水以後	大洪水以後	7—11
7才1	一刀刃一彈丸ヲ報酬セスシテ	一刀刃一彈丸ヲ報酬セスシテ	8—2
7才8	踏躑シテ	踏躑シテ	9—3
7才8	人類カ	人類ガ	9—3
7才9	血ヲ湛ヘルニ至ルモ	血ヲ湛ユルニ至ルモ	9—4
8才1	略ホ之ヲ怙ル、コト無シ	略ホ之ヲ懷ル、コト無シ	9—5
8才1	サレハ	サレハ	9—5
8才2	政綱	政綱	10—2
8才4	纔ニ一世紀ノ前裁	纔ニ一世紀ノ前裁ニ	10—3
8才8	自ラ諱ミテ	自ラ諱ミテ	10—6
9才10	王路易ハ悠々然	王路易ハ則チ悠々然	11—2
9才10	惘然	惘然	11—9

【「醉人之奇論」該当箇所以降の草稿と刊本の本文との異同】

■語句			
	草稿		刊本
10才10	廟廊	12   4	廟廊
23才2	第一	26   10	第一步
24ウ9	身財	28   11	身軀
24ウ10	農商賈	28   12	農工商賈
25才2	一国人	29   1	一國
25才5	示令	29   4	指令
25才6	愚昧	29   4	無智
26才10	谿谷	30   8	蹊谷
30才1	君相專制	34   9	君相專擅
30ウ6	草官	35   7	草菅
31才1	任二就キ	35   10	仕籍に就き
37才10	微ニ	43   3	微く
46ウ10	民主国ノ大患	53   7	民主國の通患
47才5	自由ノ權	53   10	自由
47ウ6	著實	54   7	着實
56ウ8	軀幹ノ肥大ナルヲ恃ミテ	64   11	軀幹の大なるを恃みて
64才4	斯披	75   3	斯拔篤
70ウ9	寬急	82   10	緩急
80才6	兄弟	93   10	子弟
88ウ10	癌腫ハ疾ナリ	103   10	癌腫は疾病なり
89才1	恋旧元素ハ人ナリ	103   11	戀舊元素は人身なり
89才8	皆無事ニ苦ミテ	104   4	皆太平を厭ひ無事に苦みて
89ウ2	邦家生肉ノ害ヲ爲サ、ルコトヲ冀フ	104   7	久く邦家生肉の害を爲さゝることを冀ふ
90ウ3	狂人ノ行	105   12	狂人の行爲

■語句（誤→正）			
15才4	餞物	17   9	錢物
16才8	旧幣	19   2	舊弊
19ウ6	旧幣	23   1	舊弊
24ウ4	卸去	28   8	卸去
25ウ1	明約	29   7	明約
26才8	猗輿	30   7	猗輿
67ウ4	滔ム	79   2	蹈む
79ウ6	邦俗ノ爲ニ區セラレサル者	93   3	邦俗の爲に局せられざる者
80ウ10	忌克	94   7	克忌
114才7	猶ホ茫洋トシテ影ヲ捉フルカ如キヲ覺フ	136   7	竟に茫洋として影を捉ふるか如きを免れず
114才2	戰爭ニ至ルコト無ク	134   12	戰に至ること無く
111才4	公法ノ義ヲ憚ミス	131   2	公法の議を憚らす
111才4	他國ノ議	131   2	他國の評
108ウ7	滾轉スル	128   2	推轉する
107ウ9	旨趣	127   2	主趣
107ウ4	現在事業ノ繪画	126   9	現在事業の繪
106才9	過去思想ノ貯蓄所	125   1	過去思想の貯蓄
106才6	君ノ頭腦中	124   11	君の腦髓中
103才7	食飲ス	120   11	飲食す
103才7	食飲シ	120   11	飲食し
95才5	怨ヲ結ヒタルノミニ非サルナリ	111   3	怨を結ひたるに非ざるなり
95才3	僕故ニ曰ク	111   2	故に曰く*ここで改行。
94ウ4	各々力ヲ競ヒ	110   8	各々雄を爭ひ力を競ひ
90ウ5	百萬ノ衆ヲ驅リ	106   2	百萬の衆を驅り百萬の煩を運し

24 ウ 7	18 オ 6	16 オ 8	11 ウ 10	11 オ 9	10 ウ 9	■ 字体（用字）	114 オ 3	106 オ 5	103 オ 1	94 オ 4	81 ウ 1	77 ウ 4	76 ウ 5	67 オ 9	63 ウ 3	61 オ 7	60 ウ 1	60 オ 4	■ 助詞	100 ウ 10	91 オ 10	83 ウ 1	83 オ 1	81 オ 3
羸	蓄へ	洶湧	赤裸	并セテ	庇蔭		其邦ノ戦略ハ必ス防禦ヲ主トシテ餘裕 有リ	茂生スルハ	紳士君平等ノ制度ヲ主張シ	チエールカ	具フ者	在ルノ時	在テハ	紳士君カ祁寒ヲ畏レス	能ハサル者ハ	紳士君カ	兵ヲ遣ハシテ来リ襲フ	彼ノ米利堅佛蘭西ノ属		阿非利種族	間拓	直ノ	馬車	織密
28 10	21 6	19 2	13 11	13 4	12 9		134 12	124 9	120 5	110 1	95 3	90 10	89 9	78 10	74 8	69 12	69 2	68 9		117 10	106 12	97 3	96 9	94 9
羸	畜へ	洶湧	赤裸	併せて	庇蔭		其邦ノ戦畧必ス防禦を主として餘裕 有リ	茂生するも	紳士君は平等の制度を主張し	チエールの	具ふる者	在る時	在て	紳士君の祁寒を畏れず	能はさる者	紳士君の	兵を遣はして来りて襲ふ	彼米利堅佛蘭西の属		阿非利加種族	開拓	眞の	馬革	續密

78 ウ 5	78 オ 10	78 オ 8	78 オ 5	77 オ 5	69 オ 4	68 ウ 1	67 オ 6	65 オ 5	64 オ 3	63 ウ 6	63 オ 6	61 オ 9	56- オ 2	56 オ 2	56 オ 1	55 ウ 7	45 ウ 6	45 オ 5	45 オ 3	37 オ 2	34 オ 1	31 オ 4	27 オ 3	26 ウ 8	24 ウ 9	24 ウ 8
外邦人	頑慥	疎暴	牝雞	繙譯	轉注滙流	君ト與ニ	勇烈	滾轉	史藉	狗フ	厲マシ	最後ノ一著	顛狂	一箇	顛狂	鎭艦	稀疎	稀疎	蒞	并有	剋戕	庇蔭	鼓	蓄奴	一箇	委靡
91 12	91 9	91 8	91 5	90 4	80 11	80 2	78 9	75 5	75 2	74 9	74 2	70 2	63 12	63 12	63 12	63 8	52 2	51 6	51 5	42 9	39 4	35 12	31 5	31 2	28 11	28 11
外國人	頑慥	疎暴	牝鷄	繙譯	轉注滙流	君と共に	勇烈	滾轉	史籍	徇ふ	勵まし	最後の一着	癡狂	一個	癡狂	鐵艦	稀疎	稀疎	蒞	併有	剋戕	庇蔭	鼓	畜奴	一個	萎靡

64才6	開ル	75   5	開くる
63才3	負ル	74   1	負くる
62才2	負ル	72   11	負くる
61才1	聴スシテ	69   8	聴かすして
60才3	動スレハ	68   9	動もすれは
51才8	遅クスル	58   9	遅しくする
41才9	踏シ	46   10	踏ほし
40才5	然トモ	45   5	然れとも
36才8	相承ル	41   12	相承くる
34才1	由テ	39   11	由りて
33才1	仰キテ	38   9	仰ほきて
32才4	愈ル	37   9	愈れる
31才1	虽トモ	36   5	雖も
26才7	頗	31   1	頗る
16才2	而テ	18   10	而して
11才8	雖モ	13   3	雖とも
■送りがない(増)			
104才8	白耳失亜	122   3	白耳失亜
103才10	并ニ	121   2	並に
93才9	遭フ	109   9	逢ふ
85才3	何如ソヤ	98   12	如何そや
82才5	忼慨	96   1	慷慨
81才9	忼慨	95   9	慷慨
81才1	八達ノイ	94   8	八達の衢
79才7	忼慨	92   8	慷慨
79才4	疎豪	92   6	疎豪

75才2	我レ	87   8	我
74才1	譬ヘハ猶ホ	86   12	譬は猶
63才1	雖トモ	73   12	雖も
62才4	攫ミテ	73   7	攫て
60才7	由リテ	68   11	由て
49才7	一書ヲ著ハシテ	56   5	一書を著して
42才9	雖トモ	48   11	雖も
42才7	暴力ニ	48   3	暴に
34才5	夫ノ政事的進化ノ理	40   2	夫政事的進化の理
21才10	復タ	25   1	復
■送りがない(減)			
114才10	言盡ス	137   3	言ひ盡す
113才6	甚ハ	134   7	甚きは
105才6	坐ニシテ	124   2	坐らにして
97才9	云ケルニ	114   4	云ひけるに
97才7	沈没ニ垂タル	113   8	沈没に垂んたる
89才7	事成サレハ	104   11	事成らされは
88才5	洋学紳士曰	102   11	洋学紳士曰く
87才2	似ル者	101   5	似たる者
86才4	慮ヲ凝シ	100   3	慮を凝らし
74才6	吞併ラレン	86   8	吞併せられん
74才3	盡ル	86   6	盡くる
73才2	晒シ	85   11	晒らし
70才6	暴ニ	82   2	暴かに
70才5	猝ニ	82   1	猝かに
66才8	無ル	77   8	無かる

■表記(漢字→ひらがな)	■仮名づかい(音便)										114ウ9	111ウ10	104ウ3	93ウ2	85ウ5	85ウ5	82オ3	79ウ1
											就イテ	買フコトヲ	正サニ	二国ノ相ヒ鬻スルヤ	肯ヘテ	能クセス	認メテ	多クハ
111ウ10	須イン										137 2	132 4	122 7	109 5	99 10	99 9	95 12	92 11
											就て	買ことを	正に	二國の相鬻するや	肯て	能せず	認て	多は
111ウ10	須イン										132 3	122 2	121 10	117 3	114 12	114 9	114 4	102 1
104オ6	用イル										用うる	引きて	就ひて	延ひて	無形の理義を用ひ	更に杯を引きて	殆ひ哉	用イル
103ウ10	引イテ										用ふる	用ひて	此二物を用ひしこと	相率ひて	相率ひて	相率イテ	相率イテ	用イル
100ウ1	就イテ										用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる
98ウ1	延イテ										用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる
98オ6	無形ノ理義ヲ用イ										用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる
97ウ9	更ニ杯ヲ引イテ										用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる
87ウ2	殆イ哉										用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる
85ウ6	用イル										用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる
84ウ5	用キテ										用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる
77ウ10	此二物ヲ用イシコト										用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる
41オ4	相率イテ										用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる
25オ4	相率イテ										用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる
24ウ5	用イル										用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる	用ひる

■人名	48ウ5	20ウ3	■表記(カナ→漢字)	107オ3	108ウ6	61ウ8	50ウ7	49ウ3	48オ10	47ウ9	45オ9	44ウ5	42ウ5	42ウ1	39ウ7	38ウ5	38ウ5	38ウ1	37ウ8	37ウ7	37オ3	36オ7	34ウ2
	アペールトサンピエール	コンドルロー		トキ「合字」	有ラン	有レ	有ル	他無シ	非ス乎	所無キ乎	他無シ	何ノ害有ル乎	有ルコト無シ	求ム可キ	有ルコト無シ	生スルコト無シ	有ルコト無シ	主人無トキハ	外無ク内無ケレハナリ	始無ク終無ケレハナリ	無キナリ	無クシテ	益有ル
55 9	アペール、ド、サンピエール	コンドルセー	時	125 12	127 6	72 8	58 1	56 9	55 5	54 9	51 9	50 11	48 9	48 6	44 12	44 3	44 2	43 12	43 9	43 7	42 10	41 11	39 11
					あらん	あれ	ある	他なし	非すや	所なき乎	他なし	何の害有るか	有ることなし	求むへき	有ることなし	生することなし	有ることなし	主人なき時は	外なく内なければなり	始なく終なければなり	なきなり	なくして	益ある

35 オ 3	サレハ	40 7	是故に	■接続詞
110 オ 5	軽便ナルカ如ク	129 12	軽便なるが如く	
99 オ 10	歐洲學士カ	116 1	歐洲學士が	
74 オ 1	非ズ	86 5	非す	
73 ウ 9	非レバ	86 4	非れは	
73 オ 3	諸國カ	85 5	諸國が	
13 ウ 3	タラザリキ	15 11	たらさりき	■濁点
106 ウ 6	思想、事業ヲ生シ	125 7	思想事業を生し	
106 オ 5	今人々ノ腦髓中	124 10	今、人々の腦髓中	
106 オ 1	紳士君紳士君思想ハ種子ナリ	124 7	紳士君、紳士君、思想は種子なり	
87 ウ 6	紳士君紳士君	102 4	紳士君、紳士君	
87 オ 9	紳士君、紳士君、一國中	101 11	紳士君、紳士君一國中	
81 ウ 9	武夫豪傑ノ流叱咤慷慨ノ態	95 9	武夫豪傑の流、叱咤慷慨の態	
80 ウ 3	一國ノ中、朝野官民學士藝人	94 2	一國の中朝野官民學士藝人	
69 オ 5	百萬ノ兵衆數百千ノ艦隊	80 11	百萬の兵衆 數百千の艦隊か	
68 オ 4	紳士君、紳士君君ハ	79 9	紳士君、紳士君、君は	
67 オ 1	我衆彼山腹ヲ繞リ	78 5	我衆、彼山腹を繞り	
42 ウ 3	亜細亞阿非利加	48 7	亜細亞、阿非利加	
37 ウ 2	炎風ノ日身ニ葛衣ノ輕キヲ著ケテ	43 4	炎風の日、身に葛衣の輕きを著けて	
20 ウ 3	ヂデロー、コンドルロー	24 2	ヂデロー、コンドルセー	
17 オ 1	維也納伯林ノ間	19 11	維也納、伯林の間	
16 オ 1	龍蟠の形虎躍の勢	18 10	龍蟠の形、虎躍の勢	■読点

96 オ 9	後ヲ圖ル	112 7	其後を圖る	
95 ウ 3	占トスル所ニ非サルモ	111 9	其旨とする所に非ざるも	
95 オ 10	財貨ノ殷阜ナル他ノ諸國ノ企及スル所ニ非ス	111 7	財貨の殷阜なること他の諸國の企及する所に非ず	
91 オ 6	ビスマルク	106 10	帖木兒	
88 ウ 3	武震ニ賴リテ事ヲ成サント欲ス	103 4	武震に賴りて國を救はんと欲す	
84 ウ 4	肝腦鮮血等ノ字面	98 8	肝腦鮮血頭足等の字面	
82 オ 7	故ニ	96 3	是故に	
73 ウ 6	性命	86 2	生命	
73 オ 4	原由	85 6	原因	
68 ウ 1	君ト與ニ	80 2	君と共に	
67 ウ 4	瘦莖滔ムニ隨フテ	79 2	瘦莖滔むに隨ふて	
67 オ 8	紳士君カ	78 10	紳士君の	
56 オ 1	癡狂國	63 12	癡狂國	
54 オ 5	裁ユル者ハ之ヲ培ヒ	61 11	裁ゆる者は之を培ひ	
49 オ 5	存セサル可ラサルノ一書ナリ	56 3	存せざる可らざる一書なり	■その他
113 ウ 2	然ル者ナリ	134 4	然るなり	
42 ウ 8	其他諸國ニ至リテハ	48 10	其他諸國に至りて	
19 ウ 4	人若シ能ク事勢ヲ達觀シ	22 12	人若し事勢を達觀し	
14 オ 8	之ヲ明カニスル	16 9	明らにする	
12 オ 2	貴族有ル時ハ是レ	14 1	貴族有る時は	■調子を整えるための語句の削除
9 ウ 10	宰相ナル耶	12 4	宰相なる乎	■助字

55才2	臨海ノ屋樹	62   11	臨海の屋樹
55才2	鉄艦	62   11	鐵鑑
50才6	条約誓盟	57   5	条約誓盟
47ウ2	スチユアルミル	54   3	スチアルミル
45才6	或ハ千數年ニ一タヒ怒ヲ發ス	51   7	或は千數年に一たひ怒を發し
34才2	媚ヒ	39   5	媚ひ
32ウ3	新鮮ヲ茹ラヒ	37   8	新鮮を茹らひ
32才4	肯テ屈下セサル	37   2	嘗て屈下せざる
27ウ2	境界	31   12	境界
20ウ7	吾代ヲ逐フテ	24   4	世代逐ふて
14才8	明カニスル	16   9	明らかにする
13才7	ハエツケル	15   7	ハエツチル
■最終稿の誤記または刊本の誤植と推定される箇所			
112ウ7	怨ヲ我ニ修イン	133   4	怨を我に修めん
112ウ7	此邦	133   4	支那國
111才2	待タントススル乎	131   1	待たんとする乎
110才1	吞併ヲ免ル、	129   9	吞併の患を免る、
108才6	大ニ船ヲ装フテ	127   5	百千の堅艦を裝ふて
107ウ6	皆一稱シテ	126   10	一稱して
106ウ3	紳士君一タヒ史ヲ繙キテ之ヲ誦セヨ	125   4	紳士君、君一たひ史を繙きて之を誦せよ
106才9	而テ事業ナル者ハ	125   1	社會の事業は
105ウ7	恢復的ノ民權	124   3	恢復的民權
104ウ10	沸騰スルコトヲ奈何セン	123   1	沸騰するを奈何せん
98才8	為シテ	114   10	爲らしめ
98才7	精細ニ彫鑄シタ美術ノ作物	114   9	精細に彫鑄したる美術の作物
98才6	其國ヲ以テ	114   9	其國をして

56ウ8	肥大ナルヲ恃ミテ	64   12	大なるを恃みて
57才1	苦ム者	65   2	若む者
57ウ4	佛蘭西人	65   10	佛蘭人
63ウ3	戦フコト能ハサル者ハ弱國ナリ	74   7	戦ふこと能はざる者弱國なり
64才2	暇有ラン哉	75   2	暇有らん或
66ウ5	焦頭裂脚	78   1	焦頭烈脚
68才3	驍名ヲ世ニ播カンノミ	79   8	驍名を世に播さんのみ
71ウ7	某々々々大中小将	83   11	某々々大中小将
77才6	時務	90   5	時勢
90才3	割去ル	105   6	割る
90ウ2	若シ僕ノ二策ヲ取リテ	105   11	僕の二策を取りて
92才1	アタムスミツス	107   8	アタスミツス
94才2	寢ク	109   11	寝く
94才2	反對黨頗ル衆カリシモ	109   12	反對黨頗る衆かなりしも
94才7	礫ヲ擲テ之ヲ詬罵セシト云フ	110   3	礫を擲て之を詬罵せしと云ふ